

横須賀市障害福祉アンケート調査 調査結果報告書

平成29（2017）年12月
横須賀市

アンケート調査結果の概要

目次

| | |
|-------------------------|-----|
| アンケート調査結果の概要 | 1 |
| （１）調査目的..... | 1 |
| （２）調査対象..... | 1 |
| （３）調査期間・方法 | 1 |
| （４）回収結果..... | 1 |
| （５）調査項目..... | 2 |
| （６）調査結果の見方 | 3 |
| （７）調査結果..... | 4 |
| 1. 回答者について | 4 |
| 2. 福祉サービスについて | 16 |
| 3. 日中活動について | 27 |
| 4. 仕事について | 35 |
| 5. 医療ケアについて | 47 |
| 6. 教育・療育について..... | 50 |
| 7. 相談相手や情報の入手について | 54 |
| 8. 権利擁護について | 56 |
| 9. 災害時の避難等について | 59 |
| 10. 地域とのかかわりについて | 61 |
| 11. 自由記述の件数について..... | 65 |
| 12. 障害児について..... | 67 |
| 13. 発達障害の方について..... | 81 |
| 資料編..... | 101 |

アンケート調査結果の概要

(1) 調査目的

障害児者及び特定医療費（指定難病）受給者証所持者の現状やニーズを把握し、障害福祉計画の策定資料および今後の市の施策決定の参考資料として役立てる。

(2) 調査対象

- ① 身体障害者（65歳未満の身体障害者手帳所持者）
892人（うち18歳未満 58人）対象総数の約25%
- ② 知的障害児者（療育手帳所持者）
745人（うち18歳未満 222人）対象総数の約25%
- ③ 精神障害者（65歳未満の精神障害者保健福祉手帳所持者）
763人（うち18歳未満 8人）対象総数の約25%
- ④ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者（順次配布）
45人

(3) 調査期間・方法

発送：平成29年6月

投函期限：平成29年6月

最終締切：平成29年7月31日

調査方法：郵送配布及び郵送回収による郵送調査

ただし、④特定医療費（指定難病）受給者証所持者については団体を通じて配布した他、保健所の協力を得て対象となる患者が窓口来所した際にアンケートの配布を実施し、回収した。

(4) 回収結果

| | 発送数 | 回収数 | 回収率(%) |
|--------------|-------------|-------------|---------------|
| ①身体障害 | 892 (58) | 450 (22) | 50.4% (37.9%) |
| ②知的障害 | 745 (222) | 335 (84) | 44.9% (37.0%) |
| ③精神障害 | 763 (8) | 342 (5) | 44.8% (62.5%) |
| ④特定医療費(指定難病) | 45 | 20 | 44.4% |
| 合計 | 2,445 (288) | 1,147 (111) | 46.9% (38.5%) |

※（ ）内は18歳未満で内数

(5) 調査項目

調査対象（障害種別）ごとにアンケート用紙を分けてアンケートを実施した。分類ごとの設問番号を表している。

| | 質問概要 | 身体 | 知的 | 精神 | 指定難病 |
|---------------------------|---------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 回答者について | 回答者について | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 年齢 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| | 性別 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| | 特定疾病の種類 | - | - | - | 4 |
| | 手帳種別・程度 | 4 | 4 | 4 | 5 |
| | 身体障害部位 | 5 | 5 | 5 | 6 |
| | 障害支援区分 | 6 | 6 | 6 | 7 |
| | 指定難病・発達障害・高次脳機能障害の有無 | 7 | 7 | 7 | - |
| | 発達障害・高次脳機能障害の有無 | - | - | - | 8 |
| | 現在の暮らしの状況 | 8 | 8 | 8 | 9 |
| | 家族の有無 | 9 | 9 | 9 | 10 |
| | 今後の暮らしの希望 | 10 | 10 | 10 | 11 |
| | 地域で暮らす条件の希望 | 11 | 11 | 11 | - |
| | 介助の必要の有無 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 介助者 | 13 | 13 | 13 | 13 | |
| 収入の状況 | 14 | 14 | 14 | 14 | |
| 福祉サービスについて | 福祉サービスの利用状況・満足度等 | | | | |
| | ホームヘルプサービス(居宅介護など) | 15.01 | 15.01 | 15.01 | 15.01 |
| | ガイドヘルプサービス(移動支援など) | 15.02 | 15.02 | 15.02 | - |
| | 短期入所(ショートステイ) | 15.03 | 15.03 | 15.04 | 15.02 |
| | 入所施設(障害者支援施設など) | 15.04 | 15.04 | - | - |
| | 通所施設・デイサービス(児童向けサービスを含む) | 15.05 | 15.05 | 15.05 | - |
| | グループホーム | 15.06 | 15.06 | 15.06 | - |
| | 障害者相談サポートセンター(相談支援事業所を含む) | 15.07 | 15.07 | 15.07 | 15.07 |
| | 地域作業所(地域活動支援センターを含む) | 15.08 | 15.08 | 15.08 | - |
| | 訪問入浴サービス | 15.09 | - | - | - |
| | 手話通訳者の派遣 | 15.10 | - | - | - |
| | 要約筆記者の派遣 | 15.11 | - | - | - |
| | 日常生活用具の給付 | 15.12 | - | - | 15.04 |
| | 補装具の交付・修理 | 15.13 | - | - | - |
| | 住宅改修費の助成 | 15.14 | - | - | - |
| | 成年後見制度 | 15.15 | 15.09 | 15.09 | - |
| | デイケア | - | - | 15.03 | - |
| 訪問相談・指導 | - | - | - | 15.03 | |
| 相談会 | - | - | - | 15.05 | |
| 交流会・講演会 | - | - | - | 15.06 | |
| 障害サービス未利用の理由 | 16 | 16 | 16 | 16 | |
| 今後の福祉サービス利用意向 必要なサービス自由記述 | 17 | 17 | 17 | 17 | |
| 日中活動 | 外出頻度 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| | 外出時の同伴者 | 19 | 19 | 19 | 19 |
| | 外出の目的 | 20 | 20 | 20 | 20 |
| | 外出時に困ること | 21 | 21 | 21 | 21 |
| | 平日の日中の過ごし方 | 22 | 22 | 22 | 22 |
| 生活に必要な支援 | 23 | 23 | 23 | 23 | |

(つづき)

| | 質問概要 | 身体 | 知的 | 精神 | 指定難病 |
|---------------|---------------------------|----------|----|----|------|
| 就労について | 就労の有無 | 24 | 24 | 24 | 24 |
| | 不就労の理由 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| | 就労の意向 | 26 | 26 | 26 | 26 |
| | 今後仕事をしたくない(できない)理由 | 27 | 27 | 27 | 27 |
| | 仕事の内容 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| | 現就労の求職方法 | 29 | 29 | 29 | 29 |
| | 一週間の就労の頻度 | 30 | 30 | 30 | 30 |
| | 一日の労働時間 | 31 | 31 | 31 | 31 |
| | 今後の働き方の意向 | 32 | 32 | 32 | 32 |
| | その際の労働条件 | 33 | 33 | 33 | 33 |
| | その際の労働頻度 | 34 | 34 | 34 | 34 |
| | その際の一日の労働時間 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| | 障害者の労働に係る取組として希望するもの 自由記述 | 36 | 36 | 36 | 36 |
| | 医療 | 医療ケアについて | 37 | 37 | - |
| 自立支援医療受給者証の有無 | | - | - | 37 | - |
| 精神医療受診状況 | | - | - | 38 | - |
| 精神通院回数の増減 | | - | - | 39 | - |
| 通院頻度減少の理由 | | - | - | 40 | - |
| 教育関係 | 障害のある子どもの教育・療育で不足なもの | 38 | 38 | 41 | 38 |
| | 「本人・保護者とともにつくる支援シート」について | 39 | 39 | 42 | 39 |
| | 教育機関の個別の指導計画について | 40 | 40 | 43 | 40 |
| | 園や学校についての不満や不安 自由記述 | 41 | 41 | 44 | 41 |
| | 保育所等訪問支援の利用希望について | 42 | 42 | 45 | 42 |
| 相談 | 相談相手について | 43 | 43 | 46 | 43 |
| | 障害・福祉サービスの情報収集の場所 | 44 | 44 | 47 | 44 |
| 権利 | 差別や配慮不足の経験の有無 | 45 | 45 | 48 | 45 |
| | その具体的な場面 | 46 | 46 | 49 | 46 |
| | 障害者差別解消法の認知について | 47 | 47 | 50 | 47 |
| | 成年後見制度の認知について | 48 | 48 | 51 | 48 |
| 災害 | 災害時の単独避難の可否 | 49 | 49 | 52 | 49 |
| | 災害時援助者の有無 | 50 | 50 | 53 | 50 |
| | 災害時に不安に思うこと | 51 | 51 | 54 | 51 |
| 地域 | 行事の参加状況 | 52 | 52 | 55 | 52 |
| | 将来の行事参加意向 | 53 | 53 | 56 | 53 |
| | 行事に参加するための手助けや配慮について | 54 | 54 | 57 | 54 |
| | 行事に係る企画運営の意向 | 55 | 55 | 58 | 55 |
| 他 | 要望・自由記述 | 56 | 56 | 59 | 56 |

(6) 調査結果の見方

- ① 図中のカッコ内の人数は、設問・各選択肢への回答者数を示しています。
- ② 図中の小数点第1位までである数値は、設問の回答者に占める各選択肢への回答者数の割合を示しています。(単位：%)

(7) 調査結果

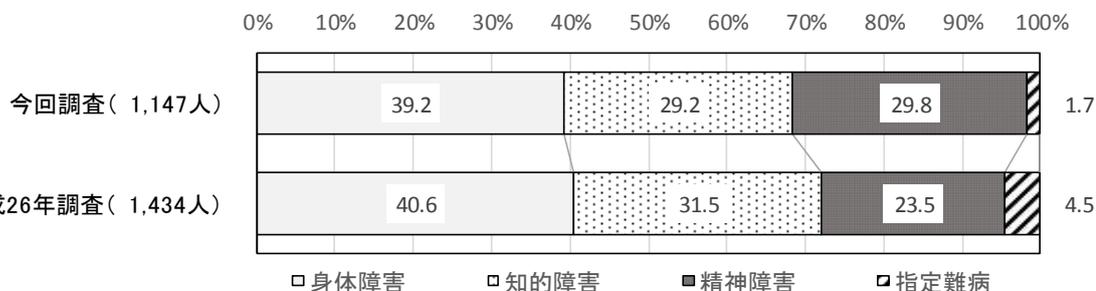
1. 回答者について

(1) 障害種類

回答者の障害種類は、身体障害(39.2%)、知的障害(29.2%)、精神障害(29.8%)、難病(1.7%)で、身体障害が約4割を占めています。

平成26年調査と比較すると、精神障害の割合が増え、身体障害、知的障害、難病の割合は減っています。

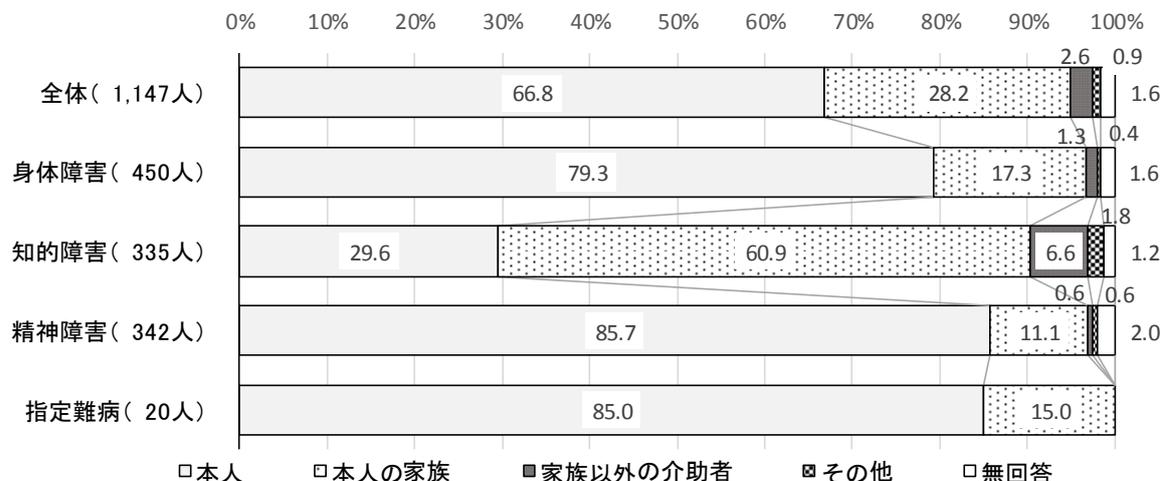
障害種類、前回との比較



(2) 回答者

回答者は、全体では66.8%が「本人(代筆を含む)」、28.2%が「本人の家族」となっています。知的障害では「本人の家族」の比率が高く60.9%となっています。

回答者



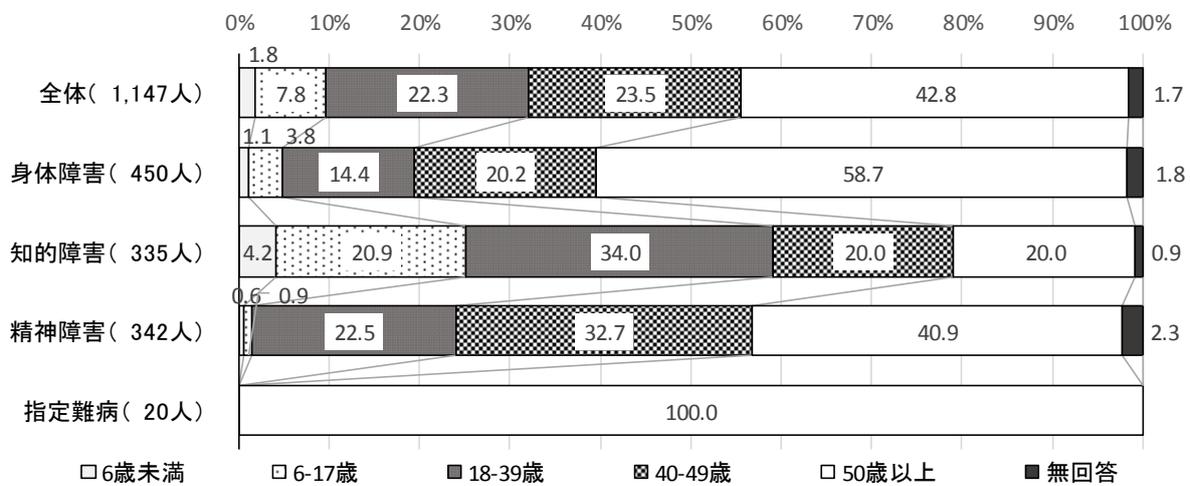
(3) 年齢と性別

回答者の年齢は、50歳以上が42.8%で、50歳未満は合わせて55.4%です。

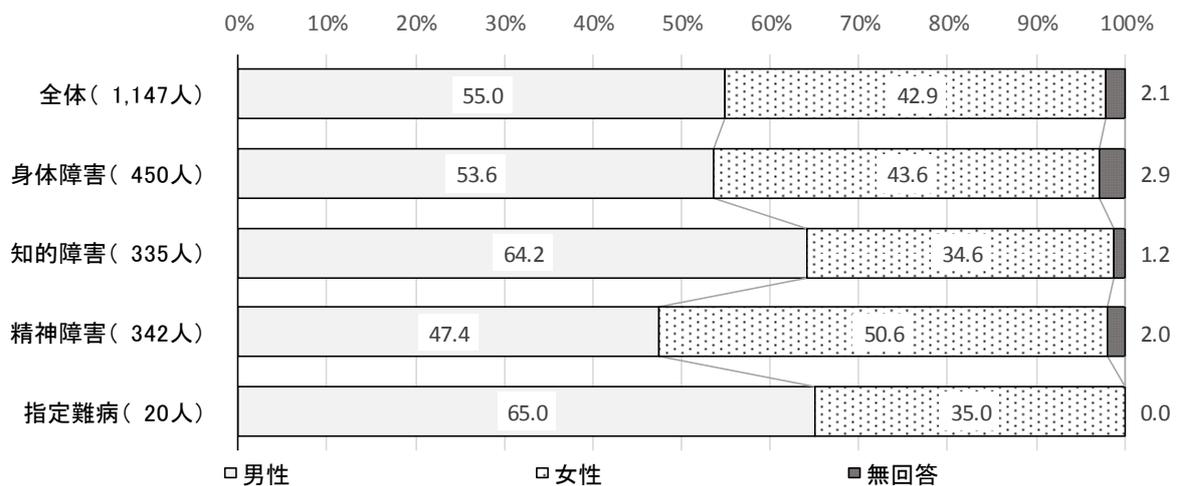
指定難病では100%、身体障害では58.7%、精神障害では40.9%が50歳以上と中高年層の比率が高くなっていますが、知的障害と精神障害では50歳未満の比率が高く、知的障害では18歳～39歳の若年の比率が34.0%となっています。

性別は、知的障害では男性が64.2%で女性より多くなっていますが、身体障害と指定難病ではやや男性が多く、精神障害では女性の方が多くなっています。

年齢、障害別



性別、障害別

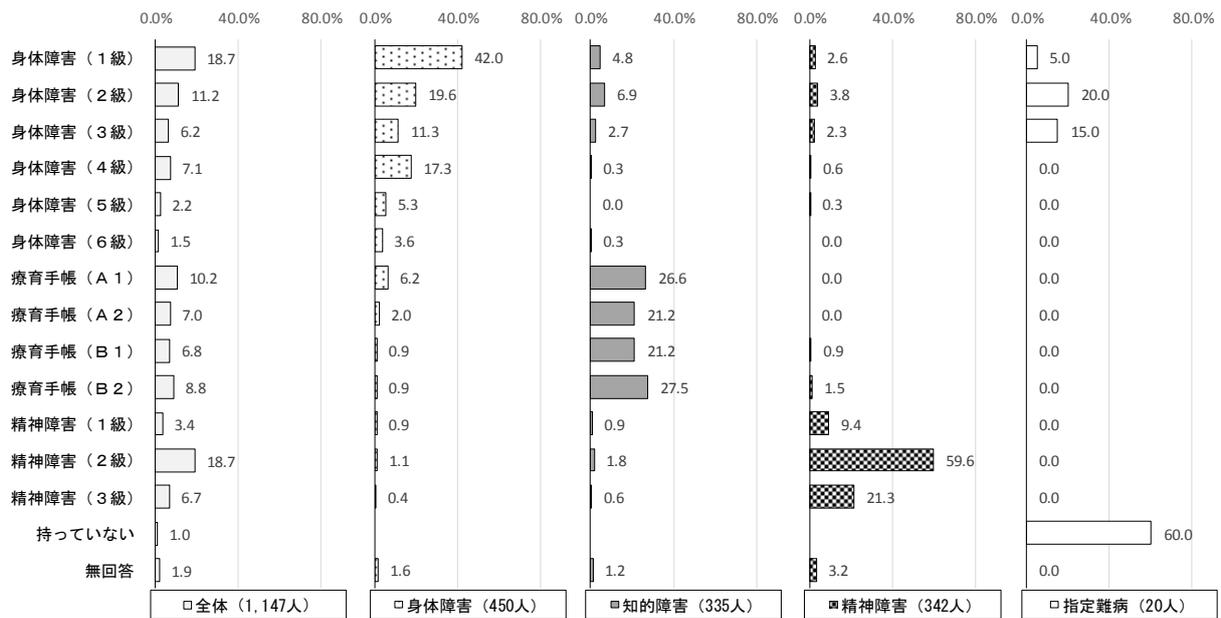


(4) 障害者手帳の手帳種別と障害程度

持っている手帳の種類は、身体障害では「身体障害者手帳（1級）」（42.0%）、知的障害では「療育手帳 A1」（26.6%）と「療育手帳 B2」（27.5%）、精神障害では「精神障害者保健福祉手帳（2級）」（59.6%）が多くなっています。

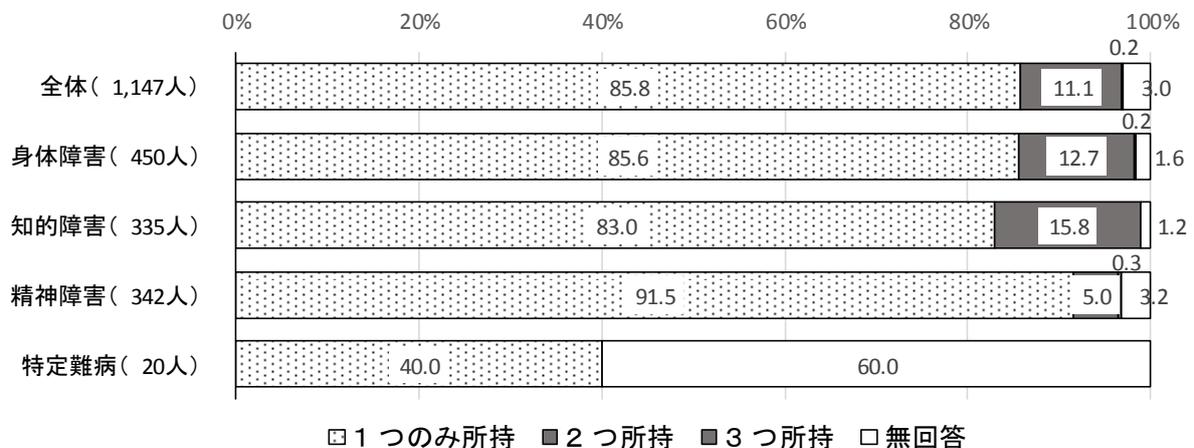
指定難病では、60.0%が「持っていない」としてはいますが、20.0%が「身体障害者手帳（2級）」を持っています。

障害者手帳の種類と等級、障害別（複数回答）



障害者手帳を複数所持している方は、回答者全体の 11.3%となっています。障害別でみると、知的障害が他と比べて 15.8%と多くなっています。

障害者手帳複数所持者



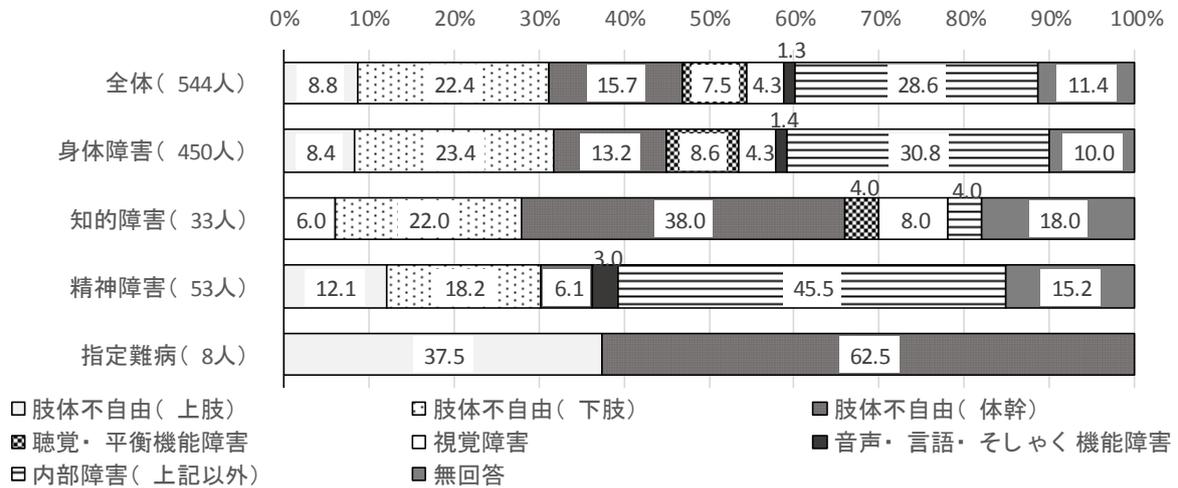
手帳を複数所有している人の内訳

| n | 障害者手帳の手帳種別とその障害程度 | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|-------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------|----------|----------|----------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | 合計 | 身体障害者手帳(1級) | 身体障害者手帳(2級) | 身体障害者手帳(3級) | 身体障害者手帳(4級) | 身体障害者手帳(5級) | 身体障害者手帳(6級) | 療育手帳(A1) | 療育手帳(A2) | 療育手帳(B1) | 療育手帳(B2) | 精神障害者保健福祉手帳(1級) | 精神障害者保健福祉手帳(2級) | 精神障害者保健福祉手帳(3級) |
| 全体 | 129 | 44 | 39 | 16 | 13 | 3 | 5 | 61 | 15 | 14 | 16 | 11 | 24 | 5 |
| 障害者手帳の手帳種別とその障害程度 | 身体障害者手帳(1級) | 44 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 33 | 3 | 1 | 0 | 2 | 3 | 0 |
| | 身体障害者手帳(2級) | 39 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 19 | 6 | 1 | 4 | 3 | 4 | 0 |
| | 身体障害者手帳(3級) | 16 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 | 3 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 |
| | 身体障害者手帳(4級) | 13 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 2 | 1 | 1 | 3 | 1 |
| | 身体障害者手帳(5級) | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 身体障害者手帳(6級) | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| | 療育手帳(A1) | 61 | 33 | 19 | 7 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 療育手帳(A2) | 15 | 3 | 6 | 3 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | 療育手帳(B1) | 14 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 4 | 0 |
| | 療育手帳(B2) | 16 | 0 | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 6 | 3 | 0 |
| | 精神障害者保健福祉手帳(1級) | 11 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| | 精神障害者保健福祉手帳(2級) | 24 | 3 | 4 | 1 | 3 | 0 | 2 | 0 | 1 | 4 | 6 | 0 | 0 |
| | 精神障害者保健福祉手帳(3級) | 5 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 |

(5) 身体障害の主な障害部位

全体では、「内部障害」が28.6%と最も多くなっています。

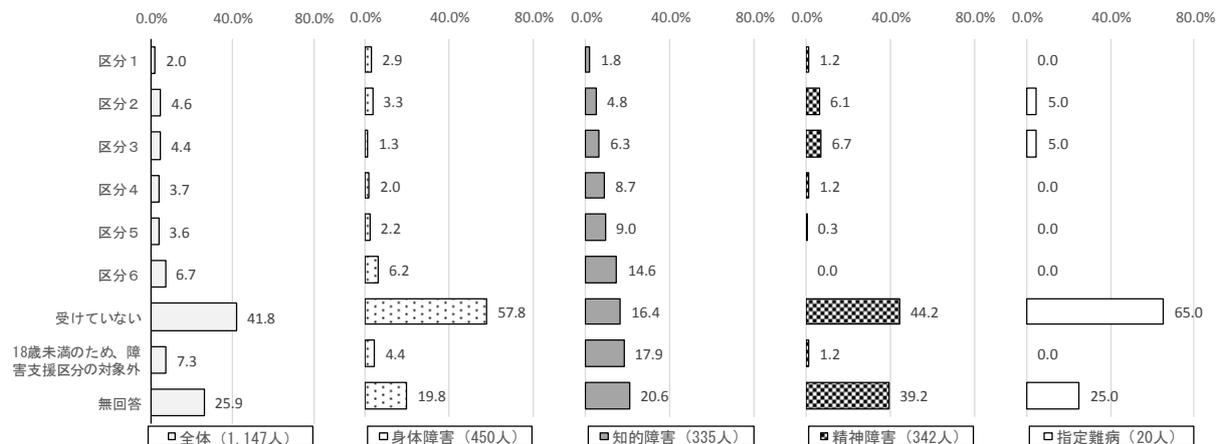
身体障害の主な障害部位



(6) 障害支援区分の認定

全体の約4割の人が障害支援区分の認定を「受けていない」としています。障害別に見ると、身体障害（57.8%）、精神障害（44.2%）、指定難病（65.0%）に「受けていない」とする人が多く、知的障害では16.4%となっています。

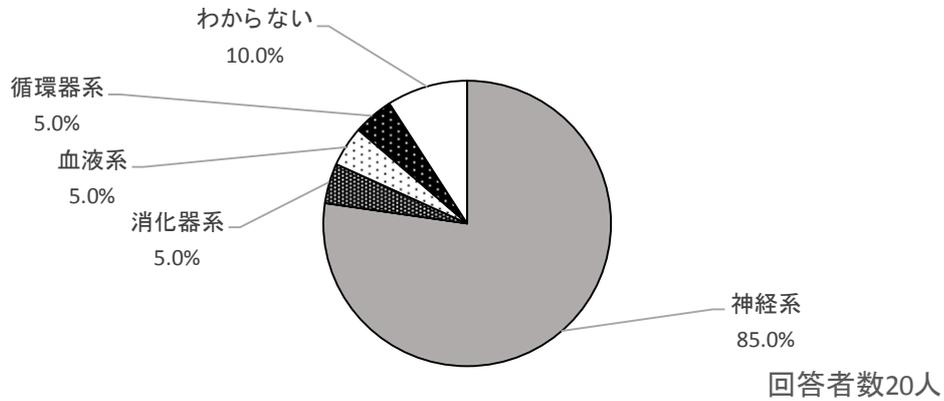
障害支援区分の認定、障害別



(7) 指定難病の種類

神経系（85.0%）が最も多くなっています。

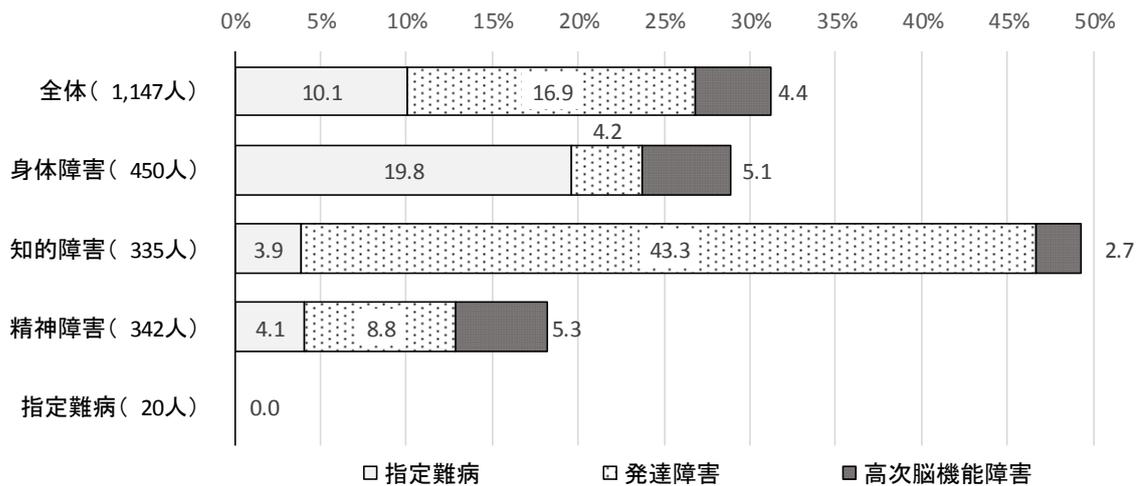
指定難病の種類



(8) 指定難病、発達障害、高次脳機能障害について

障害者手帳の他に、指定難病や発達障害、高次脳機能障害について認定あるいは診断を受けた人について、全体では、「発達障害」（16.9%）が最も多くなっています。特に知的障害では43.3%と多くなっています。

難病や発達障害、高次脳機能障害について認定あるいは診断を受けたもの



※無回答除く

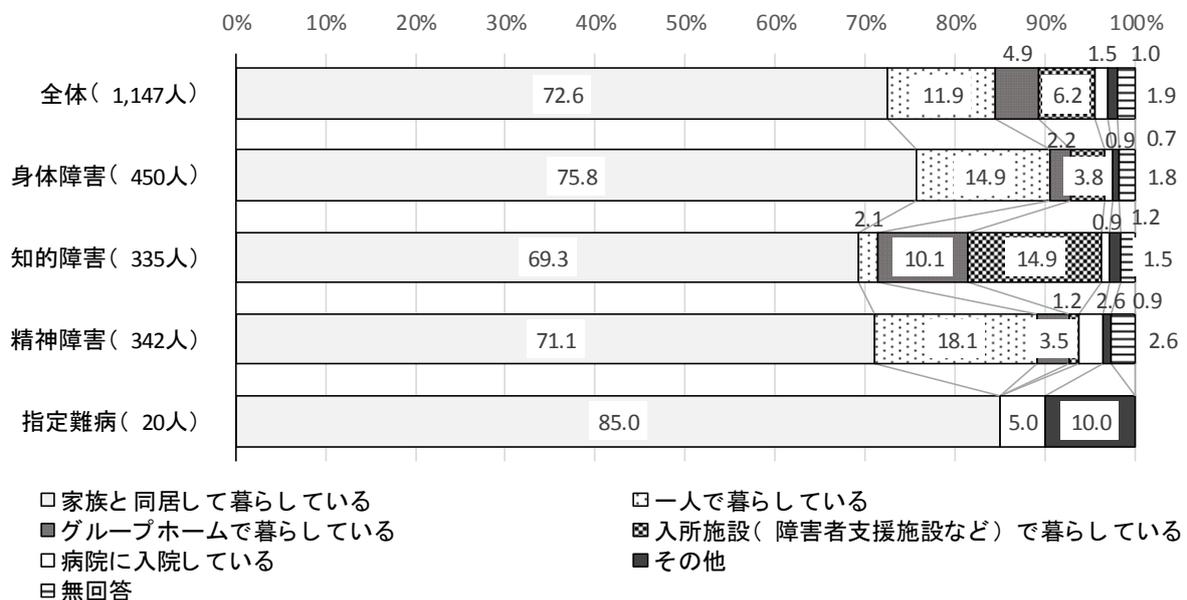
(9) 現在の暮らしの状況

現在、どのように暮らしているかについて、全体の 72.6%は「家族と同居して暮らしている」、11.9%は「一人で暮らしている」となっています。精神障害では他の障害と比べて「一人で暮らしている」比率が 18.1%とやや高くなっています。また、知的障害では 14.9%が「入所施設で暮らしている」としており、他の障害に比べて比率が高くなっています。

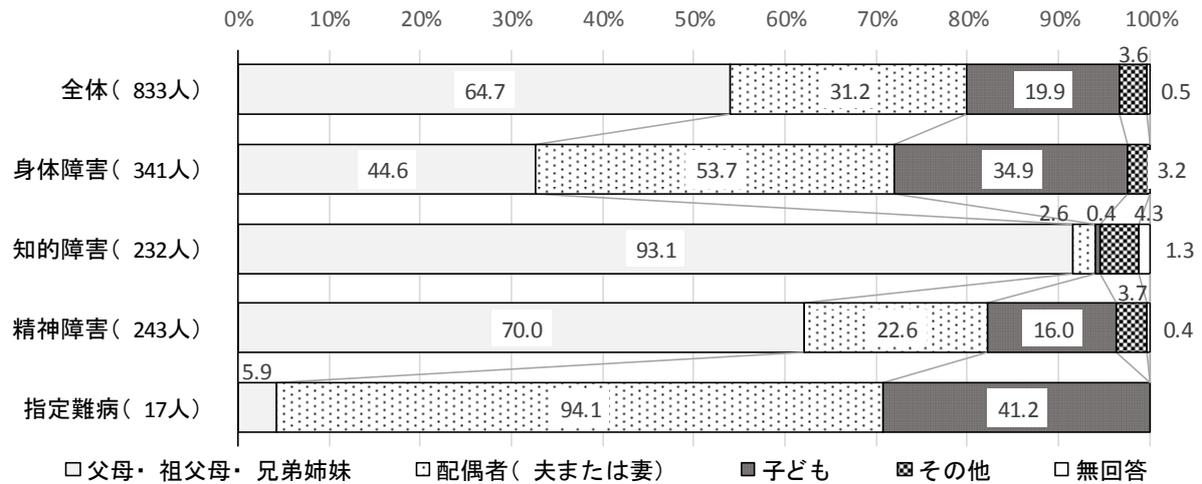
「一緒に暮らしている人」は、全体の 64.7%が「父母・祖父母・兄弟姉妹」としており、身体障害の 53.7%と難病の 94.1%は配偶者（夫または妻）としています。また、知的障害の 93.1%、精神障害の 70.0%が「父母・祖父母・兄弟姉妹」としています。

年齢別に見ると、年齢が低いほど「家族と同居して暮らしている」比率が高く、年齢が高いほど「一人で暮らしている」、「グループホームで暮らしている」、「入所施設で暮らしている」「病院に入院している」比率が増えていくことがわかります。

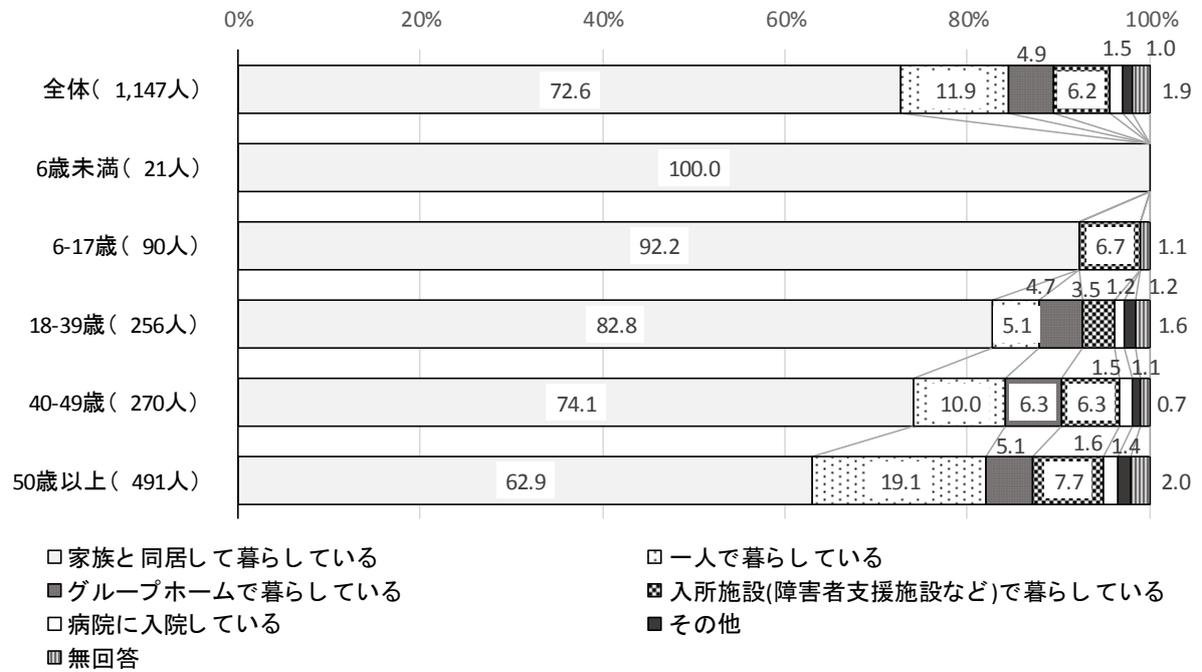
現在の暮らし、障害別



「家族と同居して暮らしている」のうち、一緒に暮らしている人、障害別

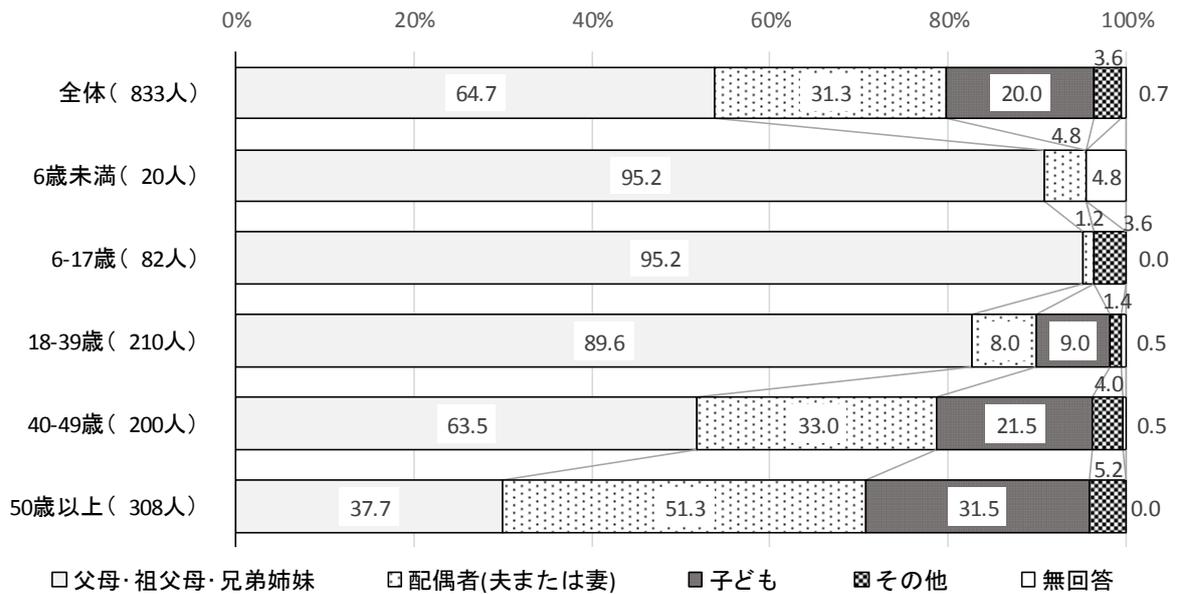


現在の暮らし、年齢別



※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

「家族と同居して暮らしている」のうち、一緒に暮らしている人、年齢別



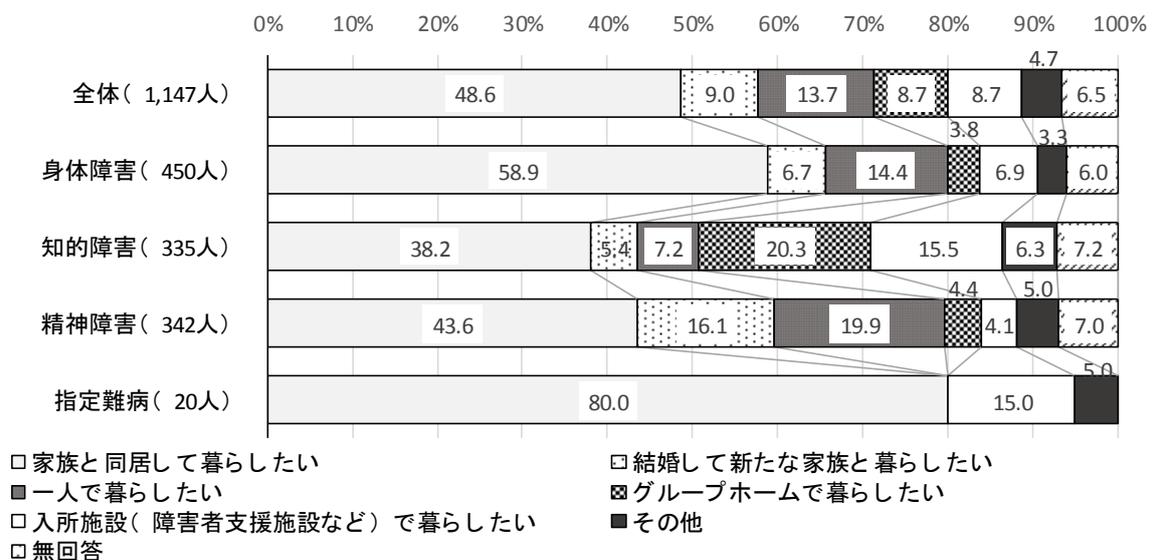
※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(10) 今後の暮らしの希望

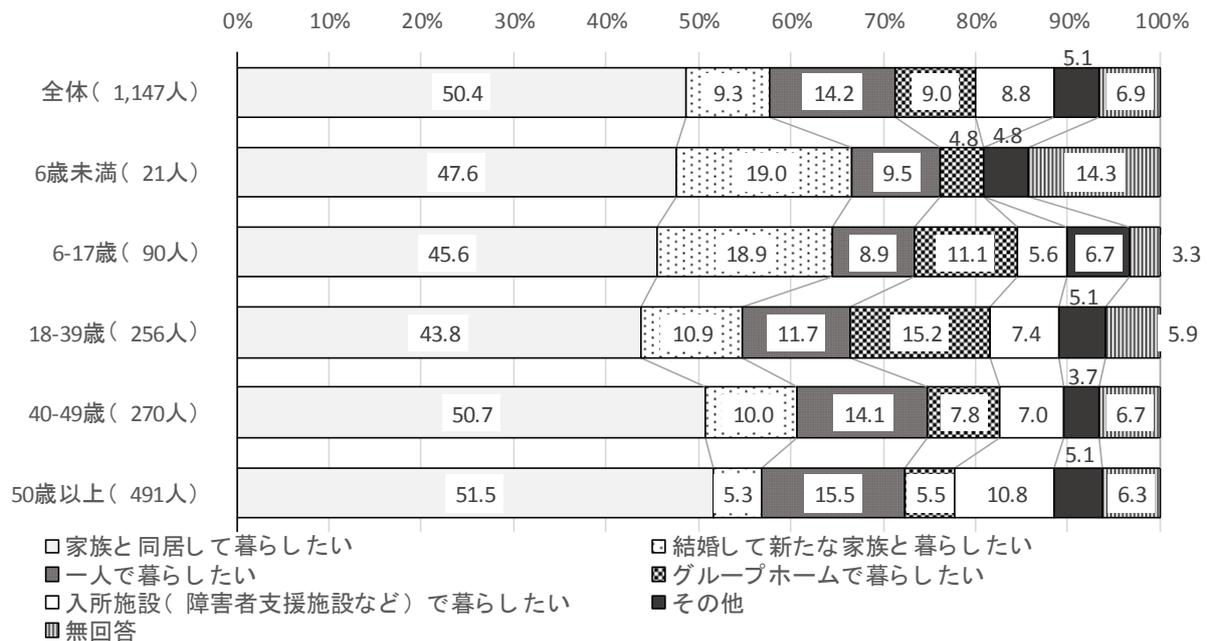
今後の暮らしについて、全体では「家族と同居して暮らしたい」(48.6%)が約半数で、「一人で暮らしたい」が13.7%になっています。

知的障害ではグループホームや入所施設での暮らしを望む人も多く、「グループホームで暮らしたい」は20.3%、「入所施設で暮らしたい」は15.5%で、合わせると4割近くを占めています。

今後の暮らし、障害別



今後の暮らし、年齢別

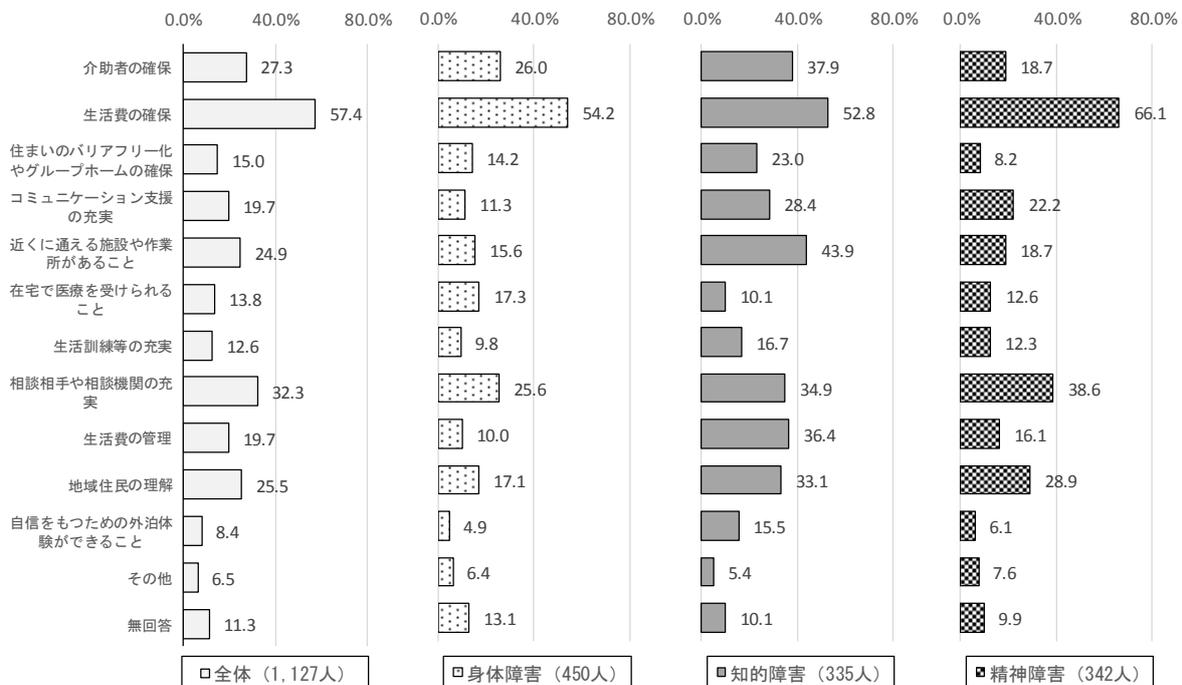


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(11) 地域で暮らす条件としての希望

地域で暮らす条件として、「生活費の確保」が身体障害で54.2%、知的障害で52.8%、精神障害で66.1%と、いずれの障害においても最も上位にあげられています。

地域で暮らす条件(複数回答)

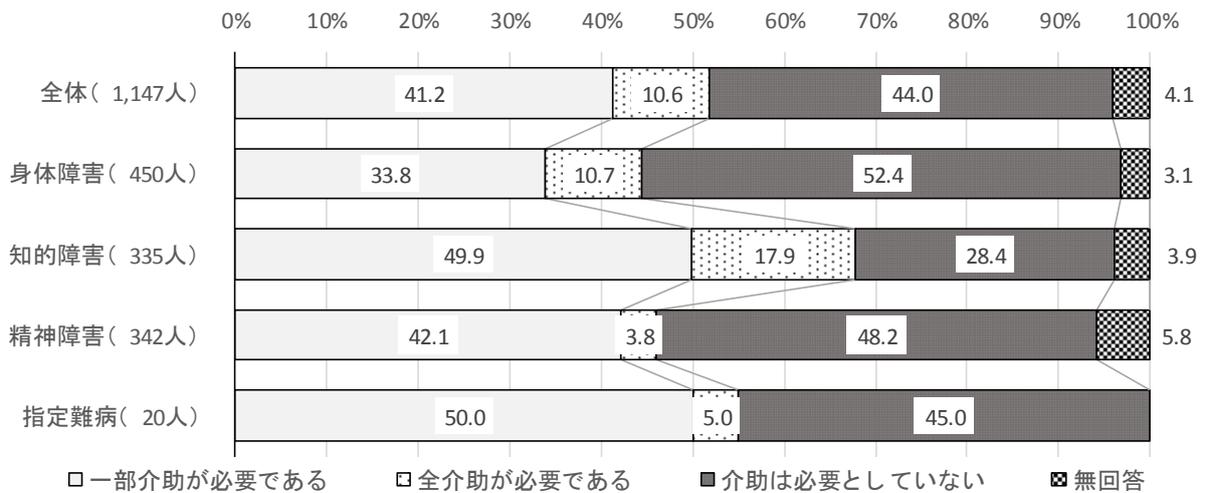


(12) 日常生活での介助の必要の有無

「全介助が必要である」は 10.6%となっており、51.8%が何らかの介助を必要としています。

知的障害、指定難病では何らかの介助を必要とする比率が高くなっています。特に知的障害では約7割が介助を必要としており、「全介助が必要である」とする比率が 17.9%で、他の障害に比べて高くなっています。

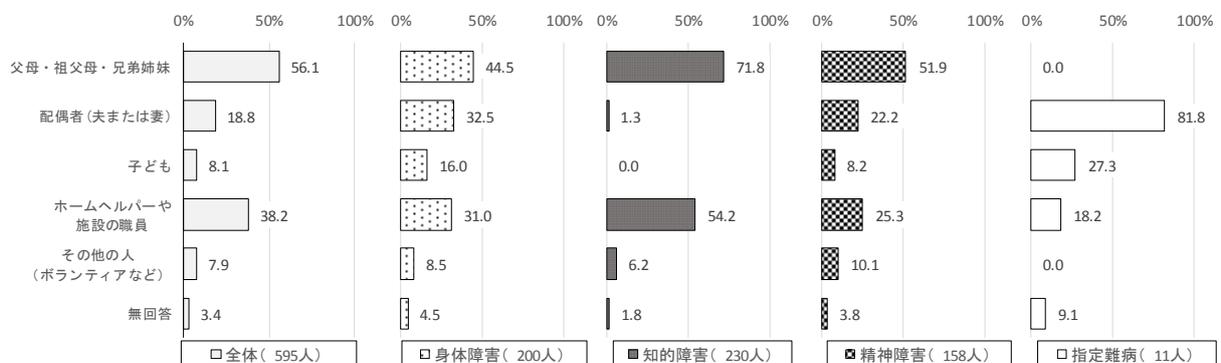
日常生活での介助の必要



(13) 介助してくれる人

介助が必要な人のうち、介助してくれる人については、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(56.1%) が最も多くなっています。知的障害では、「父母・祖父母・兄弟姉妹」(71.8%) の次に「ホームヘルパーや施設の職員」(54.2%) も多くなっています。

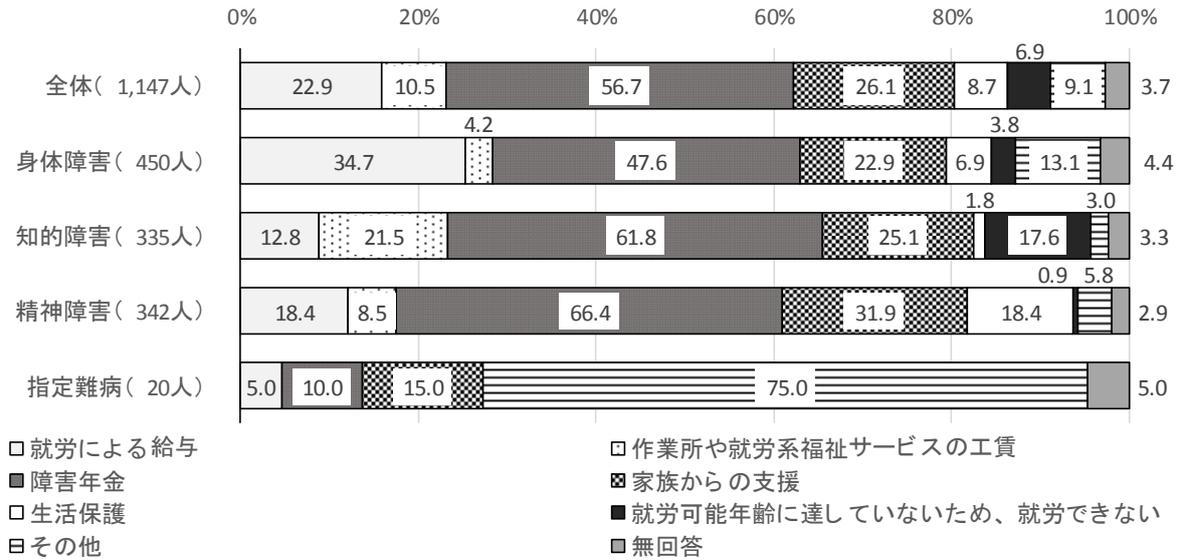
介助してくれる人(複数回答)



(14) 収入の状況

「障害年金」(56.7%)が最も多く、次いで「家族からの支援」(26.1%)、「就労による給与」(22.9%)となっています。「就労による給与」については、身体障害で34.7%と他と比べて多くなっています。

収入の状況



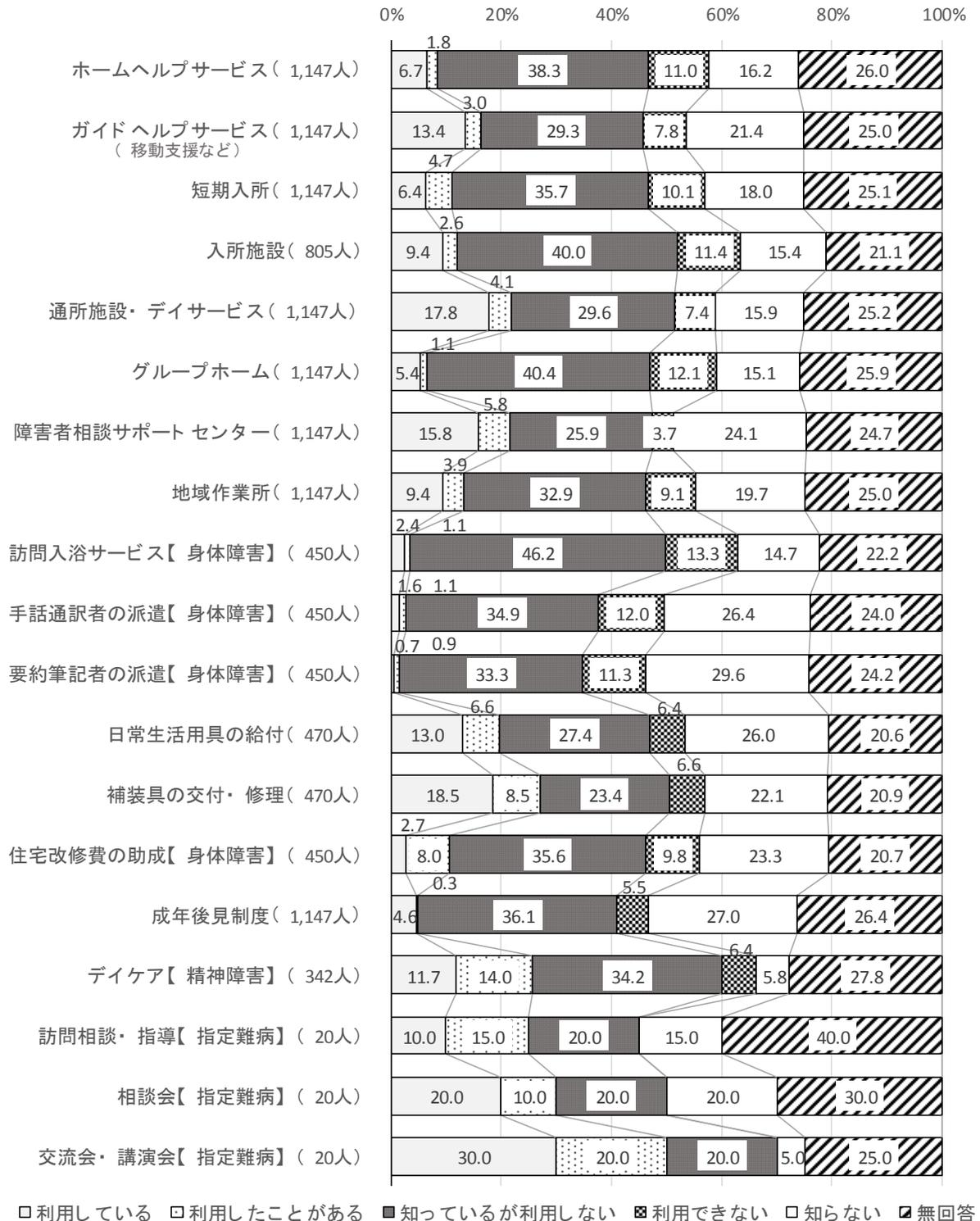
2. 福祉サービスについて

(1) 福祉サービスの利用状況

福祉サービスの利用状況は次頁の通りです。

対象者の5%以上の人が利用している福祉サービスは、交流会・講演会【指定難病】（30.0%）、相談会【指定難病】（20.0%）、補装具の交付・修理（18.5%）、通所施設・デイサービス（17.8%）、障害者相談サポートセンター（15.8%）、ガイドヘルプサービス（13.4%）、日常生活用具の給付（13.0%）、デイケア【精神障害】（11.7%）、訪問相談・指導【指定難病】（10.0%）、入所施設（9.4%）、地域作業所（9.4%）、ホームヘルプサービス（6.7%）、短期入所（6.4%）、となっています。

福祉サービスの利用状況



(2) 福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

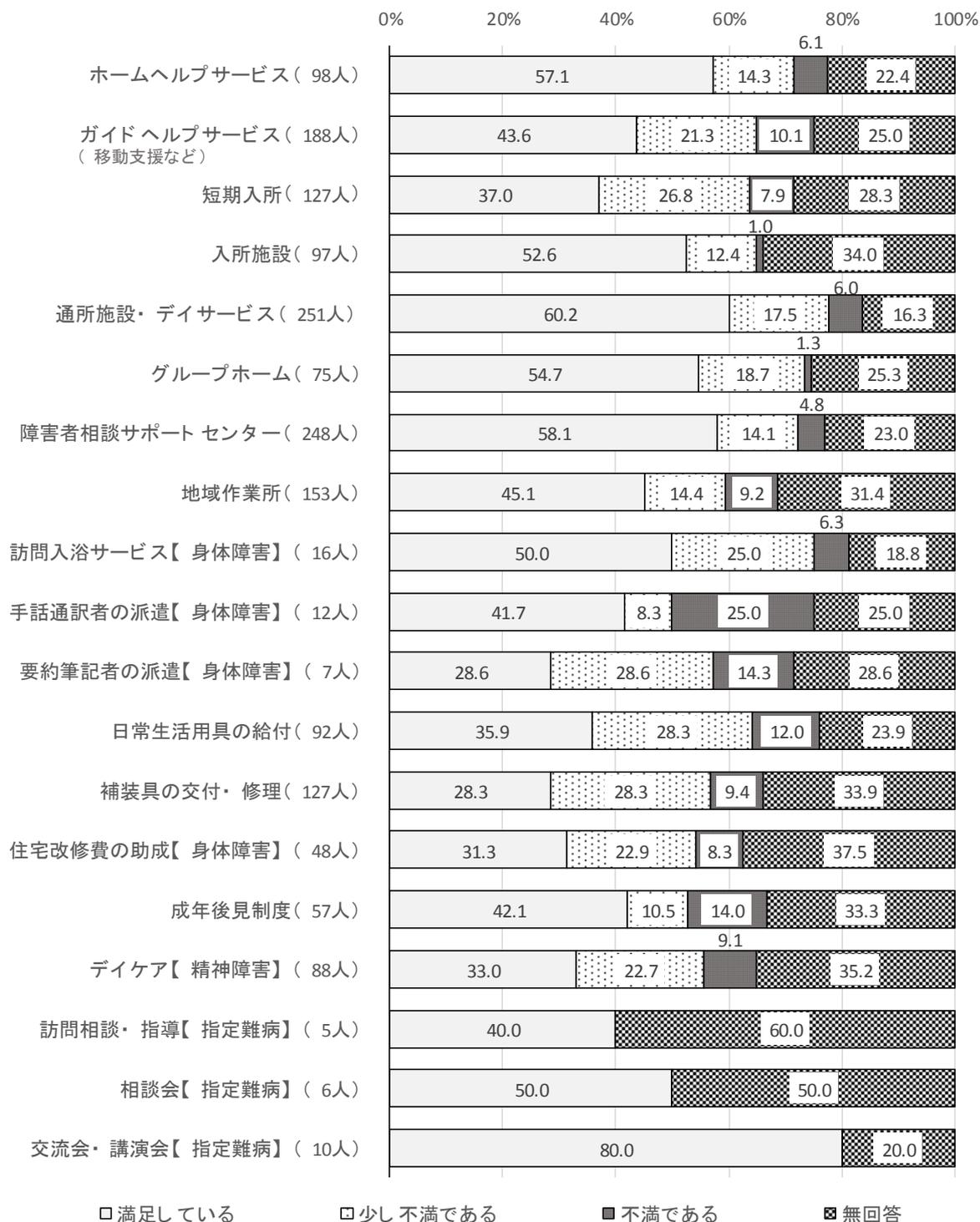
福祉サービスの満足度は次頁の通りです。

19のサービスのうち15のサービスにおいて、「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より高く、満足度の高いサービスが多いことがわかります。

中でもホームヘルプサービス、入所施設、通所施設・デイサービス、グループホーム、障害者相談サポートセンター、地域作業所は「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より20ポイント以上高くなっています。

要約筆記者の派遣、日常生活用具の給付、補装具の交付・修理、住宅改修費の助成では、「満足している」より「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合の方が高く、満足度が低くなっています。

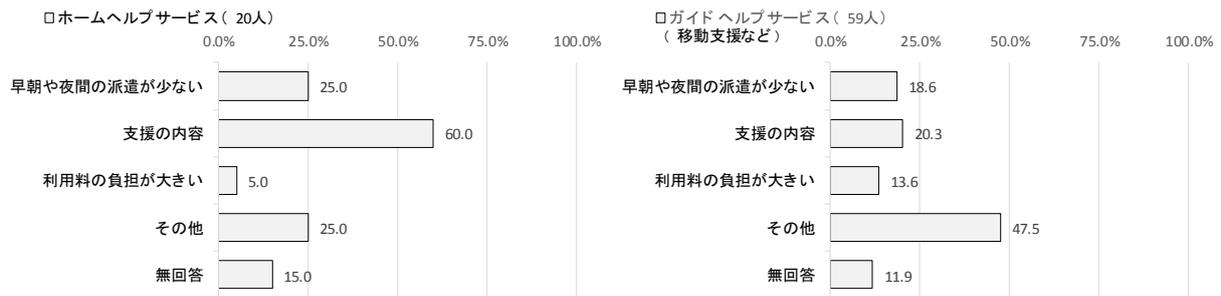
福祉サービスの満足度（利用経験のある方）



(3) 不満である理由（「不満である」または「少し不満である」方）

福祉サービスの利用における主な不満の内容を見ると、ホームヘルプサービスでは「支援の内容」、短期入所では「緊急時に使いにくい」や「土日や夏休みなどに予約が重なって使えないことがある」、障害者相談サポートセンターでは「何を相談してよいかわからない」、地域作業所では「作業の内容が自分に合わない」、訪問入浴サービスでは「利用回数」、手話通訳者の派遣では「早朝や夜間の派遣が少ない」、日常生活用具の給付と補装具の交付・修理では「自由に買い替えられない」、住宅改修費の助成では「対象となる工事の範囲」や「助成を受けられる回数」、成年後見制度では「支援の内容」、デイケア【精神障害】では「自分に合うプログラムがない」ことがあげられています。

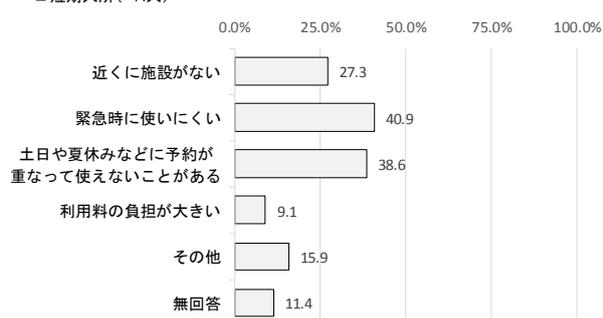
不満である理由（「不満である」または「少し不満である」方）



| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス時間が不十分 | 3 |
| サービス提供内容が不十分 | 2 |
| 人手不足 | 1 |
| ヘルパーの質 | 1 |
| 利用できる事業所が少ない | 1 |

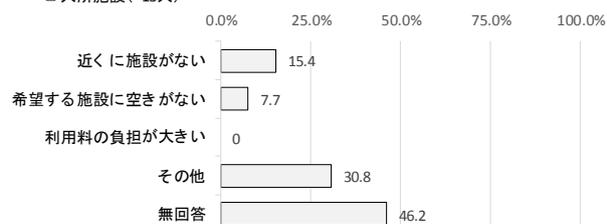
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------------|----|
| 人手不足 | 12 |
| サービス時間が不十分 | 5 |
| ヘルパーの質 | 3 |
| 予約ができない | 3 |
| 利用できない時間帯 | 3 |
| 急に必要になった時に利用できない | 2 |
| 利用できる事業所が少ない | 2 |
| サービス提供不足 | 1 |
| 作業に不満 | 1 |
| 利用できない対象 | 1 |
| 利用への不安 | 1 |

□短期入所(44人)



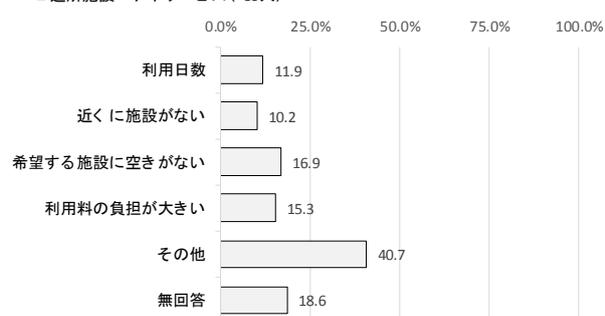
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|-------------|----|
| 予約ができない | 5 |
| サービス利用日数が不足 | 1 |
| 施設の差 | 1 |
| 人手不足 | 1 |
| 利用したくない | 1 |
| 利用できない対象 | 1 |

□入所施設(13人)



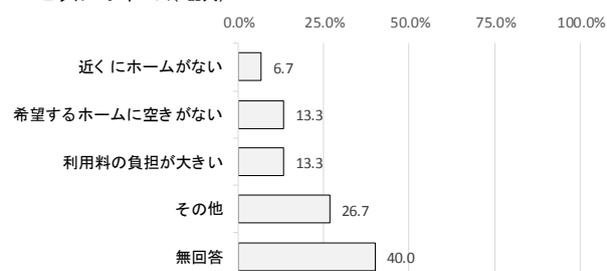
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------|----|
| 行動の制限 | 3 |
| 施設利用の不慣れ | 1 |
| 職員の質 | 1 |
| 設備が古い | 1 |
| 遠い | 1 |
| 人手不足 | 1 |
| 余暇活動が不十分 | 1 |

□通所施設・デイサービス(59人)



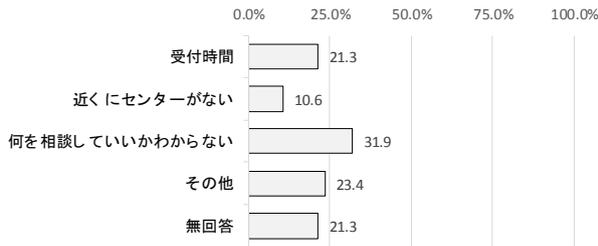
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 7 |
| 職員の質 | 5 |
| サービス時間が不十分 | 3 |
| 人間関係による | 3 |
| 予約ができない | 3 |
| 楽しくない | 2 |
| 利用できない対象 | 2 |
| 利用への不安 | 2 |
| 就職に結びつかなかった | 1 |
| 手続きの負担 | 1 |
| 遠い | 1 |
| 人手不足 | 1 |
| 負担額 | 1 |
| 利用できなくなった | 1 |

□グループホーム(15人)



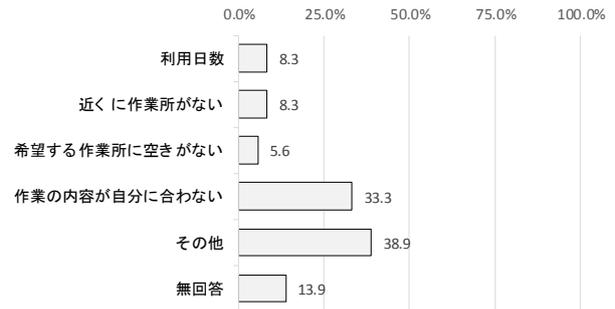
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| 利用できない時間帯 | 3 |
| サービス提供内容が不十分 | 2 |
| 人手不足 | 1 |

□障害者相談サポートセンター(47人)



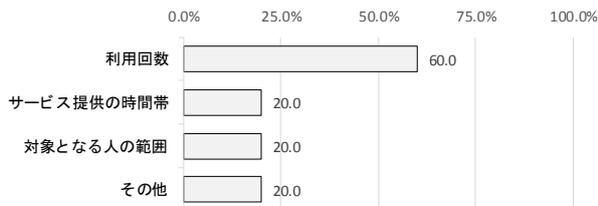
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 7 |
| 職員の質 | 2 |
| 利用できない時間帯 | 2 |
| サービス時間が不十分 | 1 |
| 人間関係による | 1 |
| 人手不足 | 1 |
| 予約ができない | 1 |
| 利用への不安 | 1 |

□地域作業所(36人)



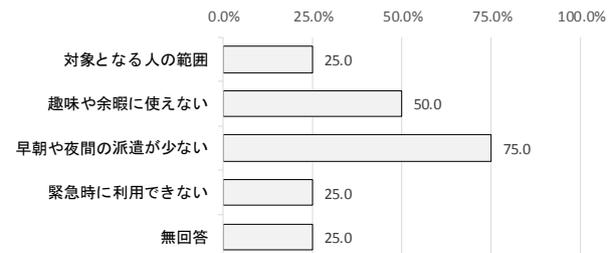
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------|----|
| 人間関係による | 4 |
| 工賃が安い | 3 |
| 職員の質 | 3 |
| サービス時間が不十分 | 2 |
| 負担が大きい | 2 |
| 作業場が合わない | 1 |

□訪問入浴サービス【身体障害】(5人)

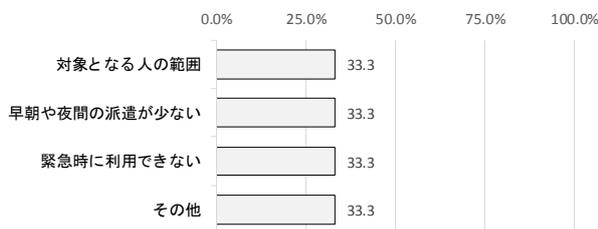


| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 1 |
| 利用環境 | 1 |

□手話通訳者の派遣【身体障害】(4人)

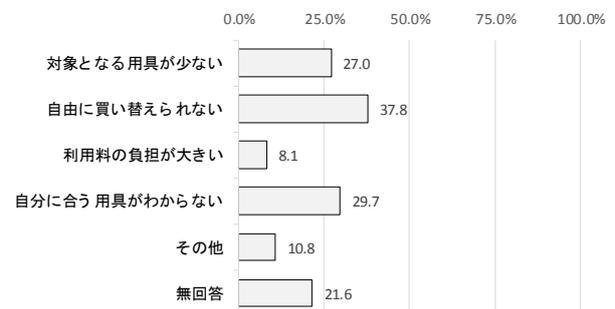


□要約筆記者の派遣【身体障害】(3人)



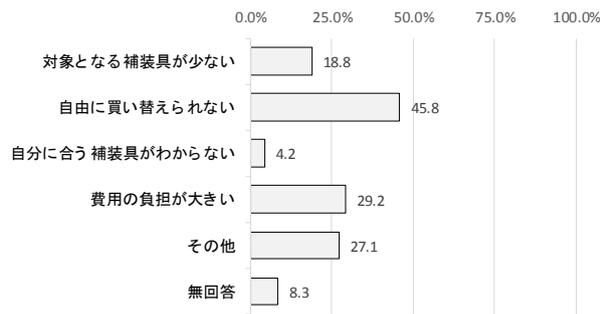
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------|----|
| 教育現場 | 1 |

□日常生活用具の給付(48人)



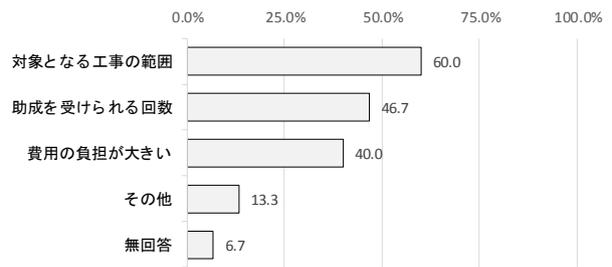
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 2 |
| 利用できない対象 | 2 |
| 壊れる | 1 |

□補装具の交付・修理(48人)



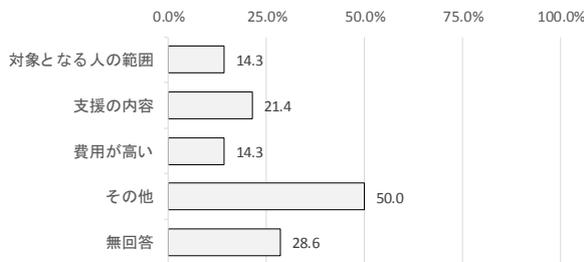
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| 手続きの負担 | 4 |
| 壊れる | 3 |
| 自分に合わない | 2 |
| サービス提供内容が不十分 | 1 |
| 障害への理解不足 | 1 |
| 利用できない対象 | 1 |

□住宅改修費の助成【身体障害】(15人)



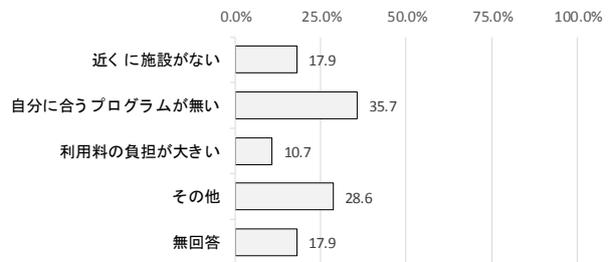
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 1 |

□成年後見制度(14人)



| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------|----|
| 費用が高い | 3 |
| 負担が大きい | 3 |
| 状況が分からない | 2 |

□デイケア【精神障害】(28人)



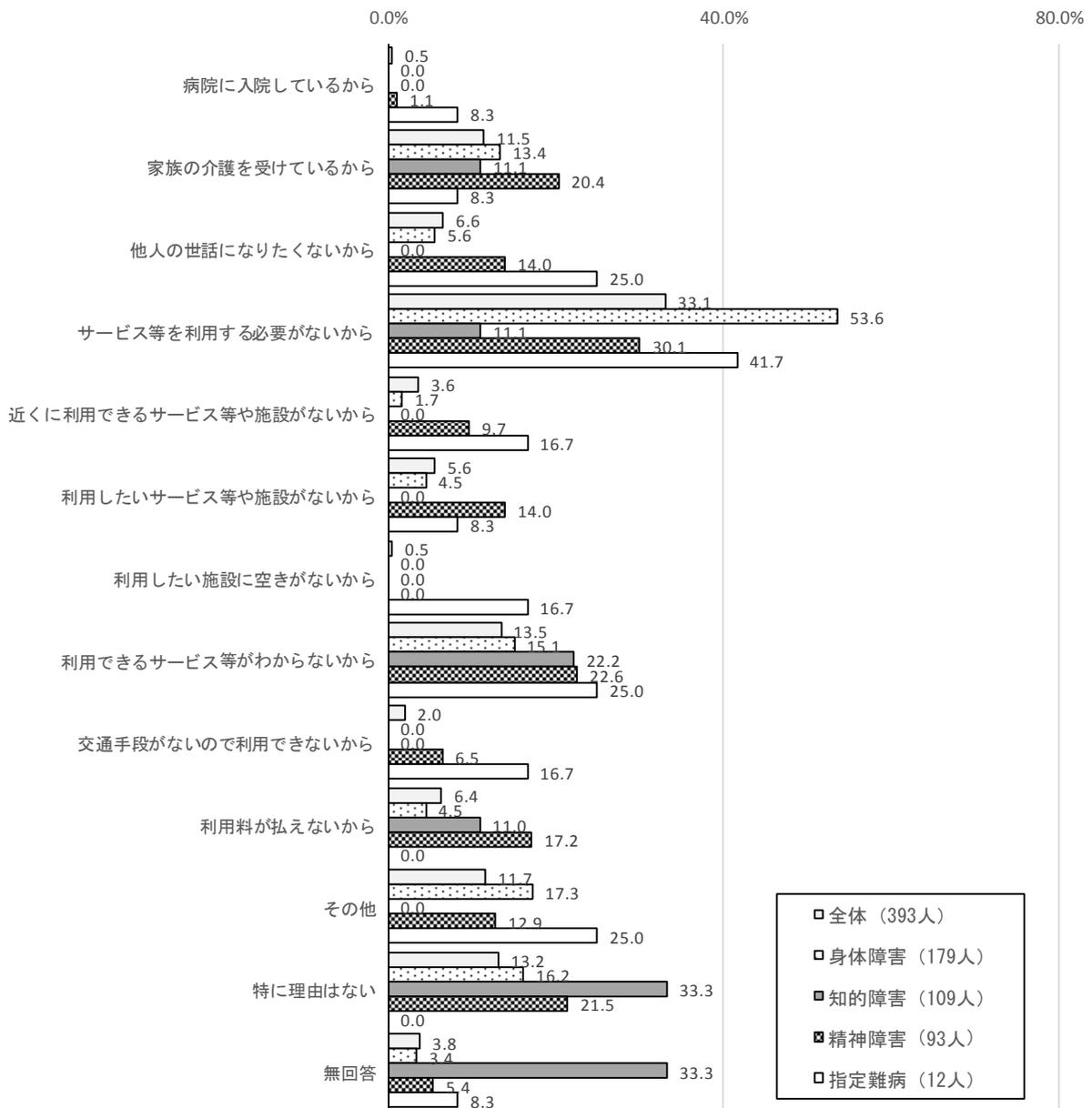
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| 人間関係による | 6 |
| サービス提供内容が不十分 | 2 |
| 楽しくない | 2 |
| 予約ができない | 1 |

※その他の内容について、1件につき複数の意見が記載されており、「その他」件数と不満の理由の件数は一致しない。

(4) 福祉サービスを利用していない理由

福祉サービスを利用していない理由で最も多いのは、「サービス等を利用する必要がないから」(33.1%)となっています。特に身体障害では「サービス等を利用する必要がないから」とする人が53.6%を占めています。また、知的障害では「特に理由はない」(33.3%)が最も多く、精神障害では「利用できるサービス等がわからないから」(22.6%)が「サービス等を利用する必要がないから」(30.1%)と同等に多くなっています。

サービスを利用していない理由、障害別(複数回答)



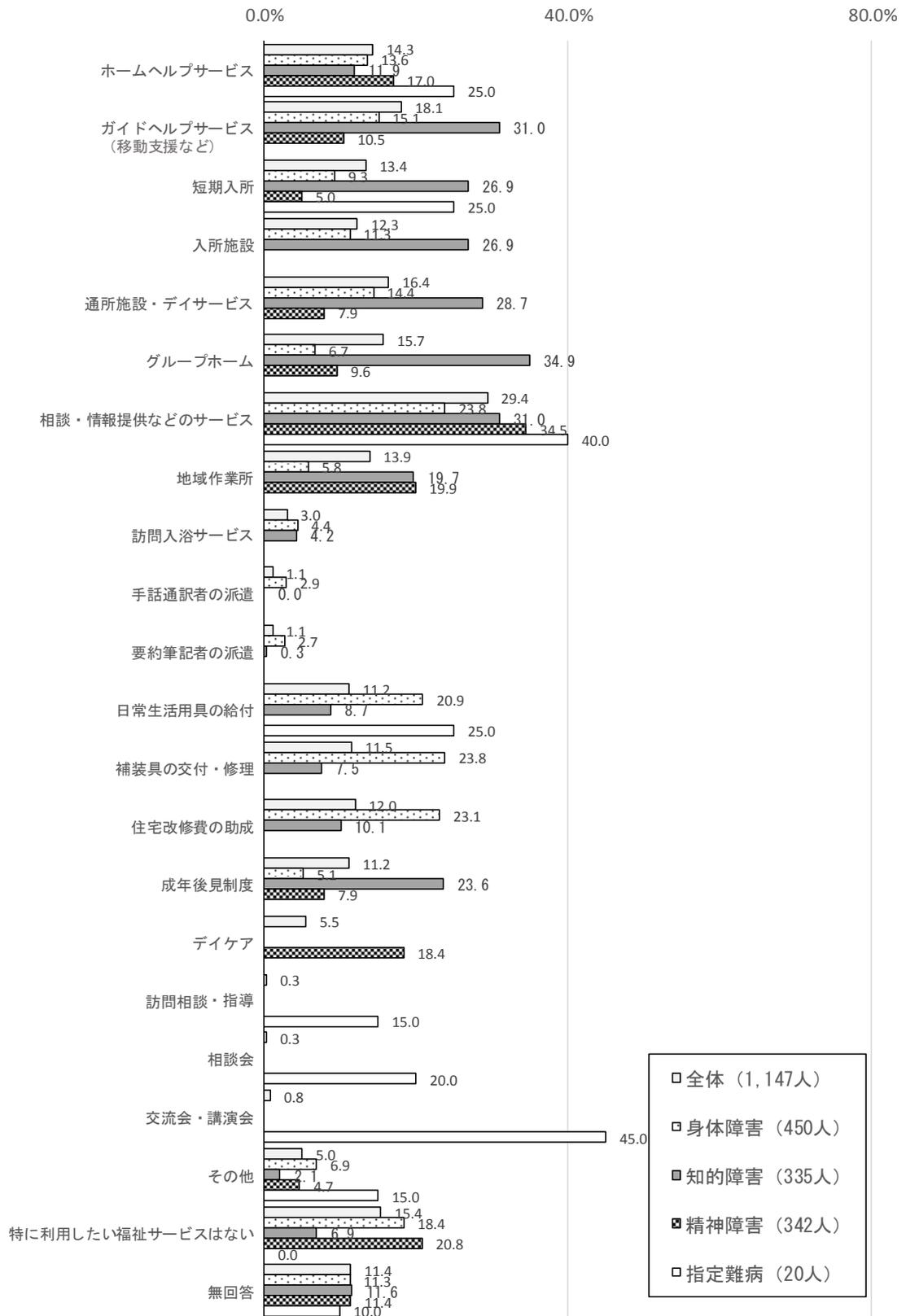
(5) 今後の福祉サービスの利用希望

今後利用したい福祉サービス等は、身体障害では「補装具の交付・修理」(23.8%)、知的障害では「グループホーム」(34.9%)、精神障害では「相談・情報提供などのサービス」(34.5%)、指定難病では「交流会・講演会」(45.0%)の割合が最も高くなっています。

「相談・情報提供などのサービス」は、身体障害(23.8%)、知的障害(31.0%)、指定難病(40.0%)でも多くあげられています。

また、知的障害では「ガイドヘルプサービス」(31.0%)、「通所施設・デイサービス」(28.7%)、「入所施設」と「短期入所」(26.9%)、「成年後見制度」(23.6%)の割合も高く、多くのサービスへの利用意向が見られます。

今後利用したいサービス、障害別(複数回答)

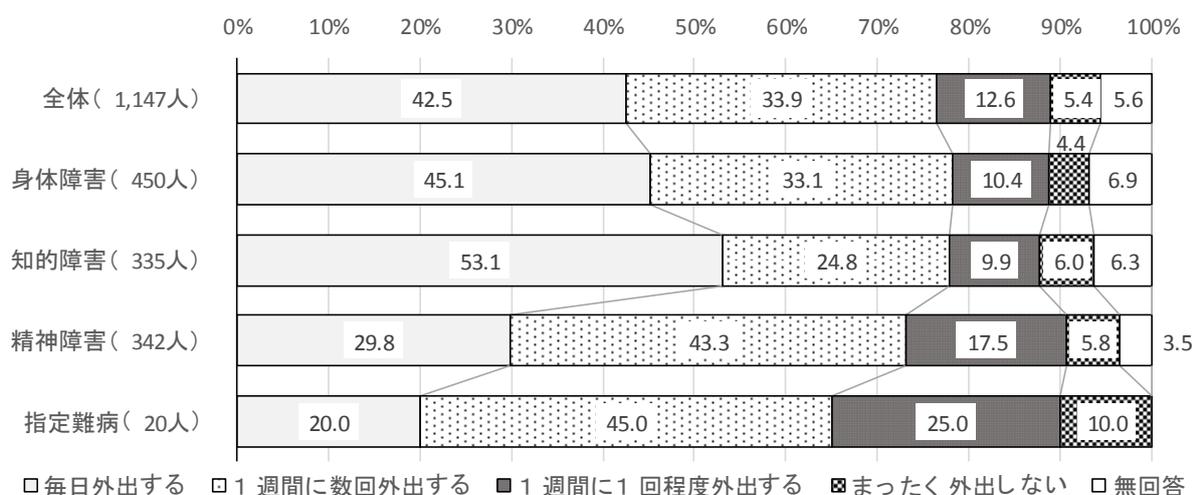


3. 日中活動について

(1) 1週間の外出頻度

「毎日外出する」が 42.5%、「1週間に数回外出する」が 33.9%となっています。知的障害では「毎日外出する」（53.1%）とする人が多く、精神障害（43.3%）と指定難病（45.0%）では「1週間に数回外出する」とする人が多くなっています。

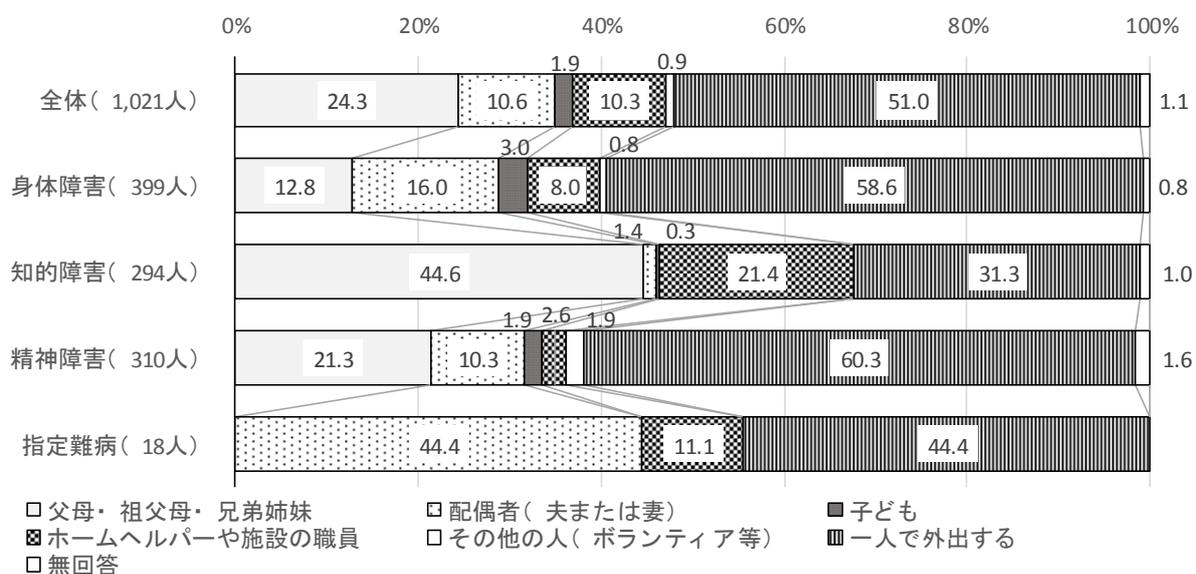
外出の頻度、障害別



(2) 外出時の同伴者

最も多いのは、「一人で外出する」(51.0%)となっています。障害別に見ると、精神障害の60.3%、身体障害の58.6%、指定難病の44.4%が「一人で外出する」としていますが、知的障害では31.3%と少なくなっています。知的障害の44.6%が「父母・祖父母・兄弟姉妹」としており、半数近くが家族と一緒に外出していることがわかります。

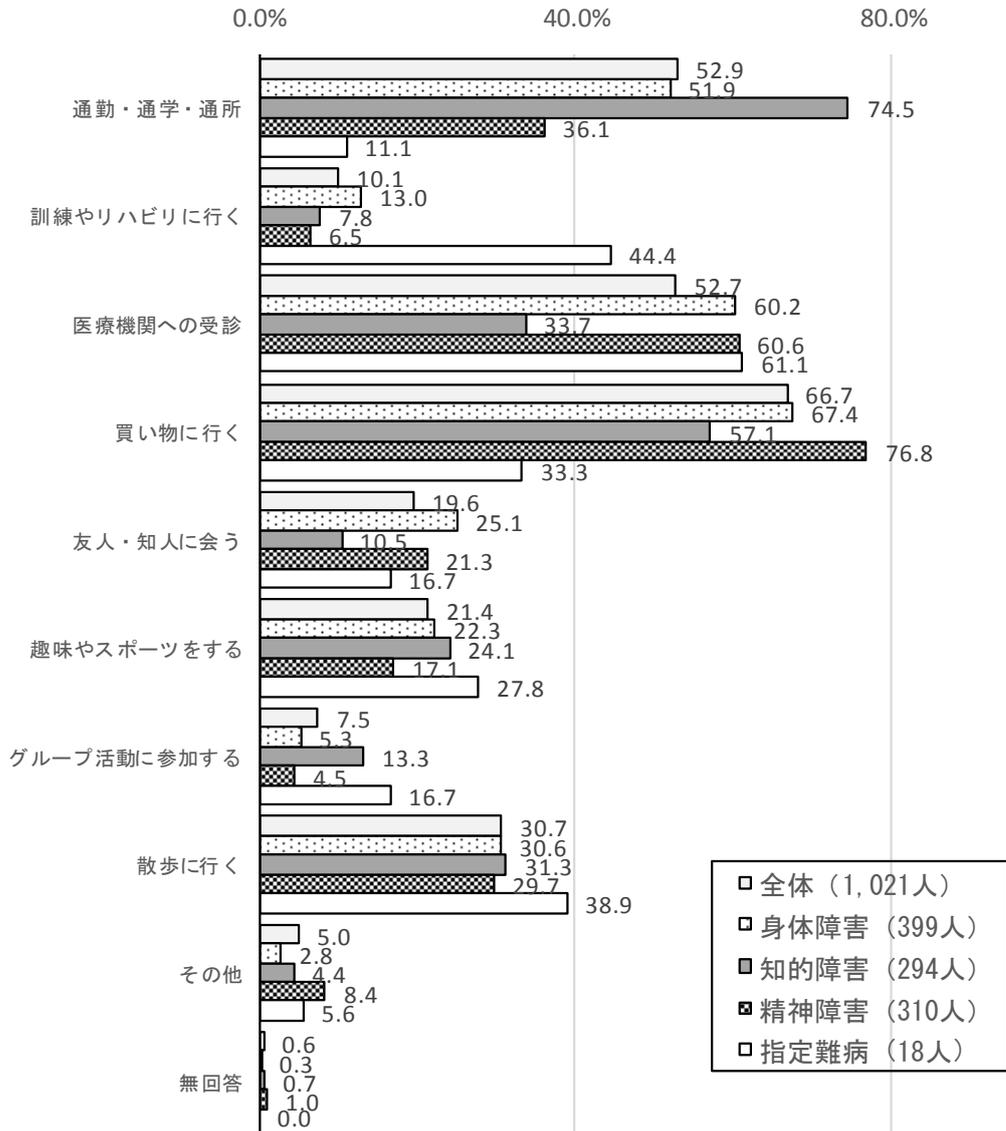
外出時の同伴者、障害別



(3) 外出の目的

「買い物に行く」が66.7%で最も多く、次いで「通勤・通学・通所」が52.9%、「医療機関への受診」が52.7%です。また、知的障害では「通勤・通学・通所」が最も多く、74.5%となっています。

外出の目的、障害別(複数回答)

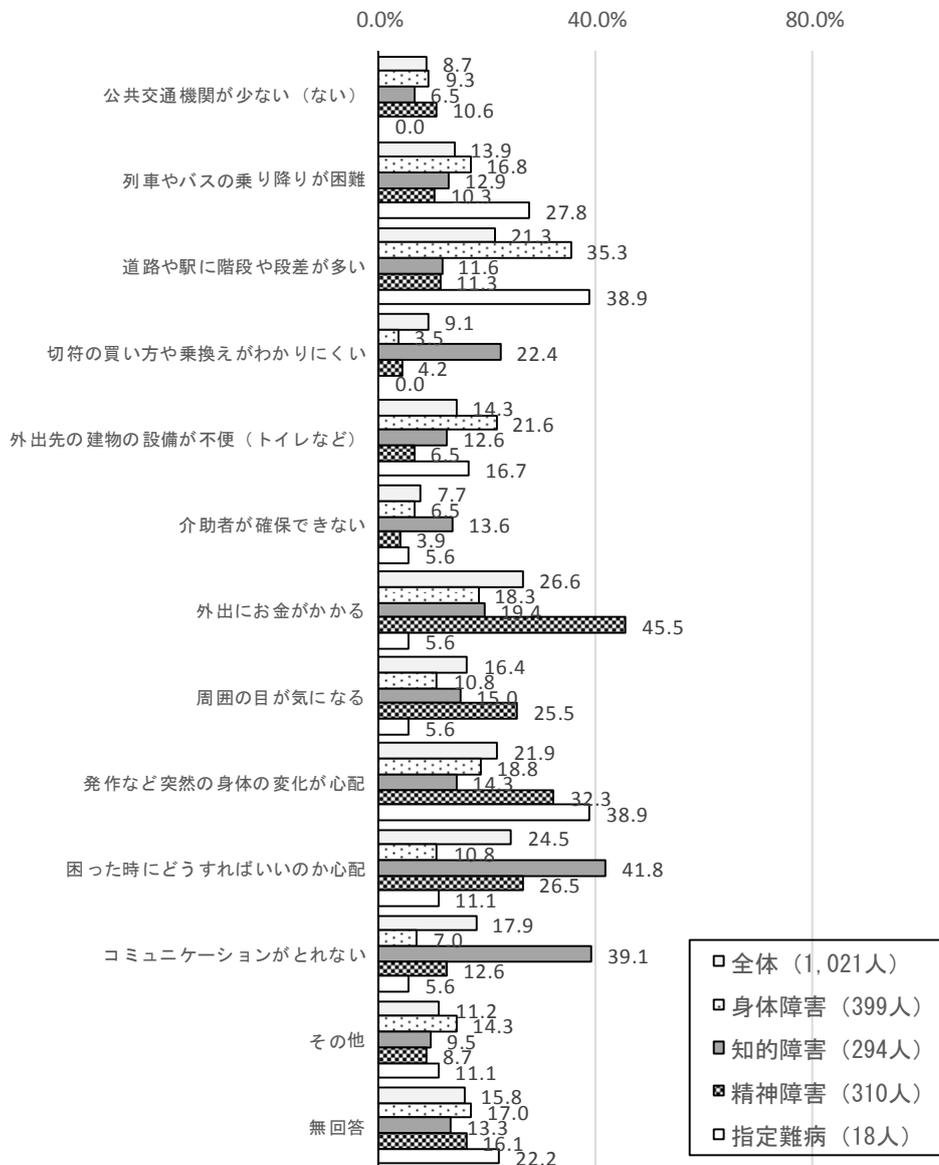


(4) 外出時に困ること

困りごとは多方面に渡り、「外出にお金がかかる」(26.6%)、「困った時にどうすればいいのか心配」(24.5%)、「発作など突然の身体の変化が心配」(21.9%)の順に多くなっています。

身体障害では「道路や駅に階段や段差が多い」(35.3%)、知的障害では「困った時にどうすればいいのか心配」(41.8%)、精神障害では「外出にお金がかかる」(45.5%)、指定難病では「道路や駅に階段や段差が多い」と「発作など突然の身体の変化が心配」(38.9%)がそれぞれ最も多くあげられています。

外出時の困りごと、障害別(複数回答)

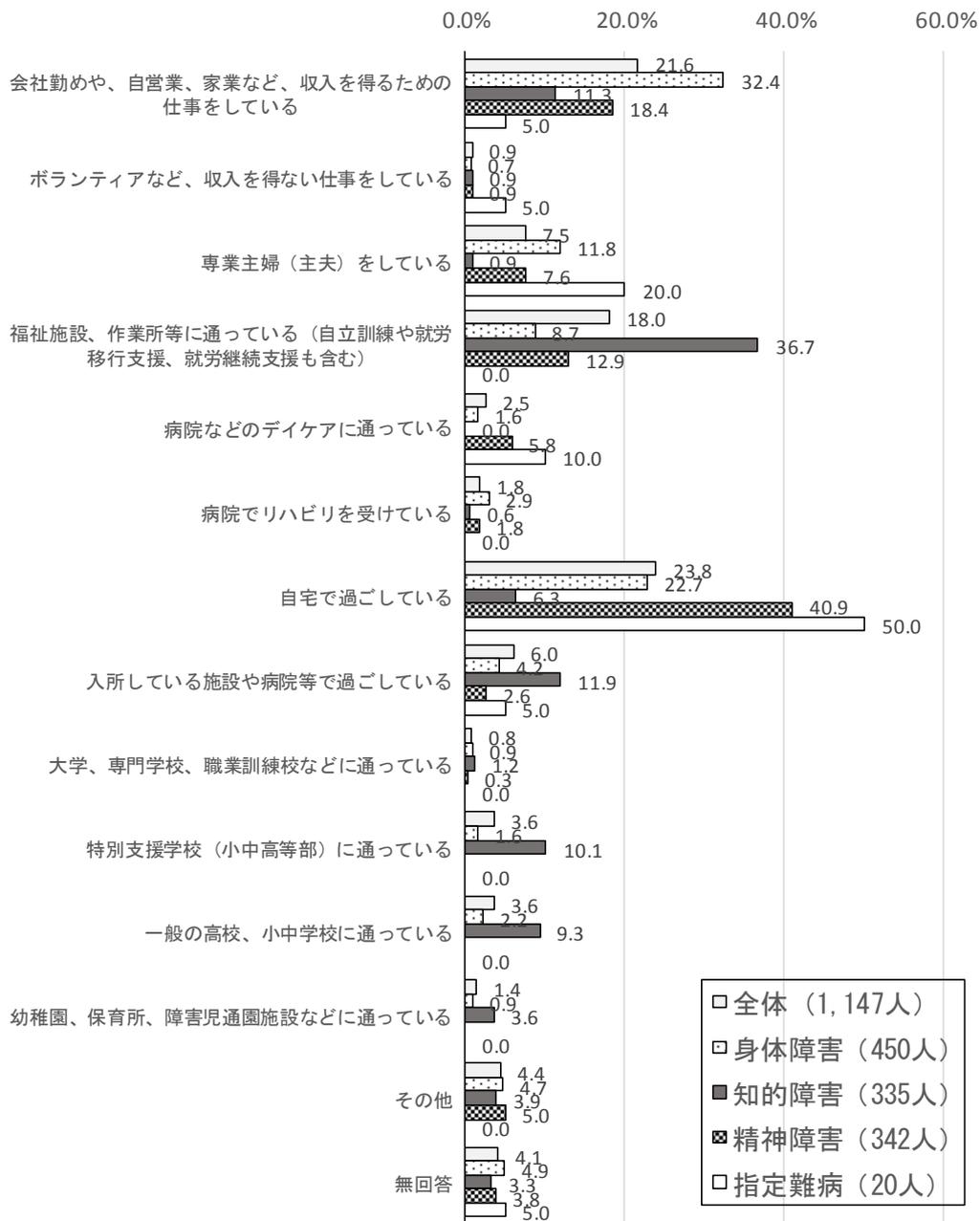


(5) 平日の日中の過ごし方

「自宅で過ごしている」(23.8%)と「会社勤めや、自営業、家業など、収入を得るための仕事をしている」(21.6%)が最も多くあげられています。

知的障害では「福祉施設、作業所等に通っている」(36.7%)が最も多く、身体障害では「会社勤めや、自営業、家業など、収入を得るための仕事をしている」(32.4%)、精神障害(40.9%)、及び指定難病(50.0%)では「自宅で過ごしている」が最も多くなっています。

日中の過ごし方、障害別

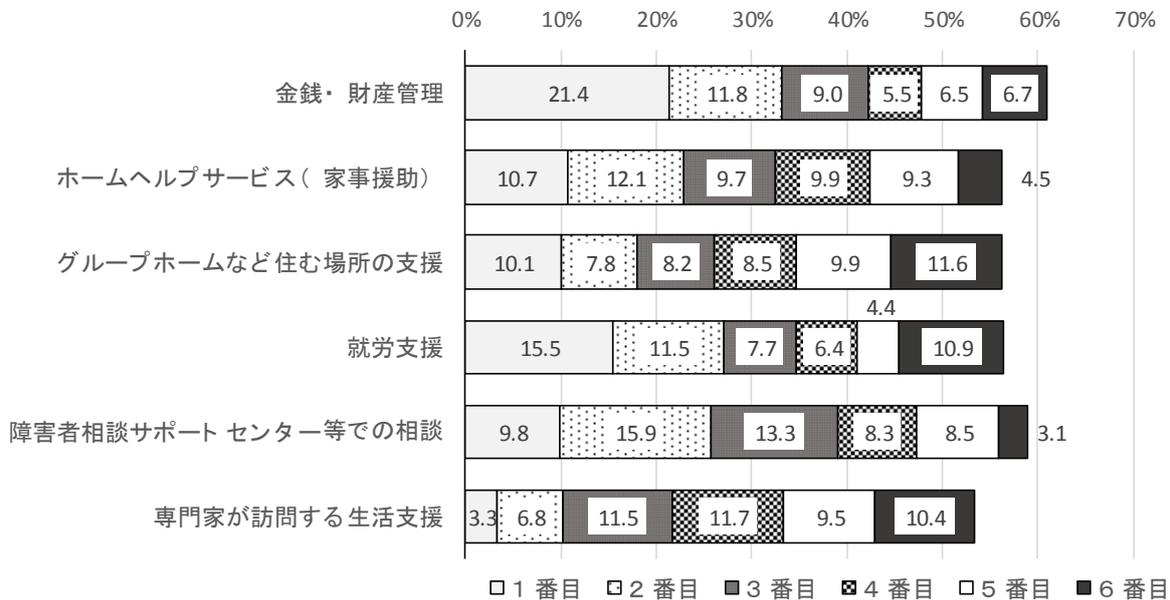


(6) ふだんの生活に必要な支援

全体として、普段の生活に必要な支援の1番目を「金銭・財産管理」をとする回答が21.4%と最も多く、次いで「就労支援」が15.5%となっています。

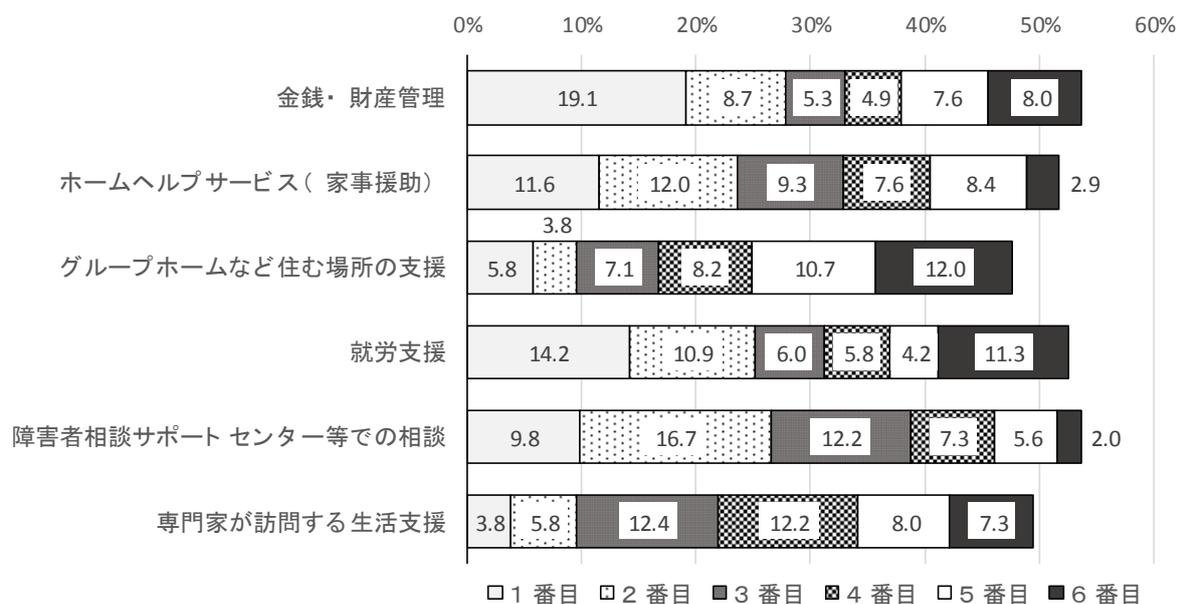
障害別で見ると、1番目は「金銭・財産管理」が最も多く、身体障害では19.1%、知的障害では22.7%、精神障害では23.1%、指定難病では25.0%となっています。知的障害では、「グループホームなど住む場所の支援」（21.5%）や「就労支援」（20.6%）も1番目とする回答が多くなっています。

1. 全体



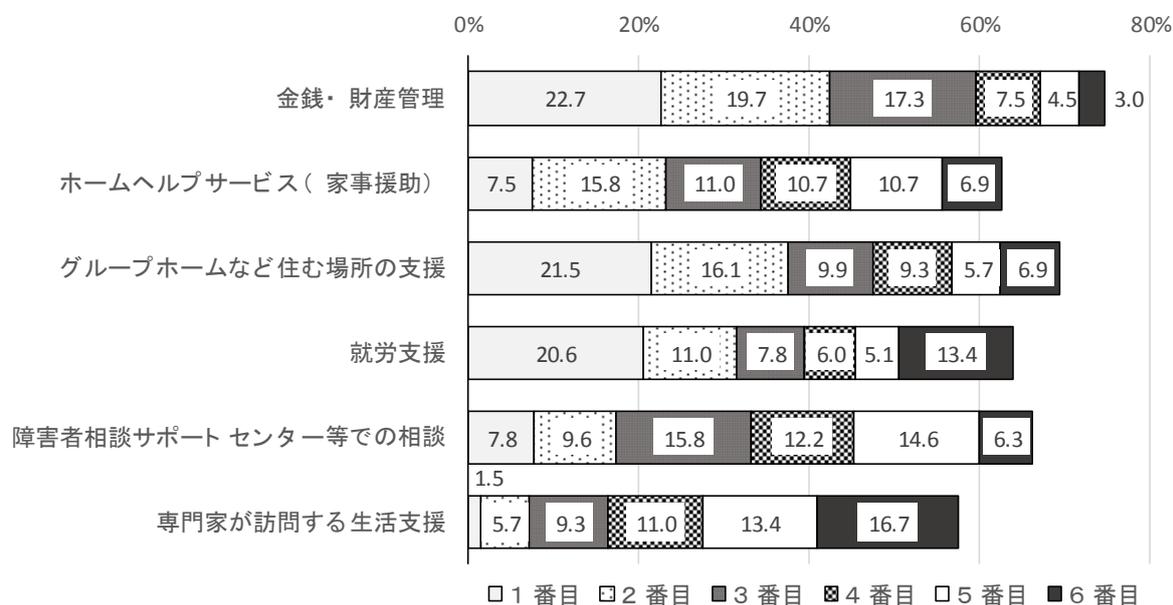
n=1,141 ※ 無回答除く

2. 身体障害



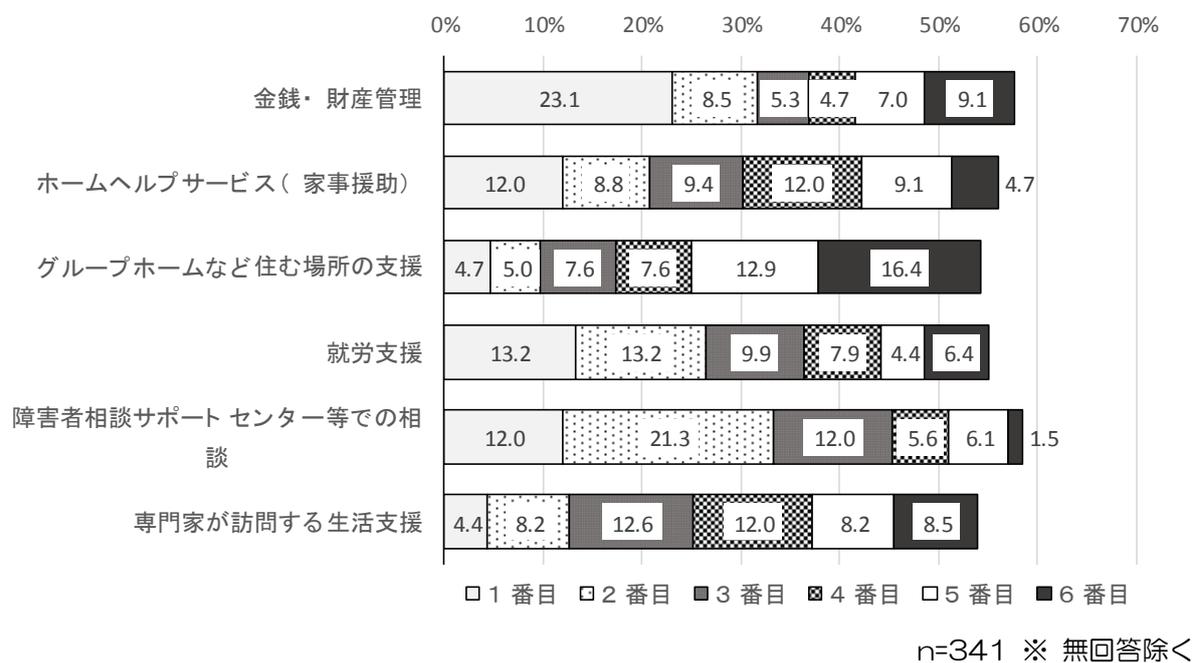
n=448 ※ 無回答除く

3. 知的障害

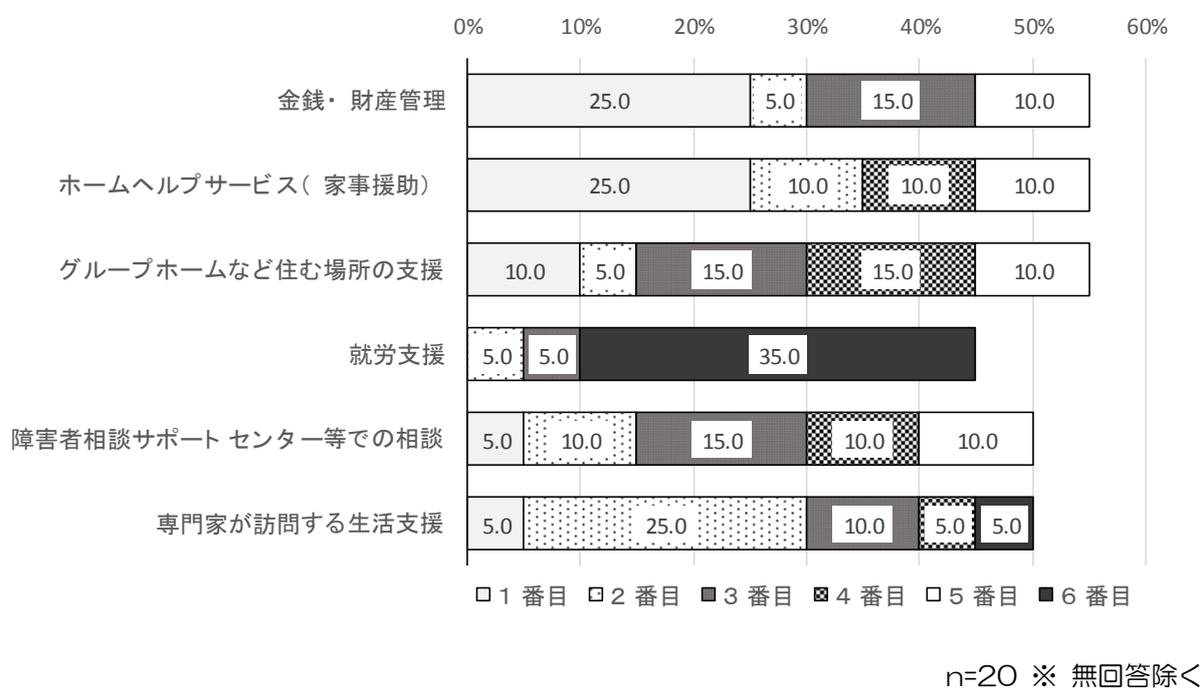


n=332 ※ 無回答除く

4. 精神障害



5. 指定難病



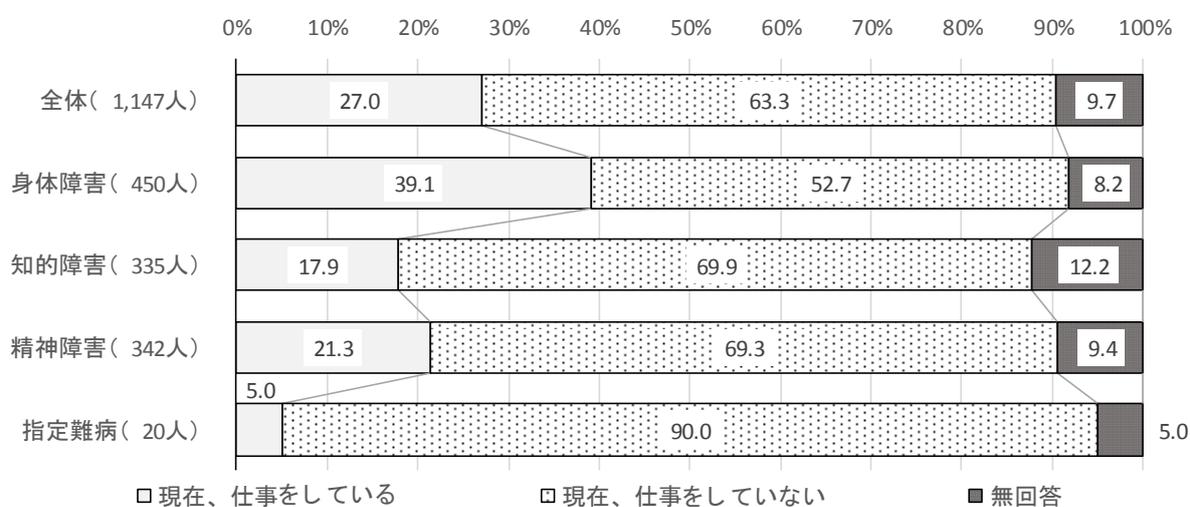
4. 仕事について

(1) 仕事の有無

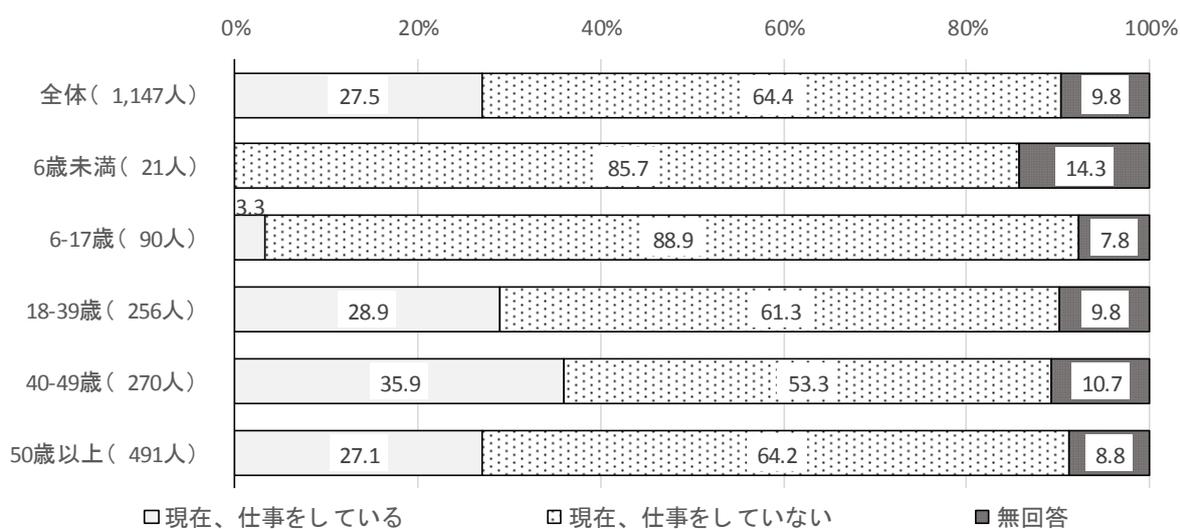
身体障害では 39.1%、知的障害では 17.9%、精神障害では 21.3%、指定難病では 5.0%の人が現在仕事をしています。

仕事をしている人を年齢別に見ると、18～39 歳では 28.9%、40～49 歳では 35.9%、50 歳以上では 27.1%となっています。

現在仕事をしているか、障害別



現在仕事をしているか、年齢別

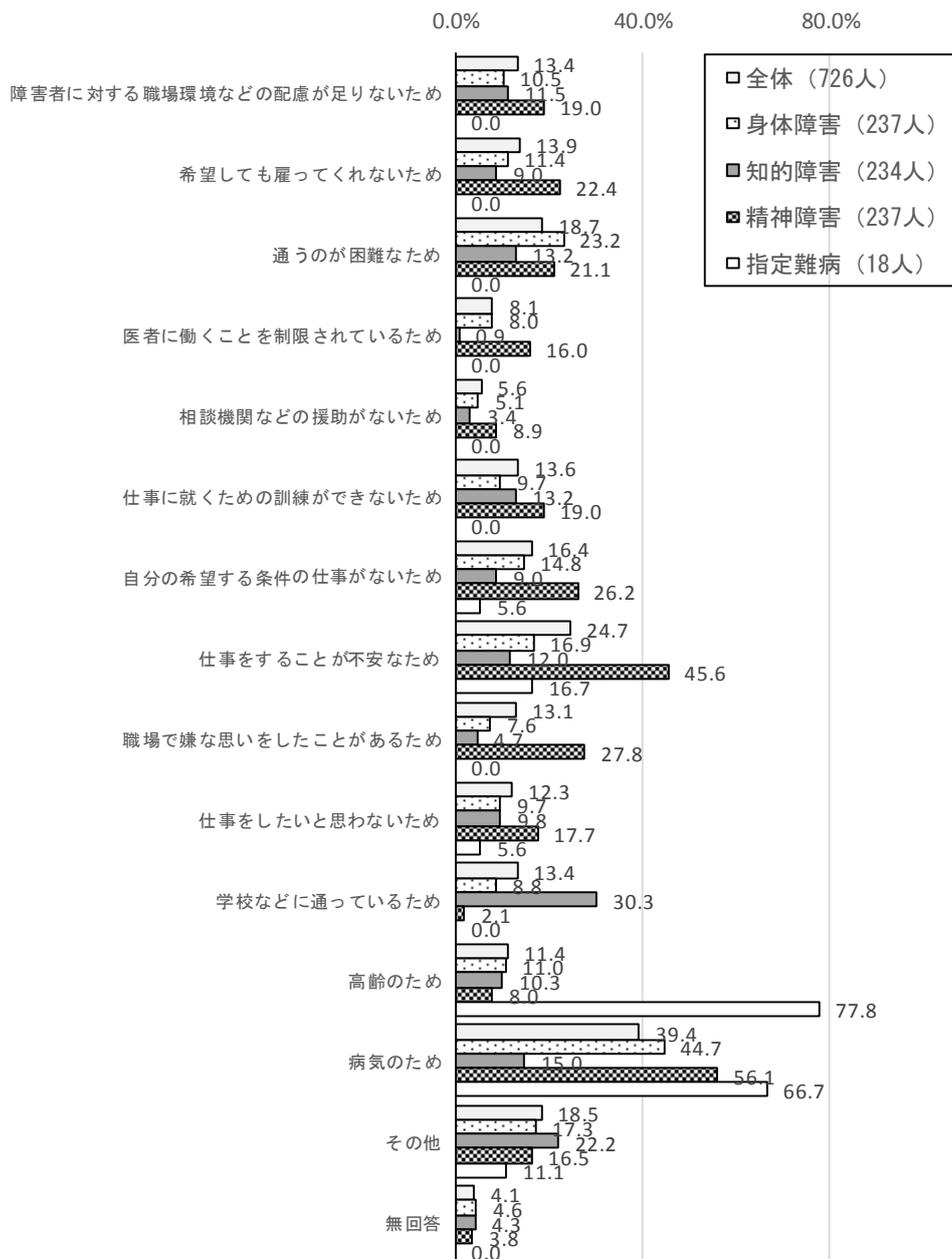


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(2) 現在仕事をしていない事情

仕事をしていない事情で最も多いのは「病気のため」です。全体では39.4%、身体障害では44.7%、精神障害では56.1%となっています。また、知的障害では「学校などに通っているため」(30.3%)が最も多くなっています。

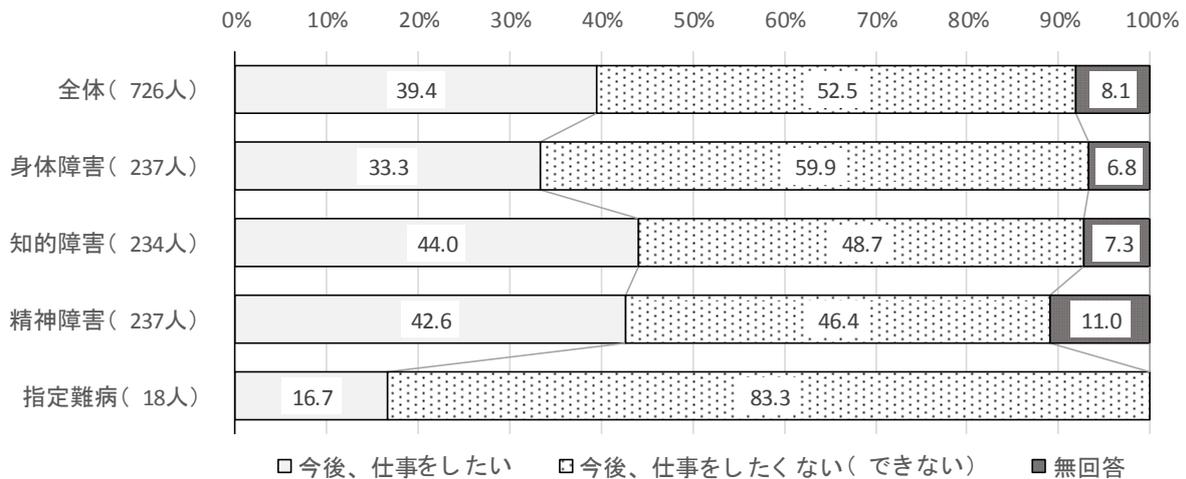
仕事をしていない事情、障害別(仕事をしていない人) (複数回答)



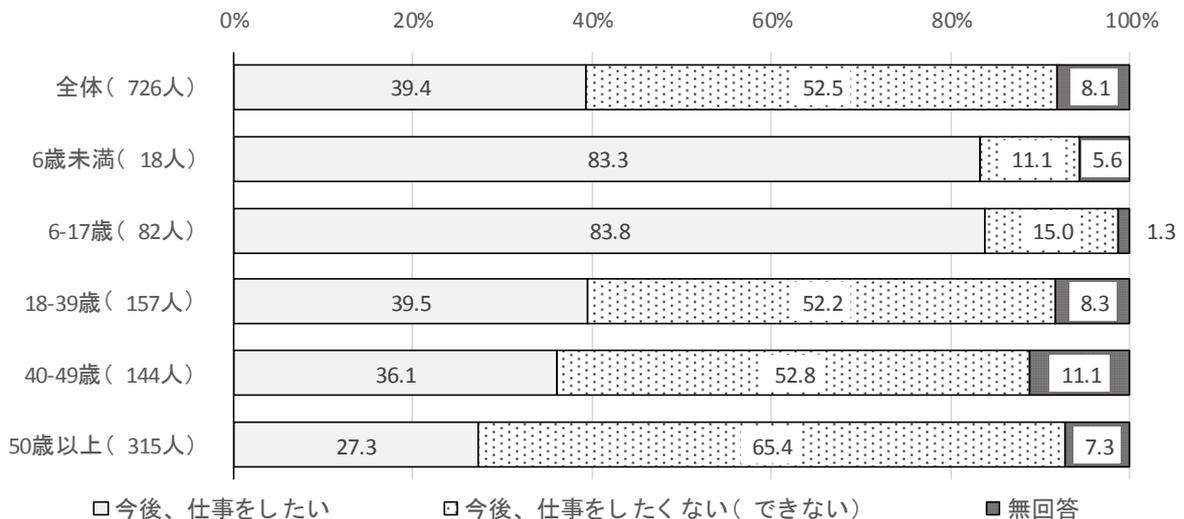
(3) 仕事をしたいかの希望

現在仕事をしていない方のうち 39.4%が「今後、仕事をしたい」としています。年齢別に見ると、「今後、仕事をしたい」とする人は 18～39 歳で 39.5%、40～49 歳で 36.1%、50 歳以上で 27.3%となっており、年齢が上がるにつれて少なくなっています。

今後仕事をしたいか、障害別(現在仕事をしていない方)



今後仕事をしたいか、年齢別(現在仕事をしていない方)

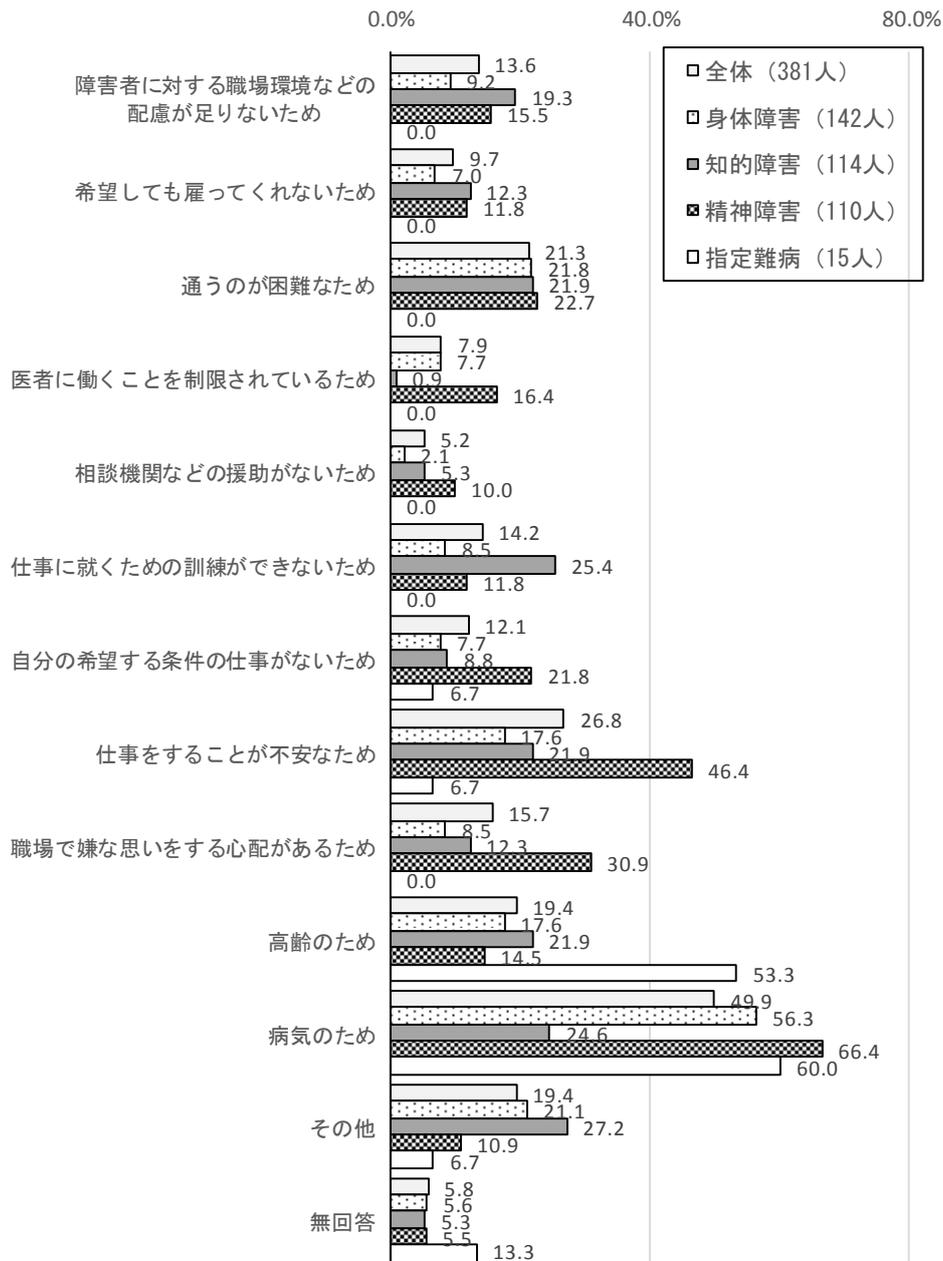


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(4) 仕事をしたくない（できない）理由

仕事をしたくない（できない）理由で最も多いのは「病気のため」です。全体では49.9%、身体障害では56.3%、精神障害では66.4%、指定難病では60.0%となっています。知的障害では「仕事に就くための訓練ができていないため」（25.4%）が最も多くなっています。

仕事をしたくない（できない）理由（複数回答）

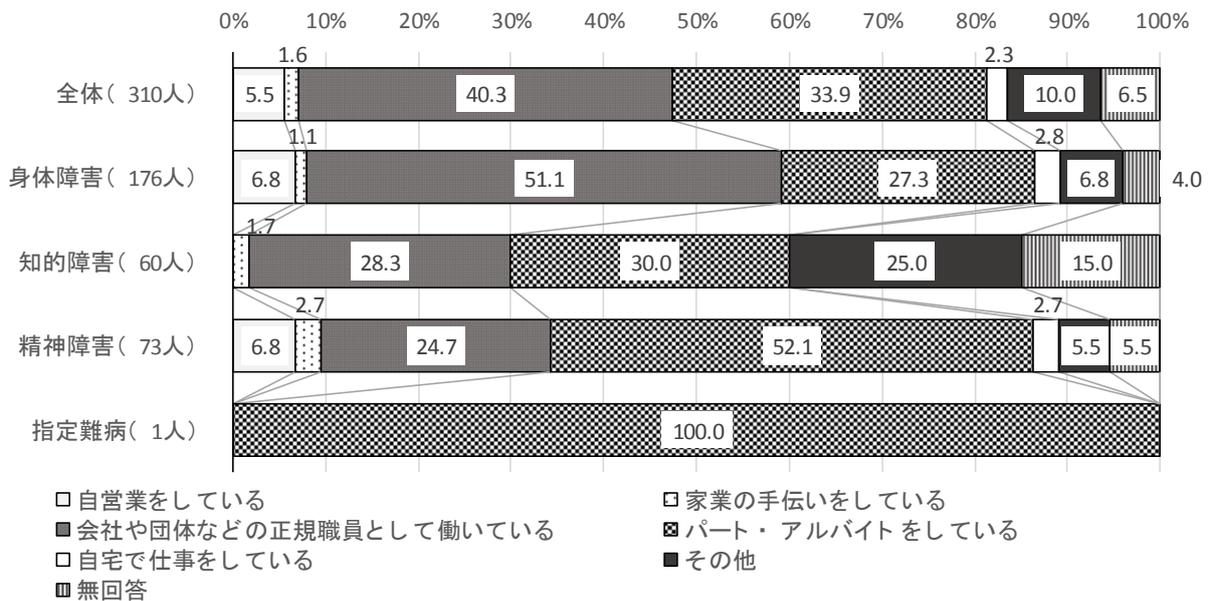


(5) 現在仕事をしている方の仕事の内容

現在の仕事の内容を見ると、「会社や団体などの正規職員として働いている」(40.3%)と「パート・アルバイトをしている」(33.9%)が最も多くなっています。

障害別に見ると、「会社や団体などの正規職員として働いている」が多いのは身体障害(51.1%)で、精神障害では「パート・アルバイトをしている」(52.1%)が最も多くなっています。

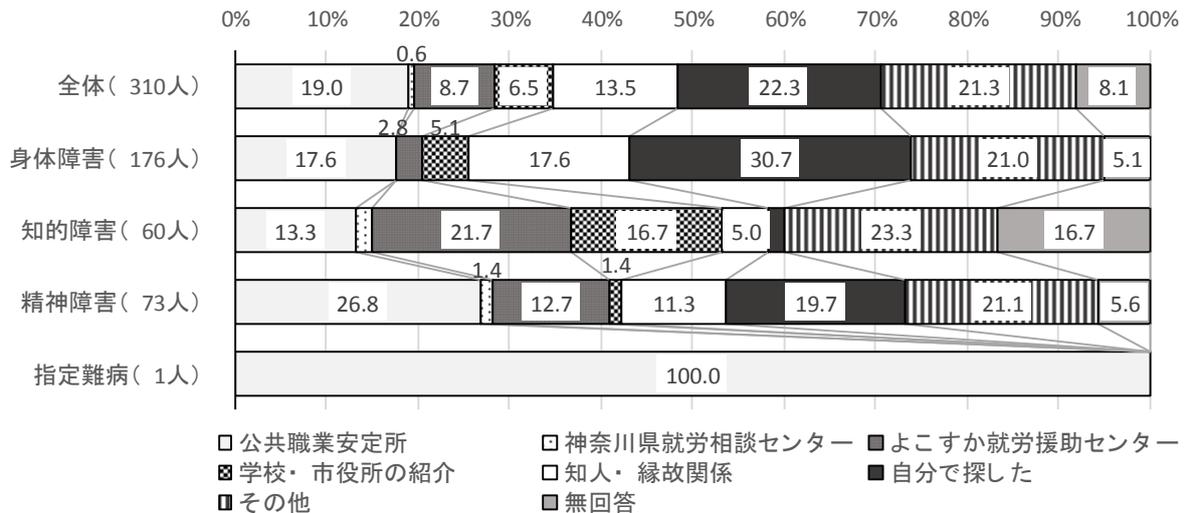
現在の仕事の内容、障害別(現在仕事をしている方)



(6) 仕事を見つけた方法

仕事を見つけた方法は、「自分で探した」(22.3%)、「公共職業安定所」(19.0%)
「知人・縁故関係」(13.5%)の順に多くなっています。身体障害では「自分で探した」(30.7%)、知的障害では「よこすか就労援助センター」(21.7%)、精神障害では「公共職業安定所」(26.8%)が最も多くなっています。

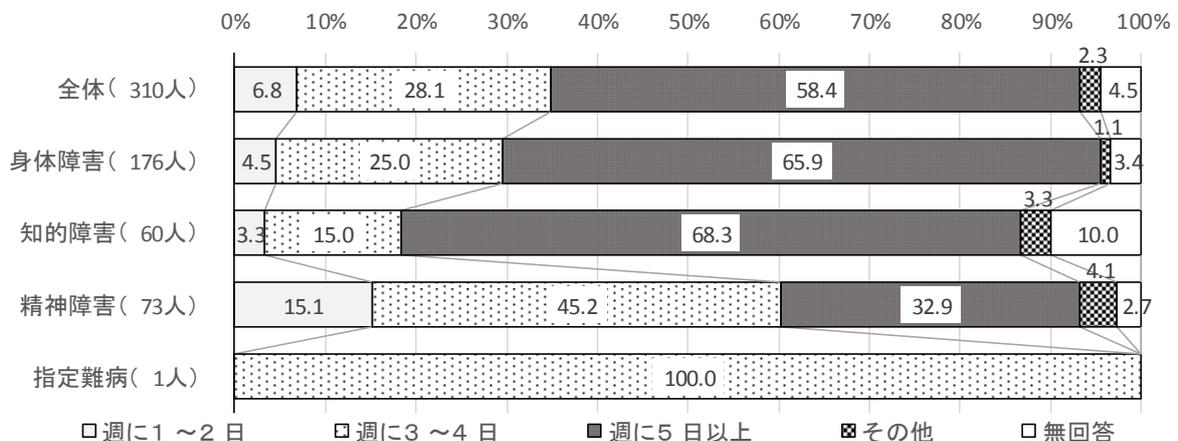
仕事を見つけた方法、障害別（仕事をしている方）



(7) 1週間あたりの労働日数

週の労働日数は、「週に5日以上」が58.4%、「週に3～4日」が28.1%となっています。精神障害では「週に5日以上」が32.9%、「週に3～4日」が45.2%で他と比べて労働日数が少ない回答が多くなっています。

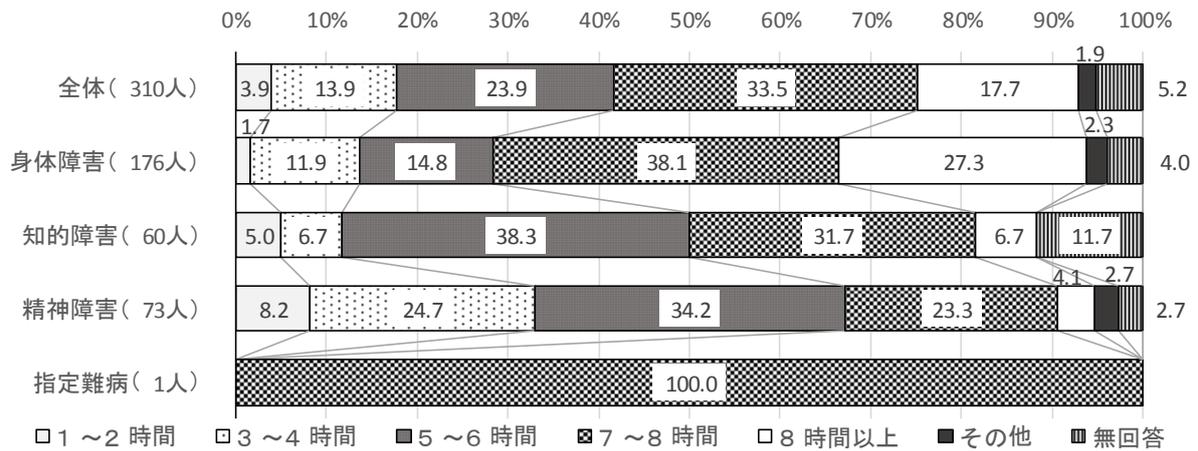
週の日数、障害別（仕事をしている方）



(8) 1日あたりの労働時間

1日の労働時間は、「7～8時間」が33.5%、「5～6時間」が23.9%となっています。知的障害と精神障害では他と比べて労働時間が短い回答が多くなっており、精神障害では「5～6時間」が34.2%、「3～4時間」が24.7%です。

1 日の労働時間、障害別（仕事をしている方）

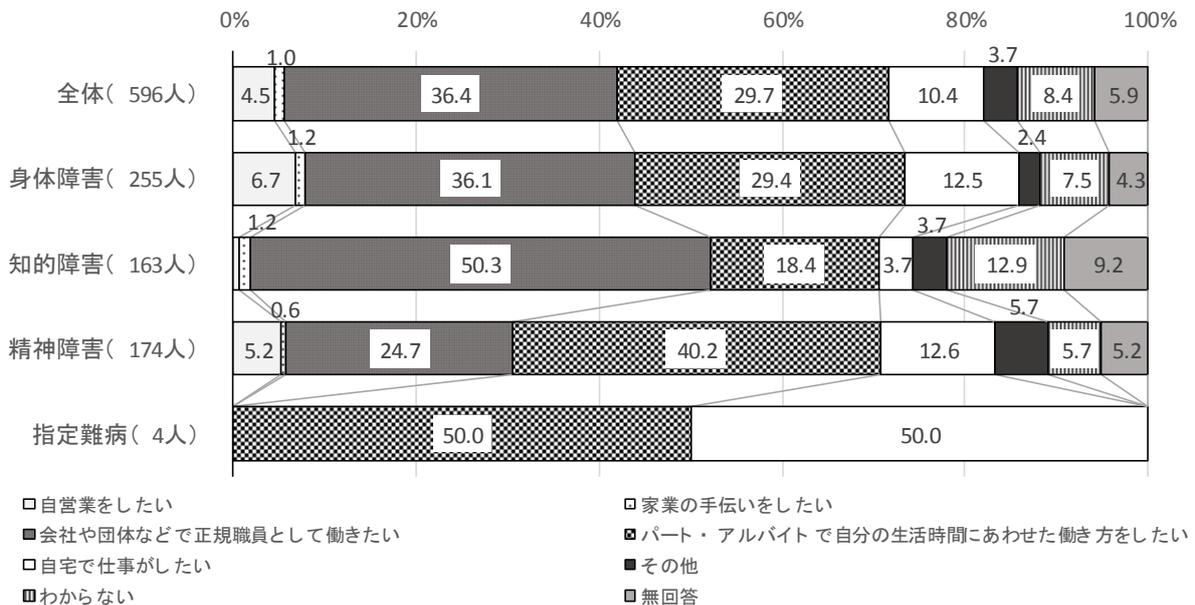


(9) 今後の希望する働き方

今後希望する働き方は、「会社や団体などで正規職員として働きたい」(36.4%)が最も多く、次いで「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」(29.7%)、「自宅で仕事がしたい」(10.4%)の順となっています。

精神障害では「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」(40.2%)が最も多くなっています。

今後希望する働き方、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）

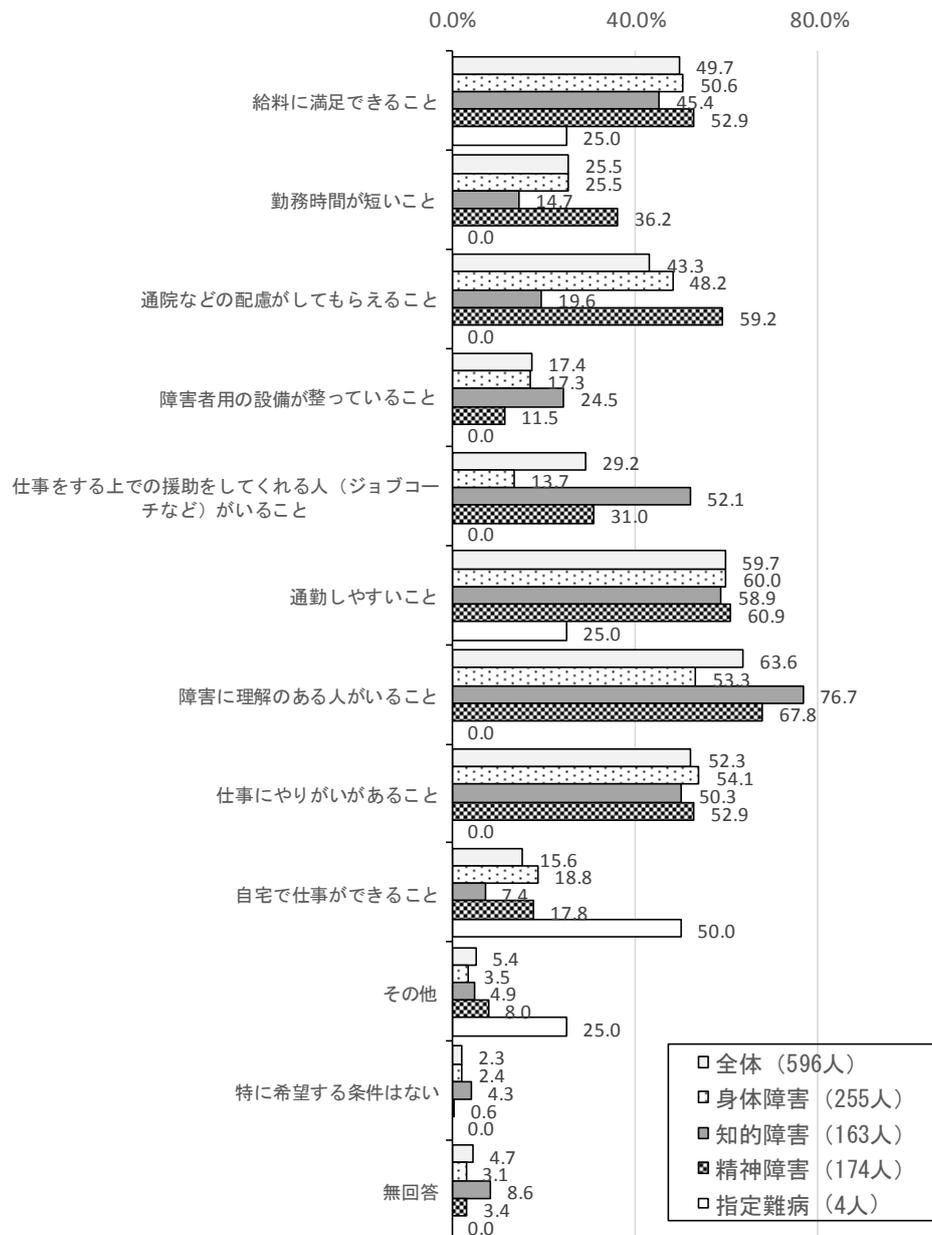


(10) 仕事を選ぶ際の条件

仕事をしている人や今後仕事をしたい人が仕事を選ぶ条件となるのは、多い順に「障害に理解のある人がいること」(63.6%)、「通勤しやすいこと」(59.7%)、「仕事にやりがいがあること」(52.3%)となっています。

身体障害では「通勤しやすいこと」(60.0%)、知的障害(76.7%)と精神障害(67.8%)では「障害に理解のある人がいること」が最も多くあげられています。

仕事を選ぶ上で希望する条件、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）

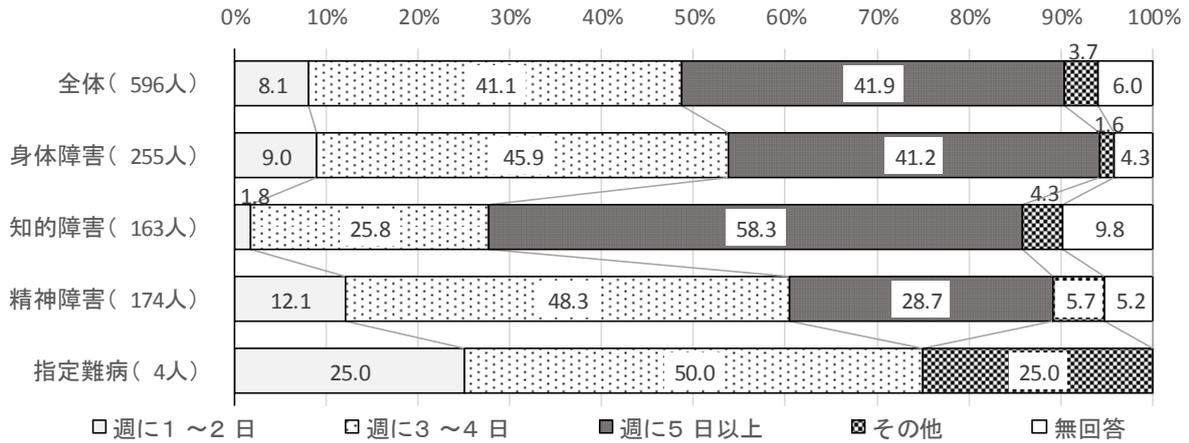


(11) 1週間当たりの希望労働日数

希望する週当たりの日数は、「週に5日以上」(41.9%)、「週に3~4日」(41.1%)が多くなっています。

知的障害では「週に5日以上」が58.3%、精神障害では「週に3~4日」が48.3%と多くなっています。

希望の日数、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）

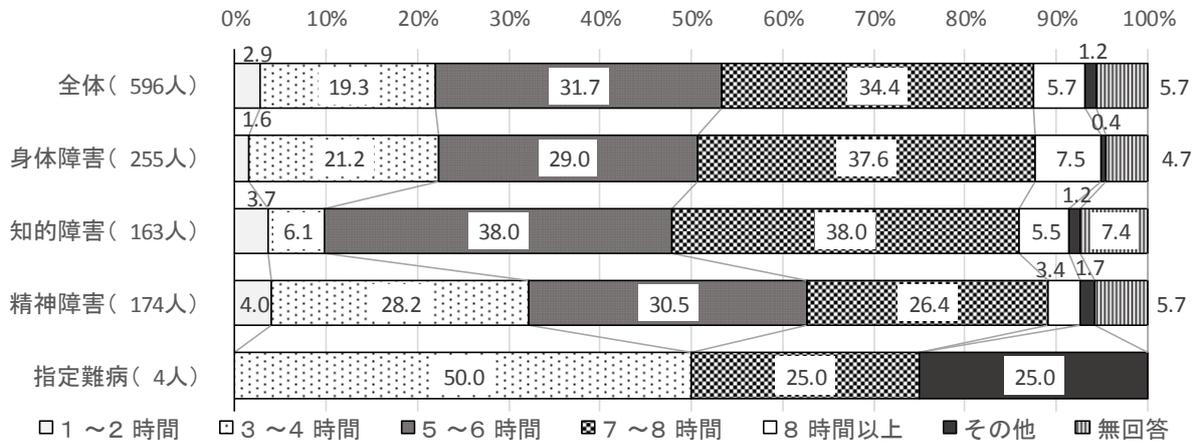


(12) 1日あたりの希望労働時間

希望する1日の労働時間は、「7~8時間」(34.4%)、「5~6時間」(31.7%)、「3~4時間」(19.3%)となっています。

精神障害では「5~6時間」(30.5%)、「3~4時間」(28.2%)となっており、短時間の労働を希望する人が多くなっています。

希望の労働時間、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）

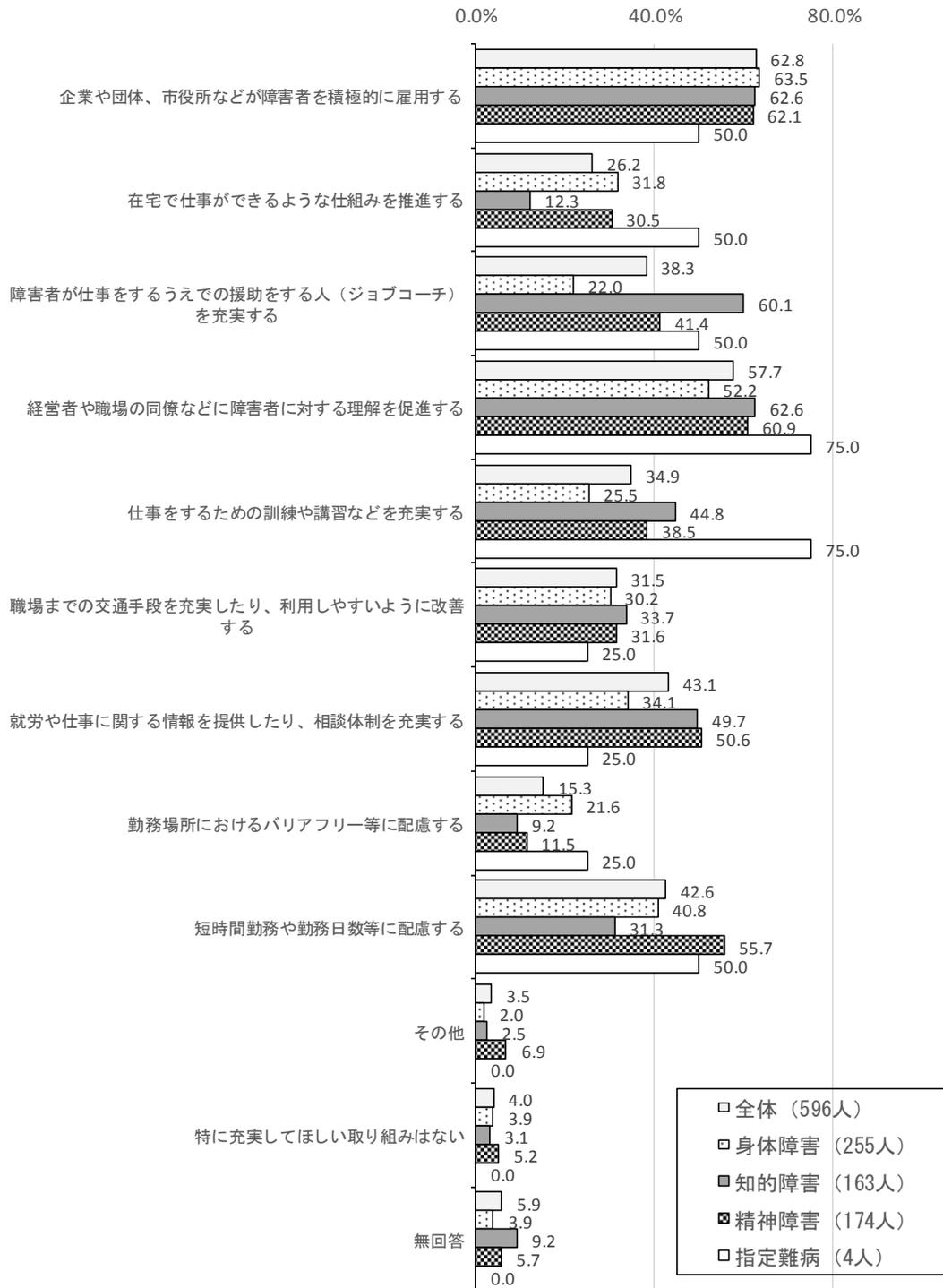


(13) 働くにあたって充実して欲しい取組

仕事をしている人や今後仕事をしたい人が、働く上で充実してほしいことは、多い順に「企業や団体、市役所などが障害者を積極的に雇用する」(62.8%)、「経営者や職場の同僚などに障害者に対する理解を促進する」(57.7%)、「就労や仕事に関する情報を提供したり、相談体制を充実する」(43.1%)、「短時間勤務や勤務日数等に配慮する」(42.6%)となっています。

知的障害では「障害者が仕事をするうえでの援助をする人(ジョブコーチ)を充実する」も多く、60.1%を占めています。

働く上で充実してほしいこと、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）
 (複数回答)

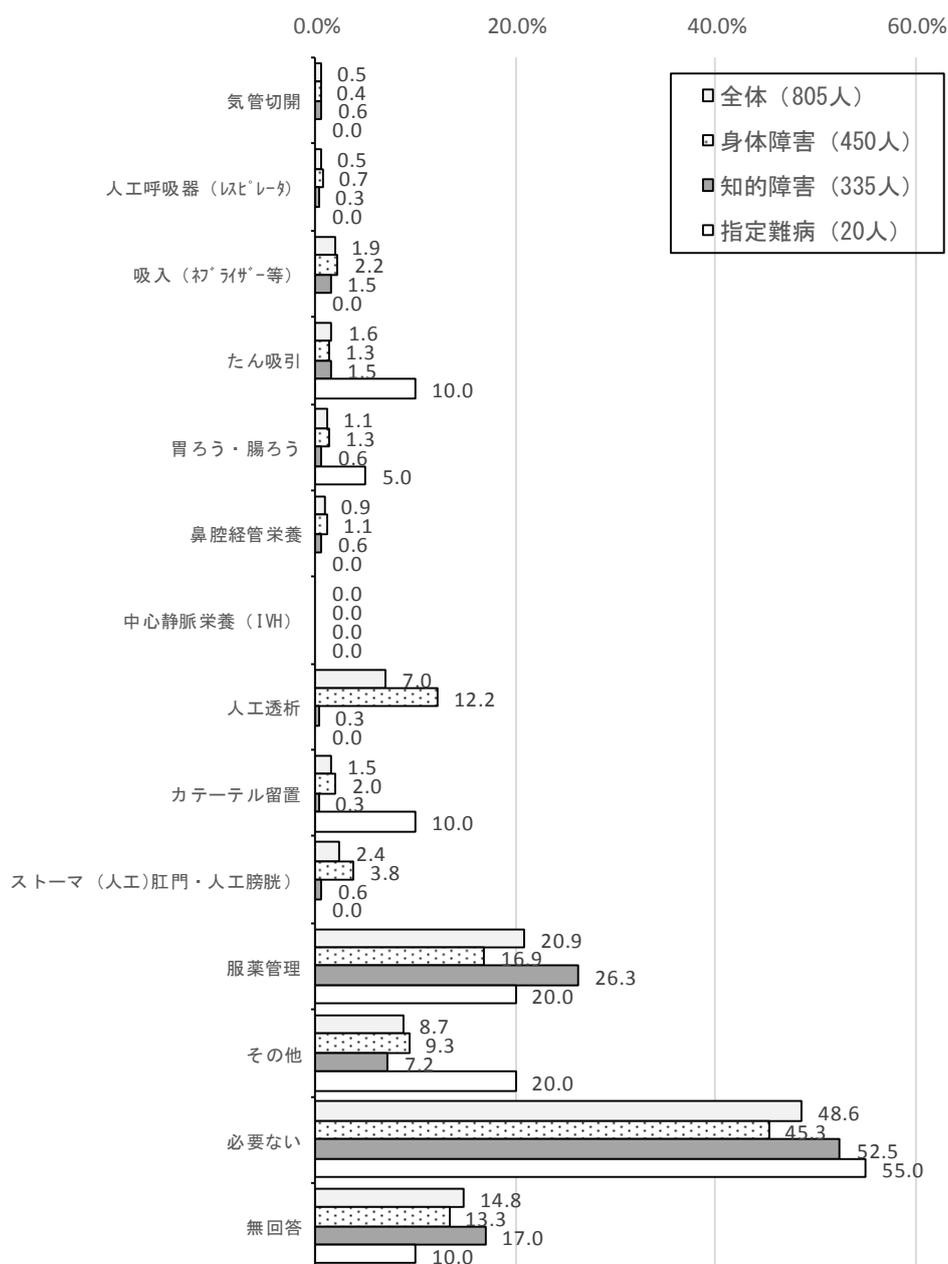


5. 医療ケアについて

(1) 身体障害、知的障害、難病の方の必要な医療ケア

身体障害、知的障害及び指定難病においては、約半数の人が医療ケアを「必要ない」としています。「服薬管理」を必要としている人は 20.9%で、知的障害では 26.3%となっています。

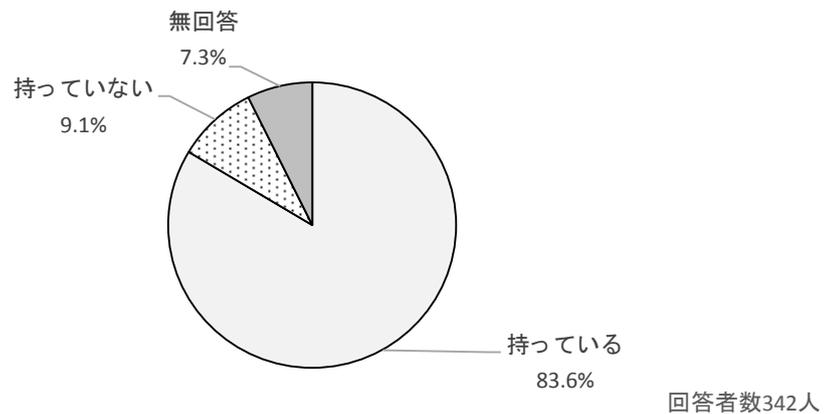
必要な医療ケア、障害別（複数回答）



(2) 精神障害の方の自立支援医療受給者証の有無

精神障害の方のうち、83.6%が自立支援医療受給者証を持っていると回答しています。

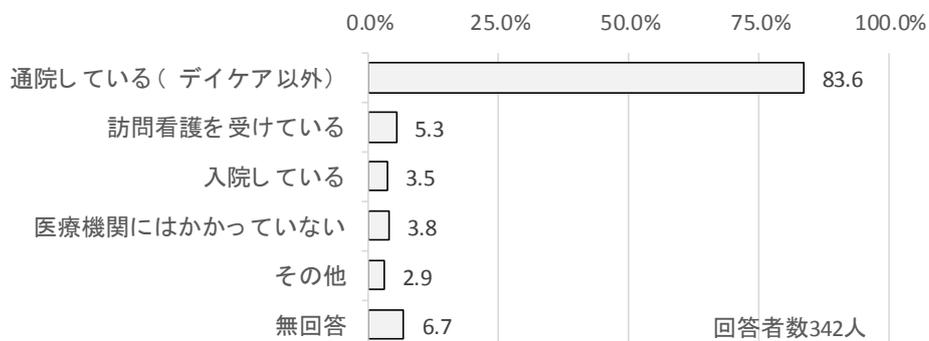
自立支援医療受給者証を持っているか



(3) 精神障害の方の現在の医療の状況

精神障害の方の医療の状況は、「通院している（デイケア以外）」が 83.6%、「訪問看護を受けている」が 5.3%、「医療機関にはかかっていない」が 3.8%になっています。

現在の医療の状況

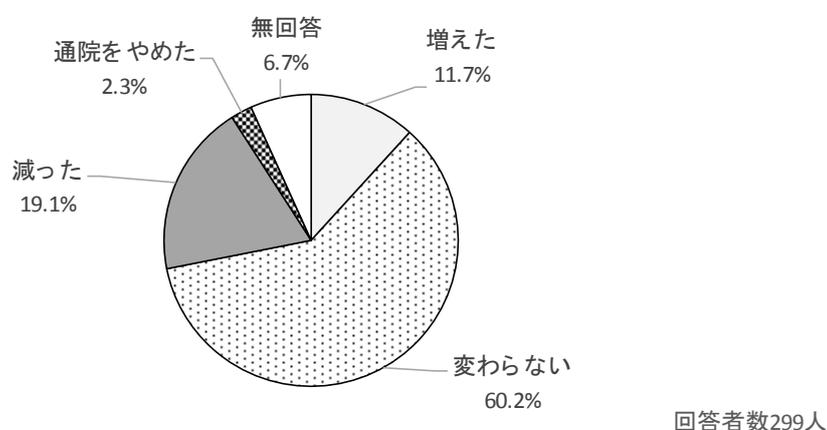


(4) 精神障害の方の通院回数の変化

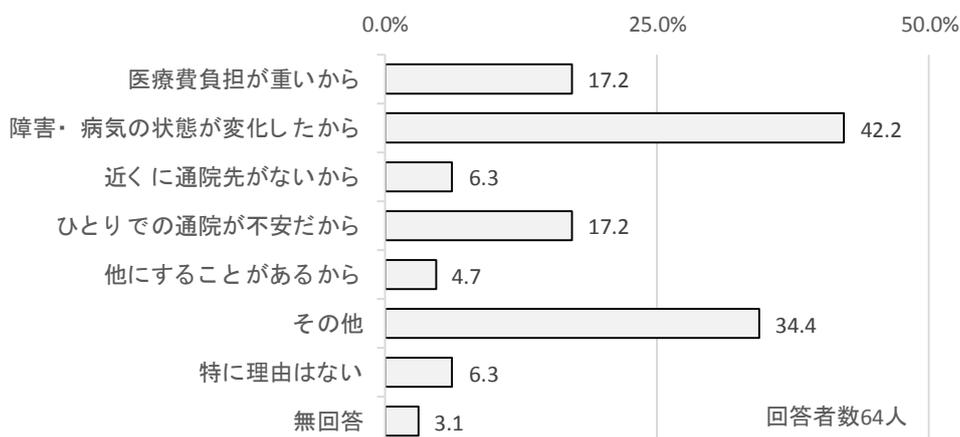
以前と比べて通院回数が「増えた」人は11.7%、「変わらない」人は60.4%、「減った」人は19.1%となっています。「通院をやめた」人は2.3%です。

また、通院回数の「減った」人、「通院をやめた」人の事情は、「障害・病気の状態が変化したから」とする人が42.2%です。「医療費負担が重いから」、「ひとりでの通院が不安だから」とする人もそれぞれ17.2%あります。

通院回数の変化（通院している方、医療機関にかかっていない方）



通院回数が「減った」もしくは「通院をやめた」事情(複数回答)

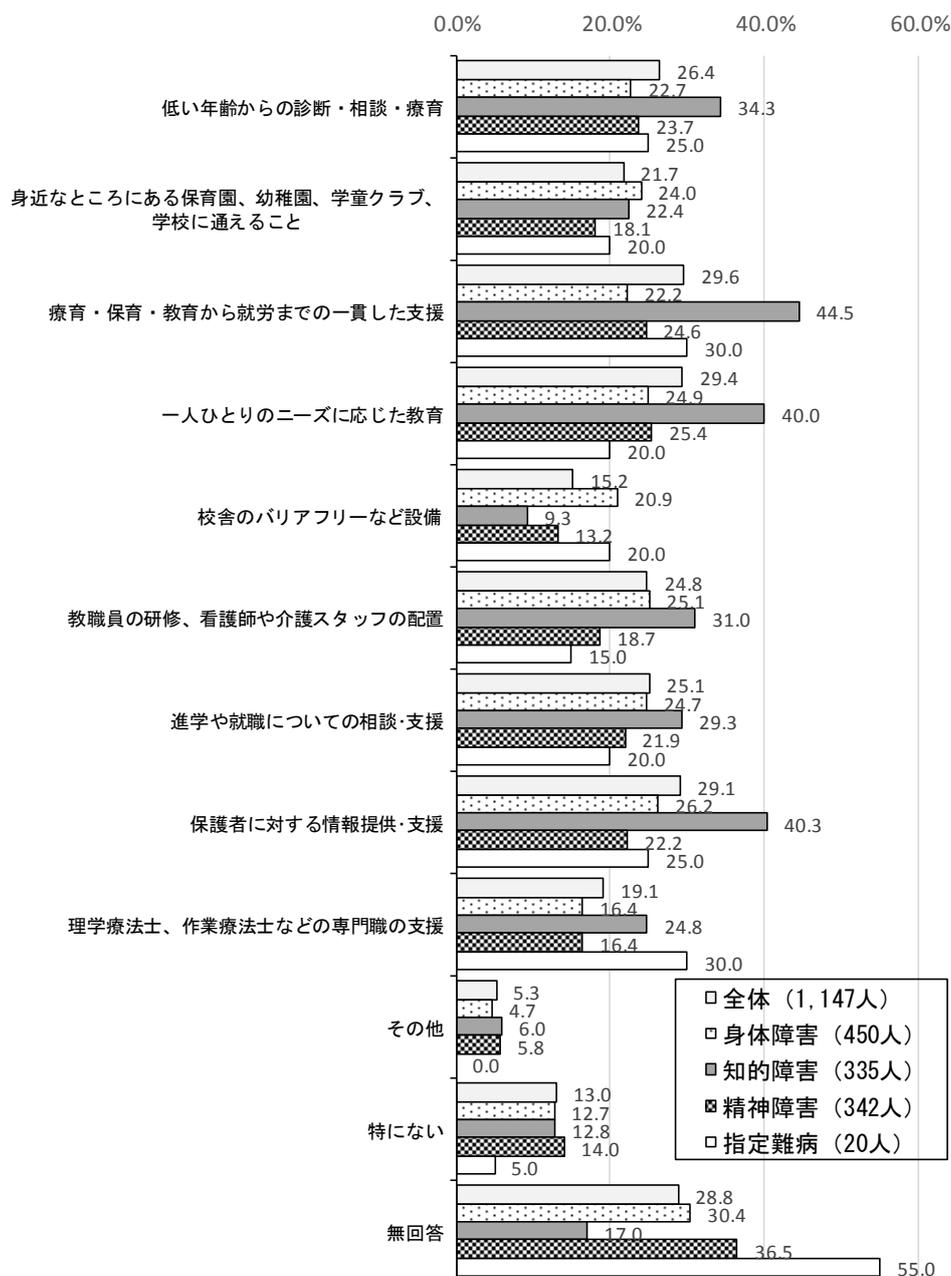


6. 教育・療育について

(1) 障害のある子どもの教育・療育で不足していること

障害のある子どもの教育・療育で不足していることとして、「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」(29.6%)、「一人ひとりのニーズに応じた教育」(29.4%)、「保護者に対する情報提供・支援」(29.1%)、「低い年齢からの診断・相談・療育」(26.4%) など、様々な分野があげられています。

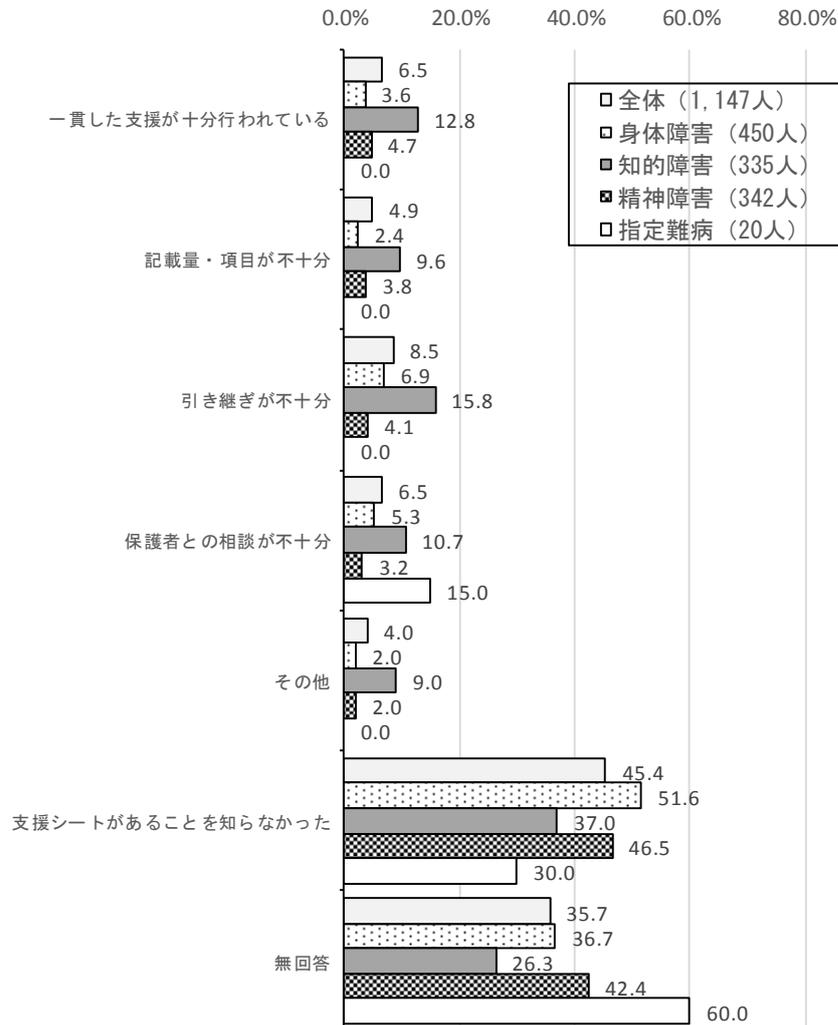
教育・療育に不足していること、障害別（複数回答）



(2) 「本人・保護者とともにつくる支援シート」について

「本人・保護者とともにつくる支援シート」については、「引き継ぎが不十分」(8.5%)、「保護者との相談が不十分」(6.5%)、などの意見があります。一方で、「一貫した支援が十分行われている」(6.5%)という評価もされています。また、「支援シートがあることを知らなかった」とする人が45.4%います。

「本人・保護者とともにつくる支援シート」について、障害別（複数回答）

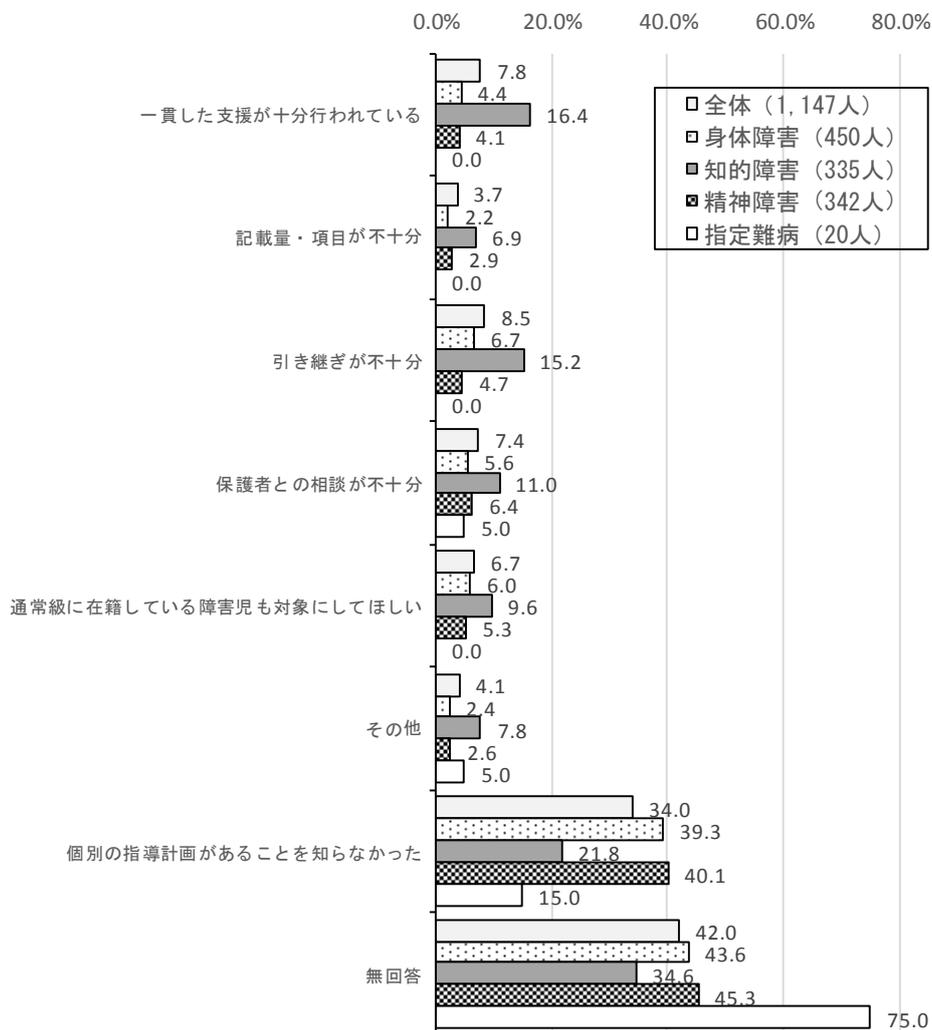


(3) 「個別の指導計画」について

「個別の指導計画」については、「引き継ぎが不十分」(8.5%)、「保護者との相談が不十分」(7.4%)、「通常級に在籍している障害児も対象にしてほしい」(6.7%)などの意見や、「一貫した支援が十分行われている」(7.8%)という評価があります。

一方で、「個別の指導計画があることを知らなかった」とする人が34.0%います。

「個別の指導計画」について、障害別（複数回答）



(4) 園や学校について不安や不満に感じていること

園や学校についての不安や不満についての件数は下表の通りです。

全体では「園や学校の環境や行事などの不安や不満」に関する意見が70件と最も多くなっています。身体障害では「園や学校の環境や行事などの不安や不満」が40件、知的障害では「教員・スタッフの体制等」が38件、精神障害では「理解・配慮不足や差別・いじめによる不安・不満」が18件と意見が多くなっています。

園や学校についての不安や不満の意見数

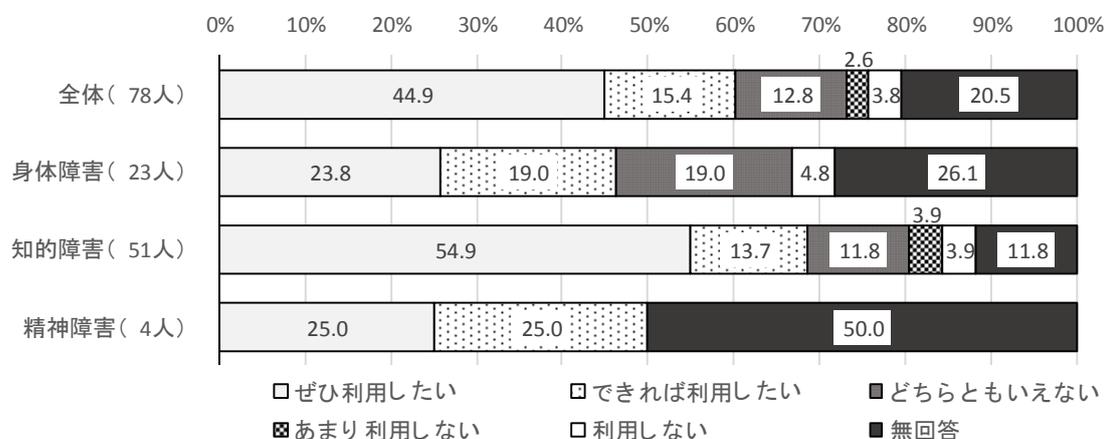
| 項目（内訳項目） | 全体 | 身体障害 | 知的障害 | 精神障害 | 難病 |
|---------------------------|-----|------|------|------|----|
| 1. 園や学校の環境や行事などの不安や不満 | 70 | 40 | 12 | 17 | 1 |
| (園や学校の運営について) | 37 | 13 | 11 | 12 | 1 |
| (園や学校の施設について) | 33 | 27 | 1 | 5 | 0 |
| 2. 教員・スタッフの体制等 | 63 | 21 | 38 | 4 | 0 |
| (職員の知識や理解の不足) | 41 | 10 | 28 | 3 | 0 |
| (人手や体制等の不足) | 22 | 11 | 10 | 1 | 0 |
| 3. 理解・配慮不足や差別・いじめによる不安・不満 | 49 | 12 | 19 | 18 | 0 |
| (障害への理解・配慮不足) | 36 | 12 | 11 | 13 | 0 |
| (差別・いじめ) | 13 | 0 | 8 | 5 | 0 |
| 4. 進学・就職 | 6 | 4 | 1 | 1 | 0 |
| 5. その他 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 189 | 77 | 70 | 41 | 1 |

「5. その他」の内容 ・思い出したくもない

(5) 保育所等訪問支援の利用希望について（小学生及び未就学の方）

全体として「ぜひ利用したい」（44.9%）が最も多くなっています。

保育所等訪問支援の利用希望について

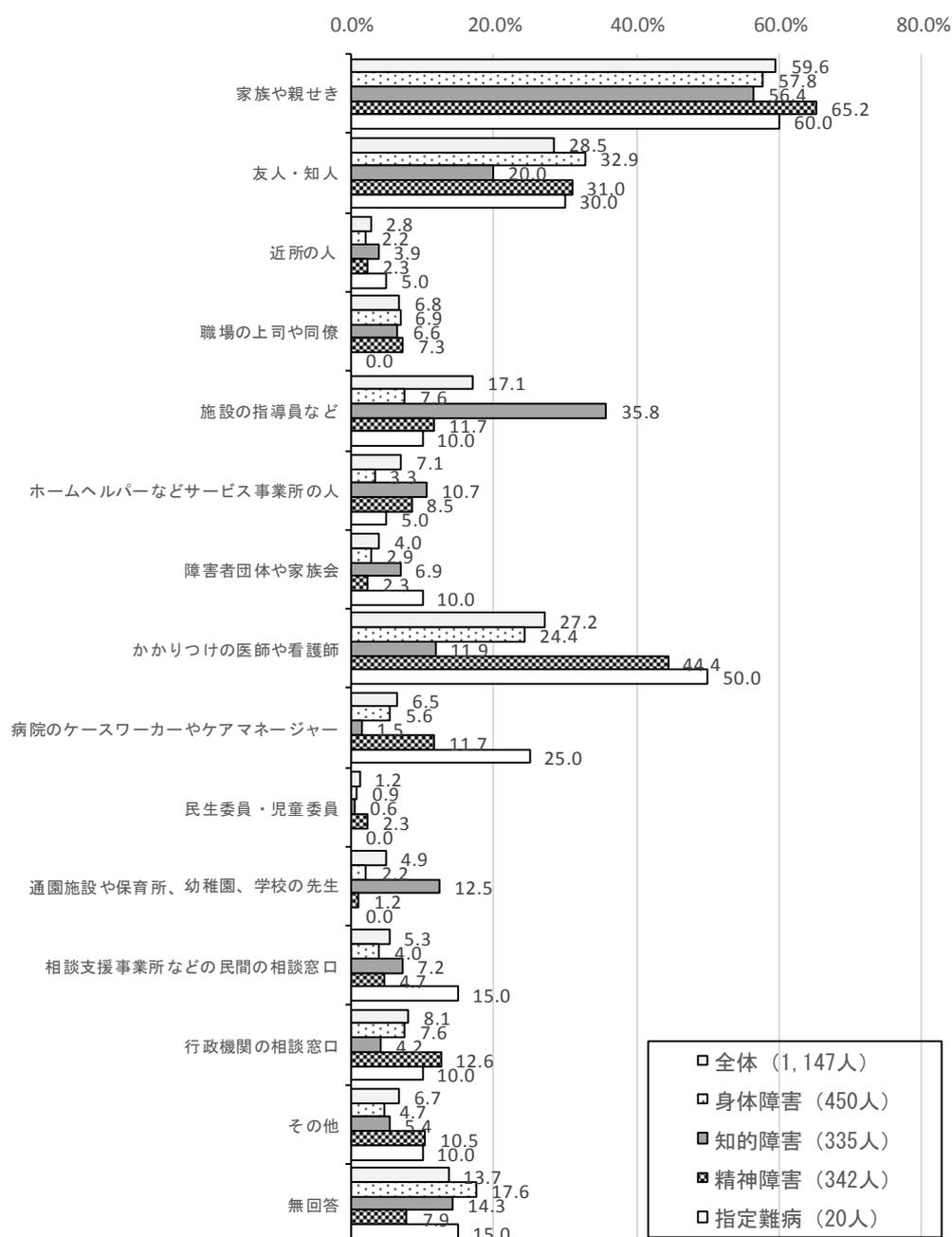


7. 相談相手や情報の入手について

(1) 悩みや困った時の相談先

全体の59.6%が「家族や親せき」としています。また、身体障害で57.8%、知的障害で56.4%、精神障害で65.2%、指定難病で60.0%と、いずれの障害においても「家族や親せき」が最も多くあげられています。

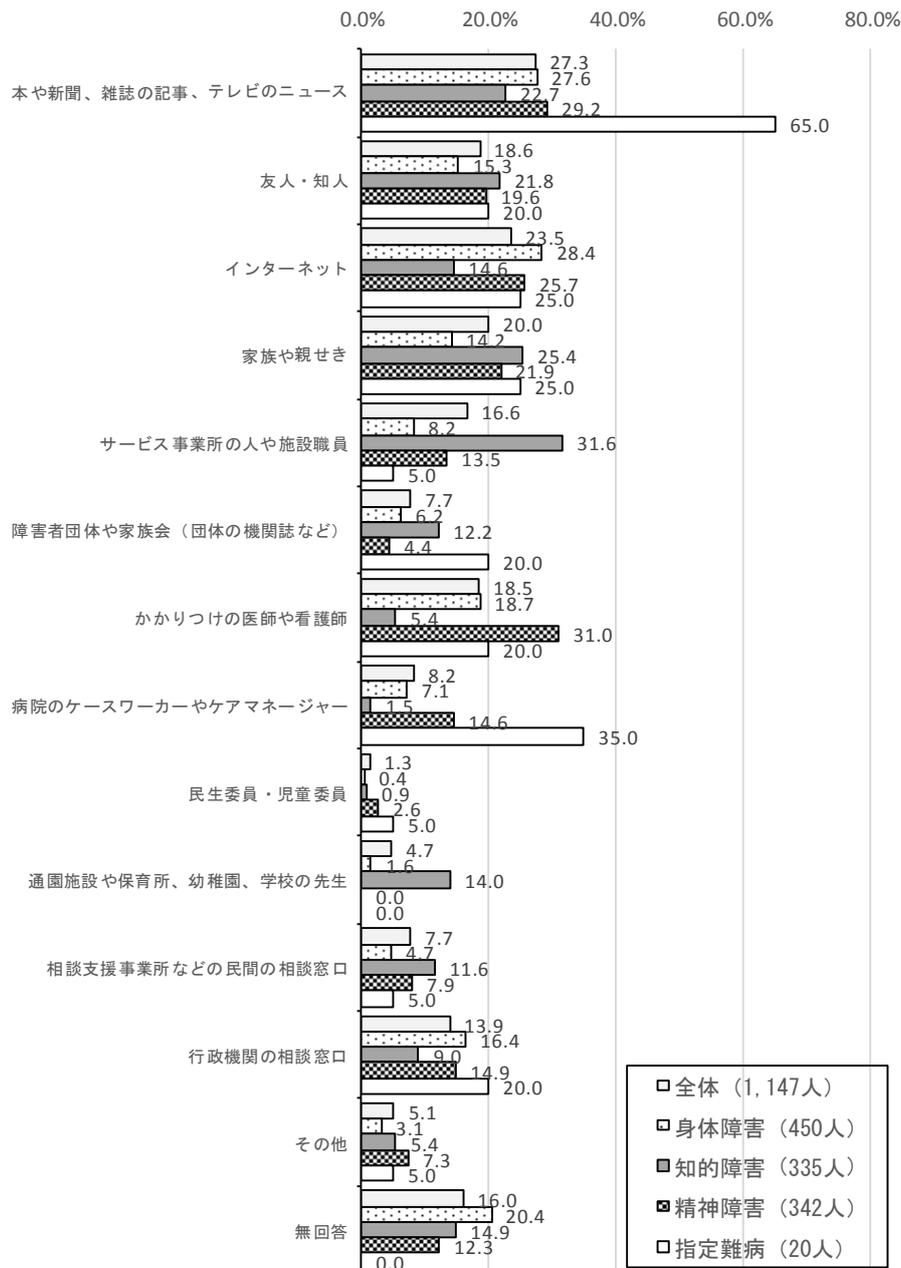
困ったときの相談先、障害別（複数回答）



(2) 福祉サービスなどの情報入手先

多岐にわたっていますが、「本や新聞、雑誌の記事、テレビのニュース」が最も多く27.3%です。身体障害の27.6%、指定難病の65.0%が「本や新聞、雑誌の記事、テレビのニュース」、知的障害では「サービス事業所の人や施設職員」(31.6%)、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」(31.0%)が最も多くあげられています。

情報入手先、障害別（複数回答）

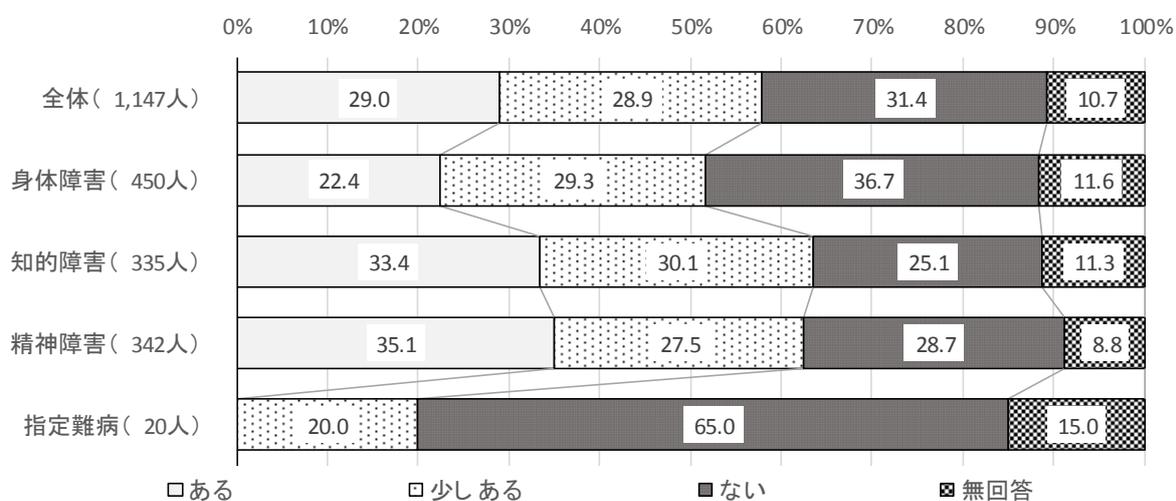


8. 権利擁護について

(1) 障害がある事による差別や嫌な思い、配慮や工夫がなく困ったこと

全体では「ある」と「少しある」を合わせて 57.9%の人が困った経験があると答えています。指定難病（20.0%）では比較的少なく、身体障害（51.7%）や知的障害（63.5%）と精神障害（62.6%）では多くなっています。

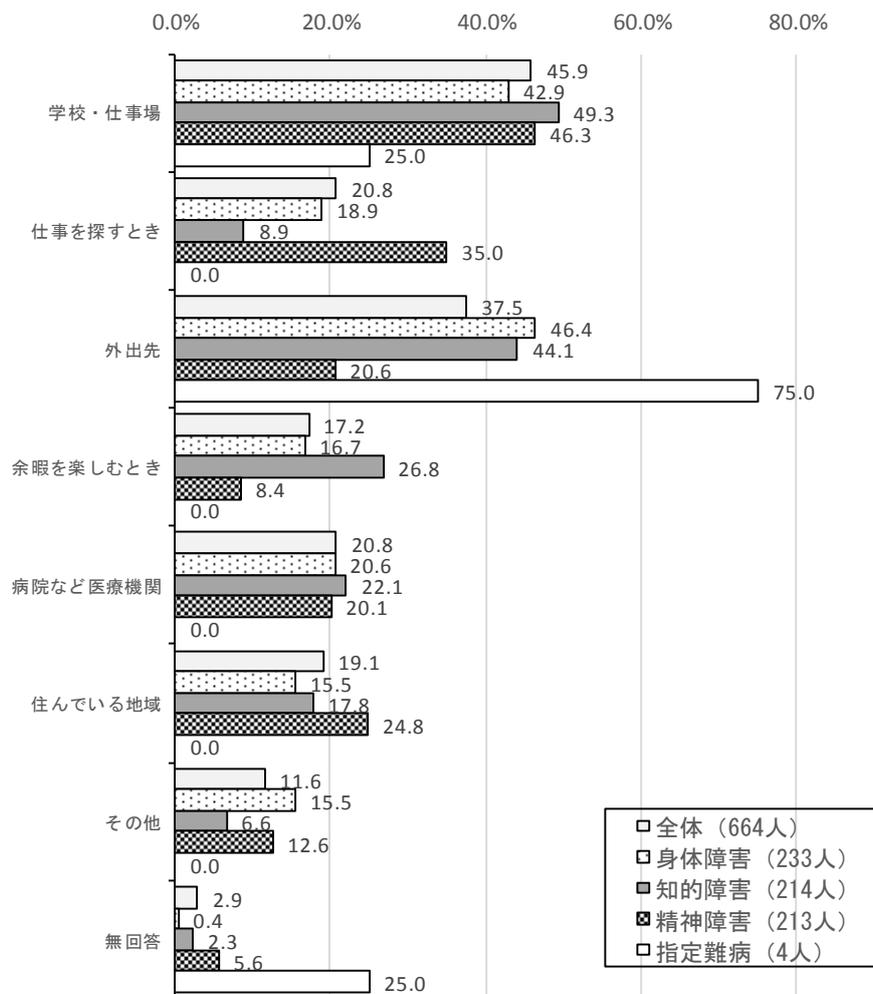
障害があることで配慮や工夫がなく困ったことの有無、障害別



(2) 障害がある事による差別や嫌な思い、配慮や工夫がなく困ったことの内容

全体では「学校・仕事場」(45.9%)、「外出先」(37.5%)の順に多くなっています。精神障害では、「仕事を探すとき」(35.0%)と回答する方が他の障害に比べ多くなっています。

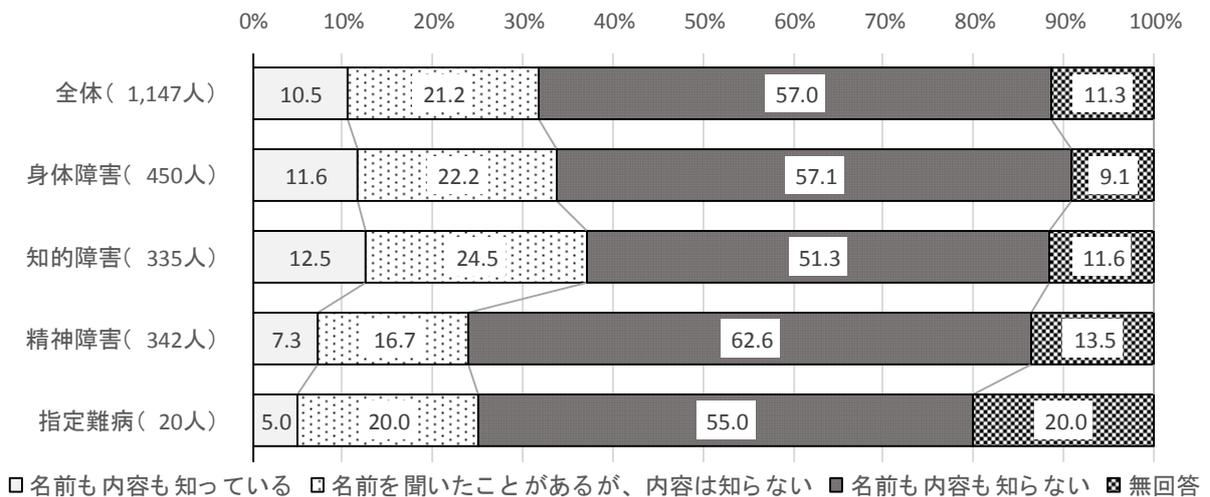
困ったりした場所、障害別(複数回答)



(3) 障害者差別解消法について

全体では「名前も内容も知っている」が10.5%で、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と「名前も内容も知らない」を合わせると78.2%と約8割の人が内容を知らないと回答しています。

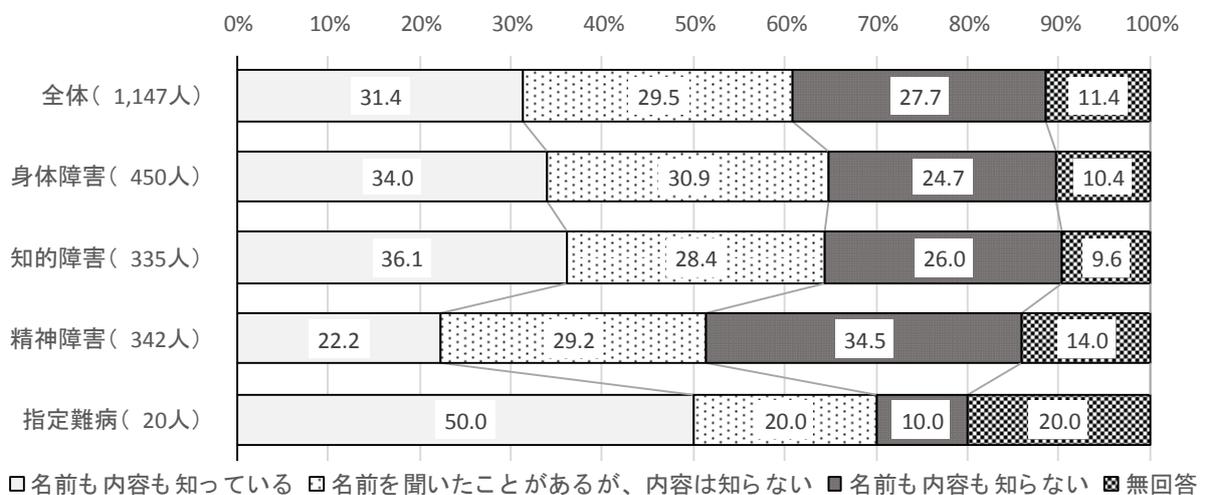
障害者差別解消法について



(4) 成年後見制度について

全体では「名前も内容も知っている」が31.4%で、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と「名前も内容も知らない」を合わせると57.2%と半数以上の方が内容を知らないと回答しています。

成年後見制度について

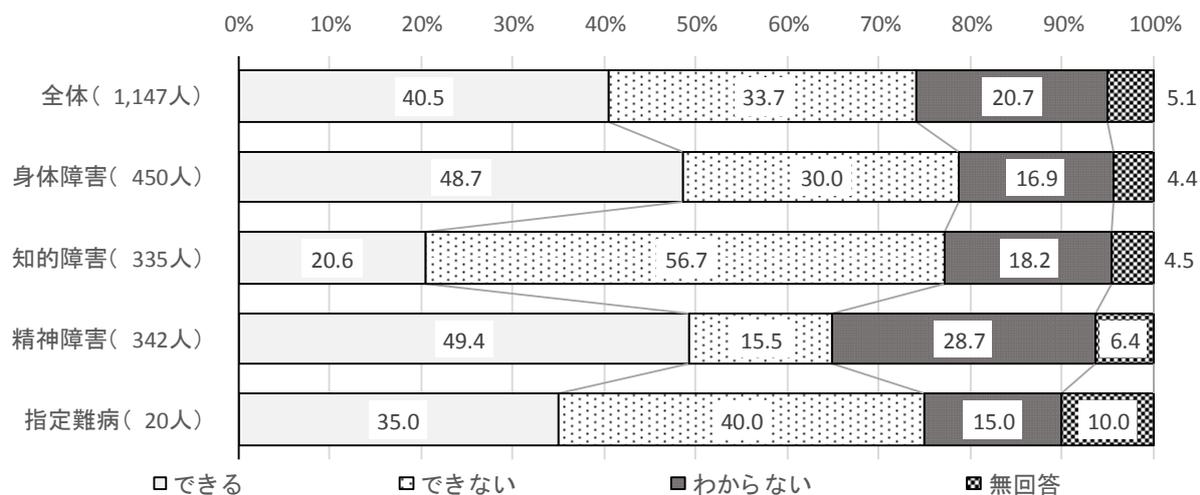


9. 災害時の避難等について

(1) 火事や地震などの災害時の自力での避難

全体では「できる」(40.5%)と「できない」(33.7%)と大きな差はありませんが、「わからない」とする人が20.7%います。知的障害では「できない」(56.7%)が多くなっています。

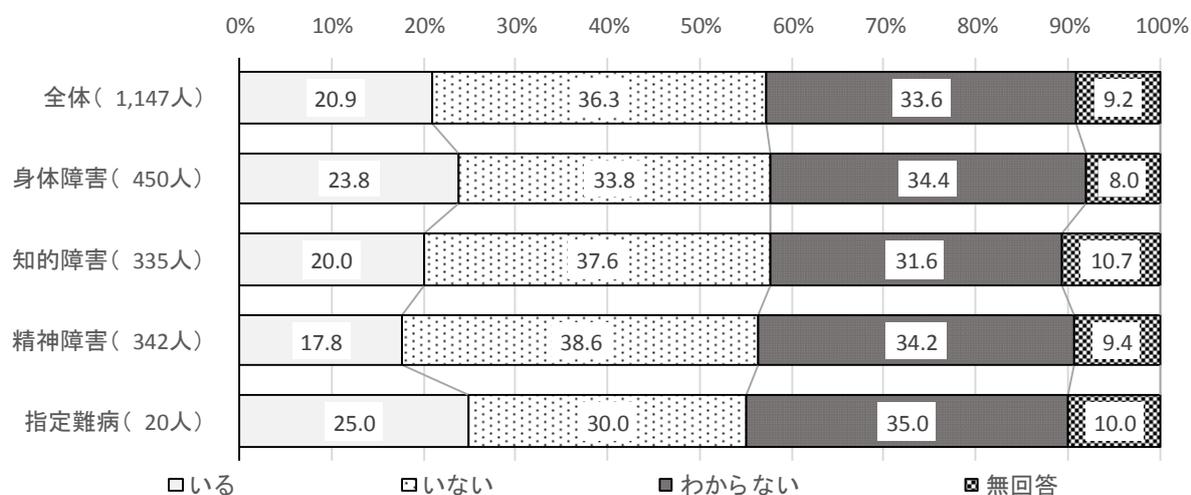
火事や地震等の災害時に一人で避難できるか、障害別



(2) 近所に助けてくれる人

全体では「いる」(20.9%)よりも「いない」(36.3%)とする割合の方が多くなっています。また「わからない」(33.6%)と回答した人も多くなっています。精神障害では「いる」とする人が17.8%となっています。

近所にあなたを助けてくれる人はいますか、障害別

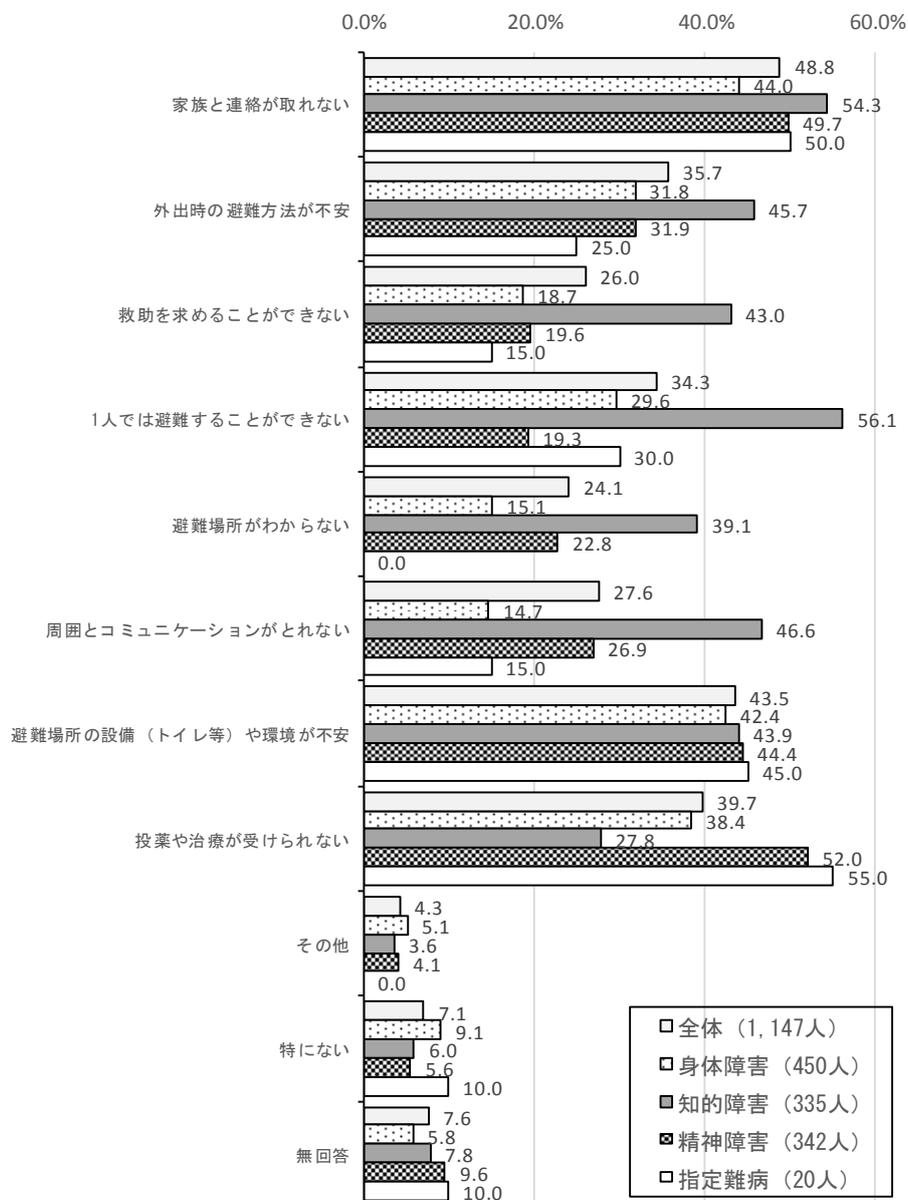


(3) 火事や地震等の災害時に不安に思うこと

全体では「家族と連絡が取れない」(48.8%)が最も多くなっています。知的障害では「1人では避難することができない」(56.1%)、「周囲とコミュニケーションがとれない」(46.6%)、「外出時の避難方法が不安」(45.7%)、「避難場所の設備(トイレ等)や環境が不安」(43.9%)などで他の障害よりも多くなっています。

「投薬や治療が受けられない」と回答した人が精神障害で52.0%、指定難病では55.0%となっています。

火事や地震等の災害時に不安に思うこと、障害別(複数回答)

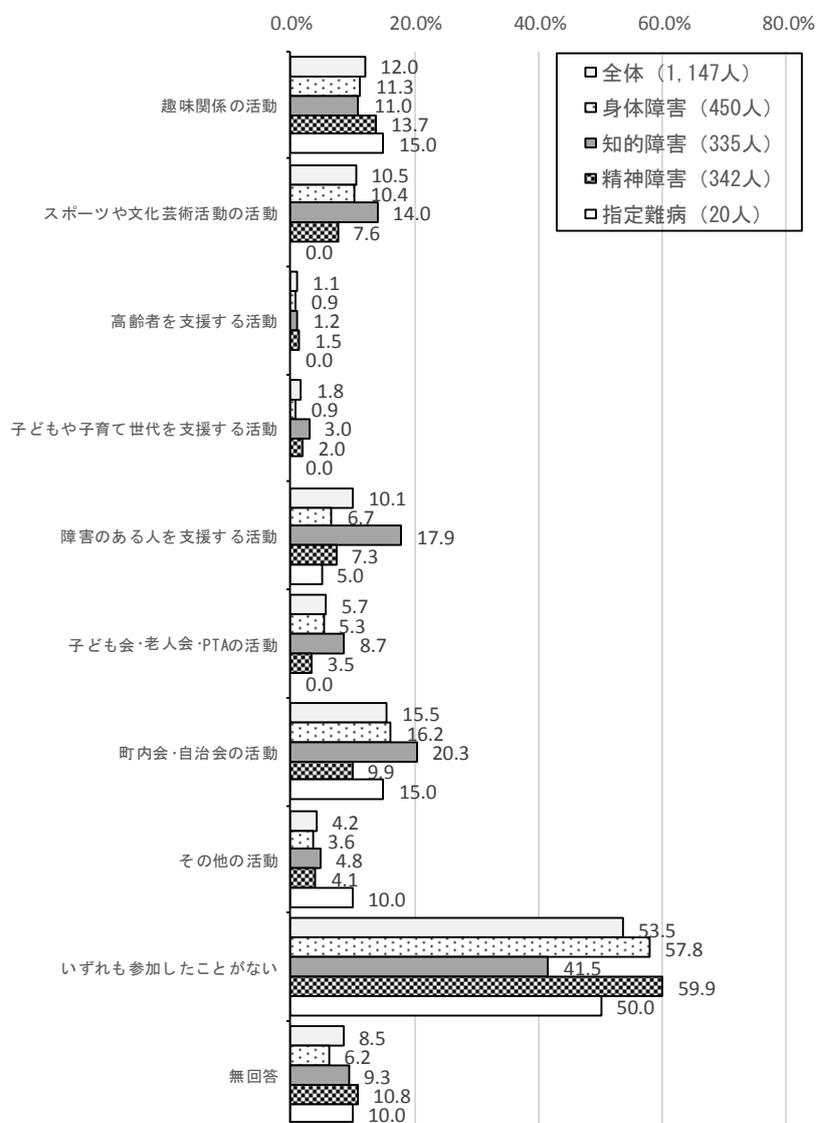


10. 地域とのかかわりについて

(1) 社会参加の有無

全体では「いずれも参加したことがない」(53.5%)が最も多く半数を超えています。参加したことがあるものでは「町内会」(15.5%)が最も多くなっています。知的障害では、「町内会」(20.3%)、「障害のある人を支援する活動」(17.9%)、「スポーツや文化芸術活動の活動」(14.0%)、「趣味関係の活動」(11.0%)と回答した人がいます。

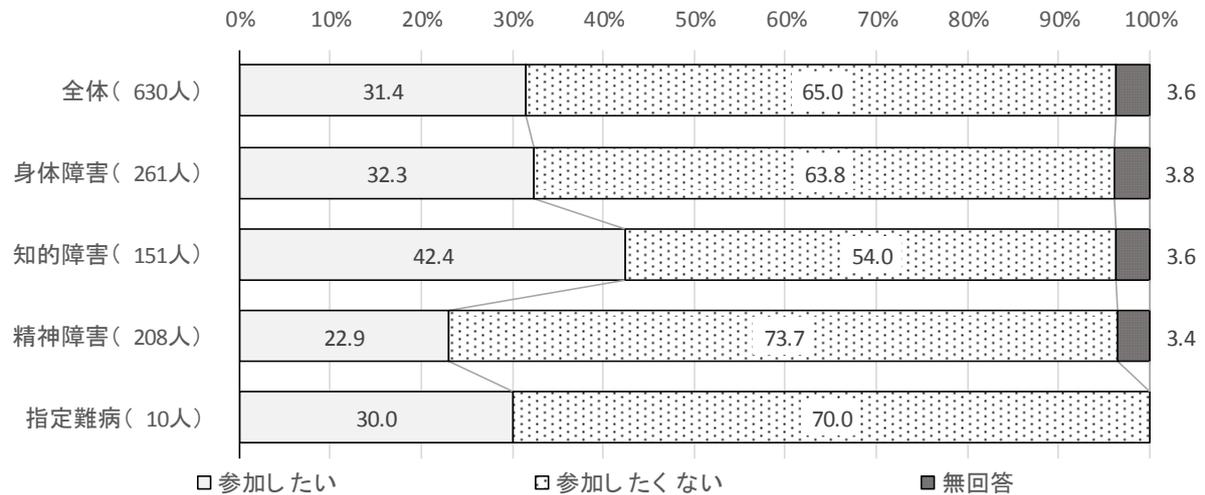
社会参加の有無、障害別（複数回答）



(2) 社会参加がない方の今後の社会参加希望有無

全体では「参加したい」(31.4%)よりも「参加したくない」(65.0%)とする方が多くなっています。特に精神障害では「参加したくない」が7割を超えています。

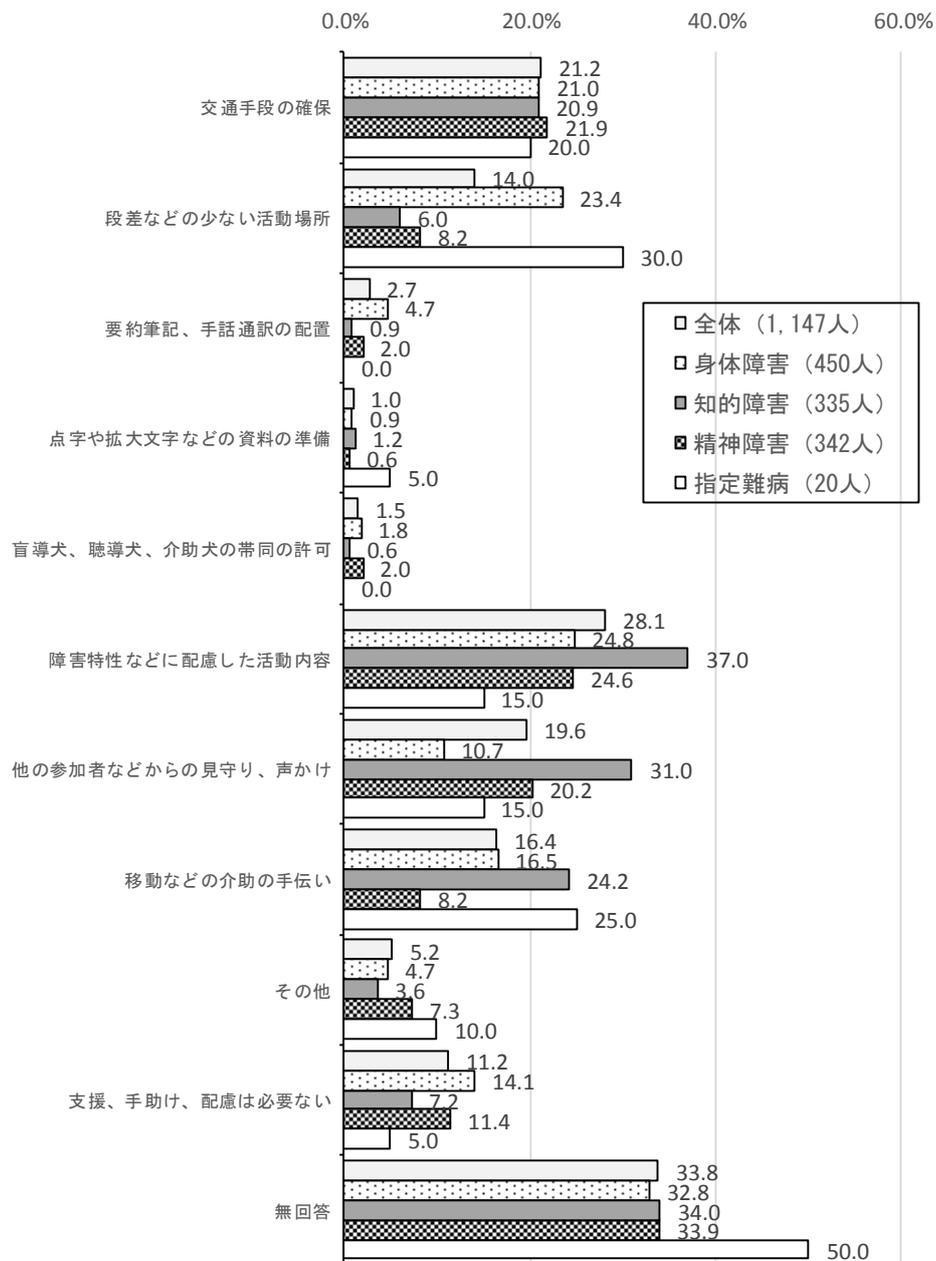
社会参加の希望有無、障害別



(3) 社会参加をするために必要な支援や手助け、配慮

全体では「障害特性などに配慮した活動内容」(28.1%)が最も多く、次に「交通手段の確保」(21.2%)、「他の参加者などからの見守り、声かけ」(19.6%)となっています。身体障害では、「段差などの少ない活動場所」(23.4%)の回答も多くいます。

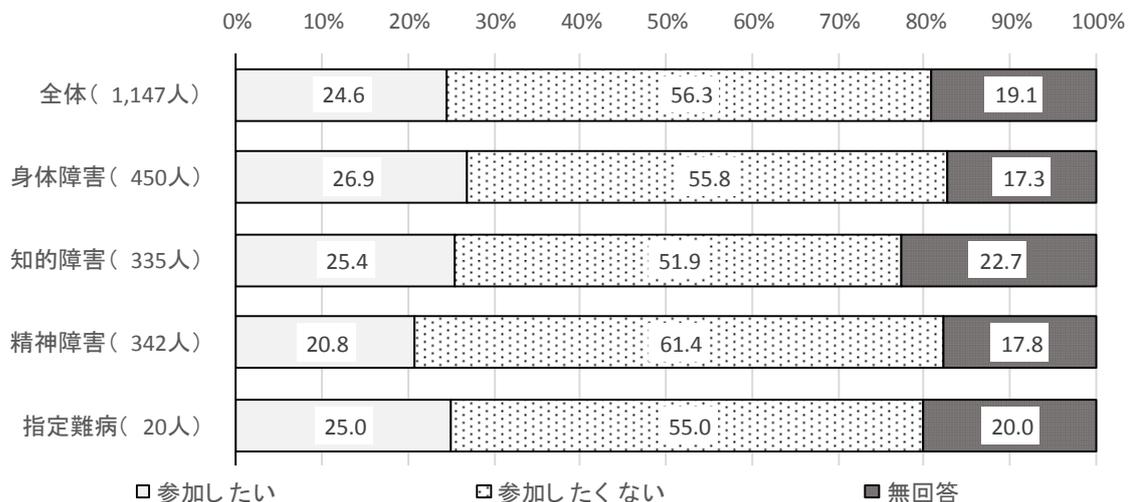
社会参加をするために必要な支援や手助け配慮の内容、障害別（複数回答）



(4) 社会参加として活動の手伝いや企画・運営することについて

全体では「参加したい」(24.6%)よりも「参加したくない」(56.3%)とする方が多くなっています。特に精神障害では「参加したくない」が6割を超えています。

活動の手伝いや企画運営することについて



11. 自由記述の件数について

(1) 自由記載

全体では「経済的問題・助成・就労」に関する意見が89件(22.5%)と最も多く次いで「障害者への理解・啓発、差別やいじめについて」が50件(12.7%)、「相談体制・制度運用に対する要望・市への要望」が44件(11.1%)、「設備・インフラ・施設等の苦言や要望」が42件(10.6%)、「将来不安・緊急時不安」が41件(10.4%)となっています。

自由記載の意見数

| 項目（内訳項目） | 全体 | 身体障害 | 知的障害 | 精神障害 | 難病 |
|--------------------------|-----|------|------|------|----|
| 1. 経済的問題・助成・就労 | 89 | 27 | 23 | 38 | 1 |
| (経済的支援に対する要望) | 52 | 15 | 10 | 27 | 0 |
| (就労に関する要望や意見) | 32 | 8 | 13 | 10 | 1 |
| (経済的な不安・不満) | 5 | 4 | 0 | 1 | 0 |
| 2. 障害者への理解・啓発、差別やいじめについて | 50 | 17 | 12 | 20 | 1 |
| (理解やサービスの周知についての意見・要望) | 33 | 14 | 8 | 10 | 1 |
| (差別やいじめについて) | 17 | 3 | 4 | 10 | 0 |
| 3. 相談体制・制度運用に対する要望・市への要望 | 44 | 27 | 9 | 8 | 0 |
| (計画・制度に対する要望・意見) | 21 | 14 | 5 | 2 | 0 |
| (相談窓口や相談体制に関する不満や要望) | 13 | 7 | 3 | 3 | 0 |
| (市政・市職員に対する不満や要望・苦言) | 10 | 6 | 1 | 3 | 0 |
| 4. 設備・インフラ・施設等の苦言や要望 | 42 | 14 | 16 | 9 | 3 |
| 5. 将来不安・緊急時不安 | 41 | 9 | 25 | 7 | 0 |
| (将来への不安) | 31 | 5 | 21 | 5 | 0 |
| (災害時等の緊急時の不安) | 10 | 4 | 4 | 2 | 0 |
| 6. 人材不足・人材確保・スタッフへの不満や苦言 | 26 | 9 | 14 | 2 | 1 |
| 7. 申告書類の簡素化・手続省略要望 | 18 | 6 | 3 | 8 | 1 |
| 8. 医療・介護・教育・地域との連携および要望 | 13 | 5 | 4 | 4 | 0 |
| 9. その他 | 72 | 30 | 21 | 20 | 1 |
| (アンケートに対する要望等) | 29 | 10 | 13 | 6 | 0 |
| (障害者施策に対する感謝の意見) | 26 | 13 | 4 | 8 | 1 |
| (その他) | 17 | 7 | 4 | 6 | 0 |
| 合 計 | 395 | 144 | 127 | 116 | 8 |

「その他」の内容（原文の通り）

- ・市への意見としては見当違いなコトですが…家に来る人で最近ガスの会社変えや宗教のおさそい等が多くてうっとおしいです。聞こえないので、というと話のわかる人を出して下さいとかしつこいです。うっかり一人ぐらしですとも言えず。ガスにかぎらずムリなセールスは厳しく禁止してほしいです。宗教も聞こえないからいらないと言っても「それは前世の行いがどうのこうの」とバカらしい事を言い出したり。ハッキリと断ってもしつこいです。最初から出なければ良いと思って宅急便や郵便かとも思うと出ない訳にもゆかず。（在宅で仕事してるので、仕事のやりとりは主に宅急便なので…）こういうの（セールス、かんゆう）一斉敷地内立入禁止ってできないんですかねえ…
- ・障害児を育てることにつかれた。もう気力がない。サービスや制度、気力がないとムリ。そして、どんどん孤立、孤独になっていく。
- ・精神障害者と知られたくないので。障害者手帳を身体障害者と同じ形式のものにしてもらいたい、という希望を県に伝えてほしい。
- ・障害者といっても色々な障害をもった方々がおります。したがって、それらにあった対応が出来る町作りを目標してほしいです。
- ・やはり地方都市では無理があるだろう、年金が少ないから大変、財力不足、もう少し障害者に住みやすくしてほしい。
- ・自分が障害年金に加入出来るのかも何も知らず、特に福祉部～計画係は、なんの為にあるのですか…、何でも知っているのでしょ…それなのに手助けもしてくれない。アンケートはどうかされるのですか？とっただけですか！
- ・知的障害者といっても、いろいろなタイプ（重度、中度、軽度）問題に対して（仕事）意見は、それぞれ違いが大きいと思います。身体、精神、もいろいろな問題があると思いますが、すべていっしょにした質問では、本人も答えられないと感じます。一つ一つは、とてもむずかしく、又、仕事に対しては様々な疑問があります。◎すべての障害者、病気等には、本人の苦しみ、悩みは本人しか知らない事と思っています。※横浜市のように、知的、精神、身体、と3本に独立してほしいです。地域でのケースワーカーさんが1人で全体を見ることには、限界があると思いますので、ぜひ横須賀市でも、地域に専門の人（三年事に人が変わる役所ではなく）を知的、精神、身体と独立させて下さい。
- ・安心して暮らせる横須賀市にして欲しい！！
- ・こうゆうアンケートなど、横須賀市はやさしい市だと思います。本当に真面目に生きていても、本当に困っている人には、手を差し伸べてあげられる市であって欲しいと思っています。
- ・障害者にとってよりよい生活環境になればいいなと思います。
- ・母と暮らしているので特にありません。気の向くまま、気ままに生活してます。（代筆母）アンケートも全然書こうとしません。
- ・職場の人々は、まちがえたらすぐに、あやまる事です。
- ・障害に理解がある市長でない困ります。生きる事、死ぬ事、悩んで悩んで今生きています。きれいな心で助けて下さい。私の町だから。明日は市長選挙です。
- ・自力をつくしているが限界も近いと感じる
- ・よくわからない事が多いな。精神障害者には世間はやさしくない。生活しづらい。

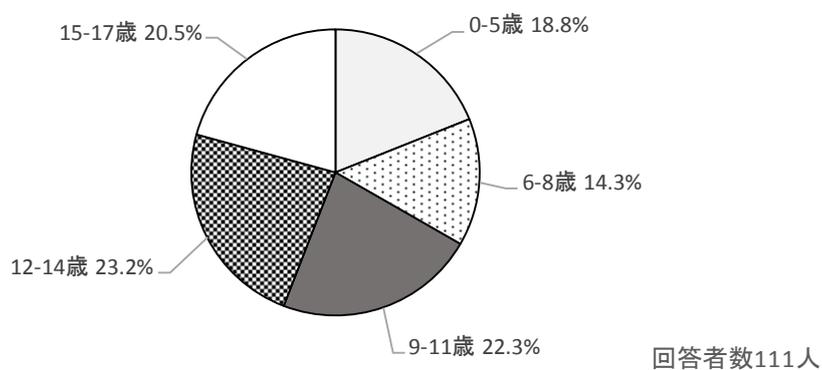
12. 障害児について

(1) 年齢と性別

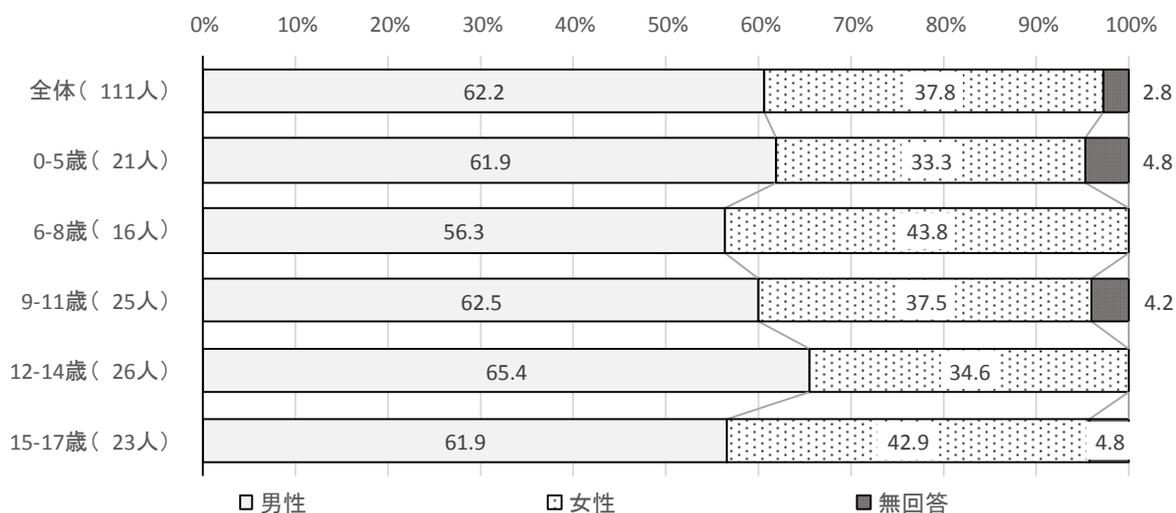
回答者の年齢は、0～5歳が18.8%、6～8歳が14.3%、9～11歳が22.3%、12～14歳が23.2%、15～17歳が20.5%となっています。

性別では、全体として「男性」が62.2%となっています。

年齢別



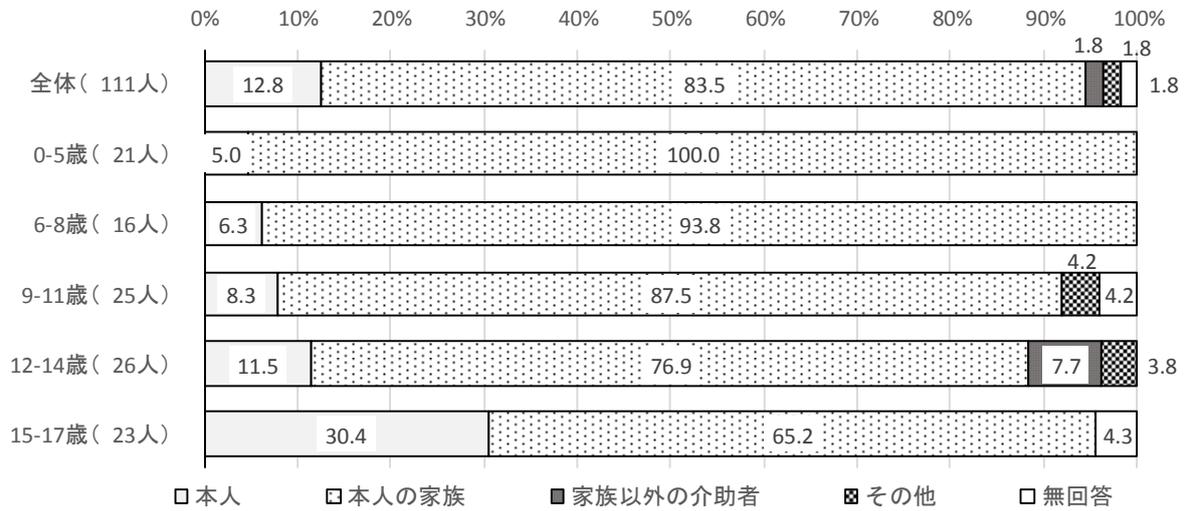
性別、年齢別



(2) 記入者について

全体として、「本人の家族」(83.5%)がほとんどを占めます。15~17歳では「本人」が30.4%と多くなっています。

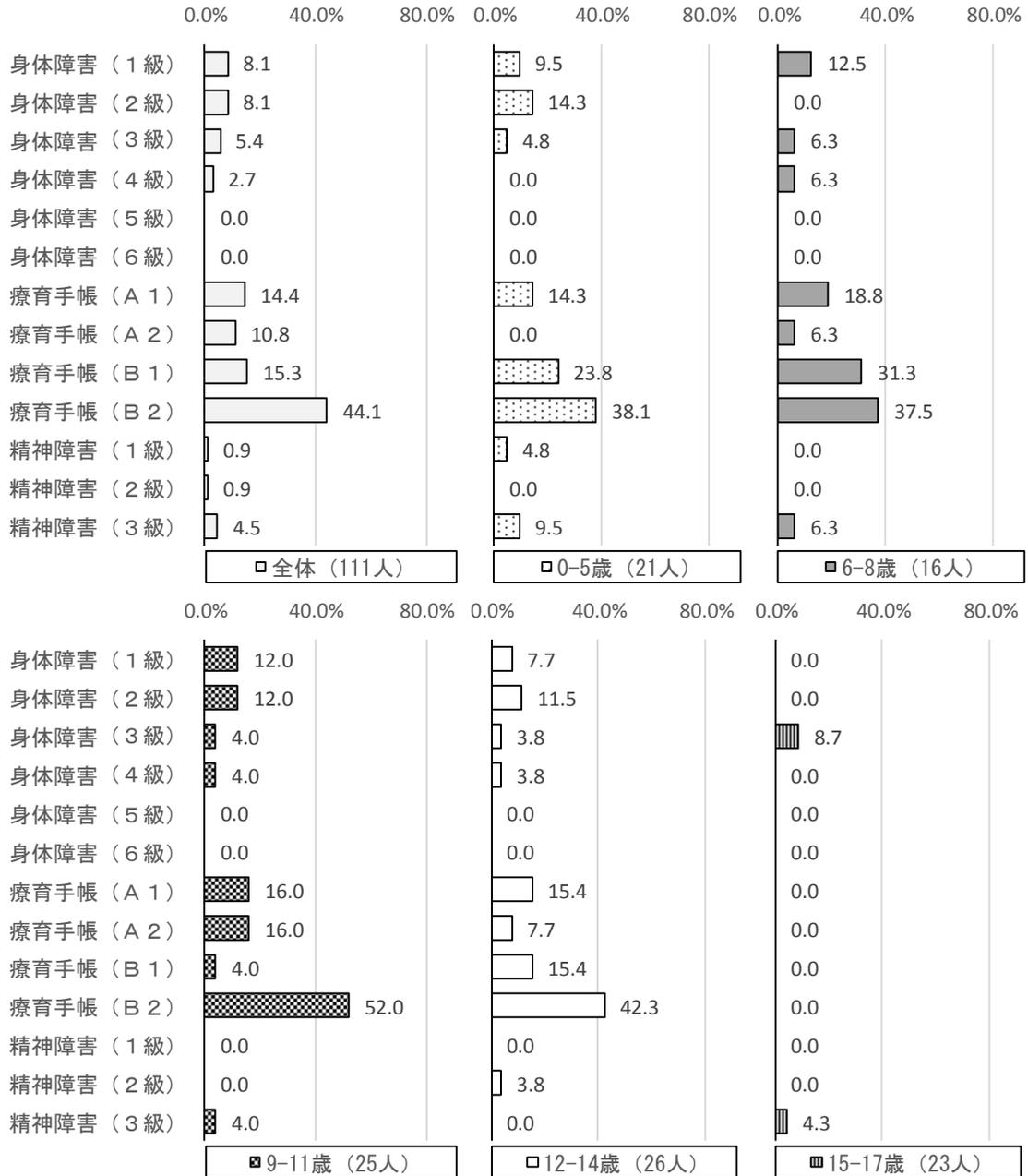
記入者



(3) 障害者手帳の手帳種別と障害程度

持っている手帳の種類は、全体では「療育手帳 B2」（44.1%）が最も多くなっています。9～11歳では、「療育手帳 B2」が半数となっています。

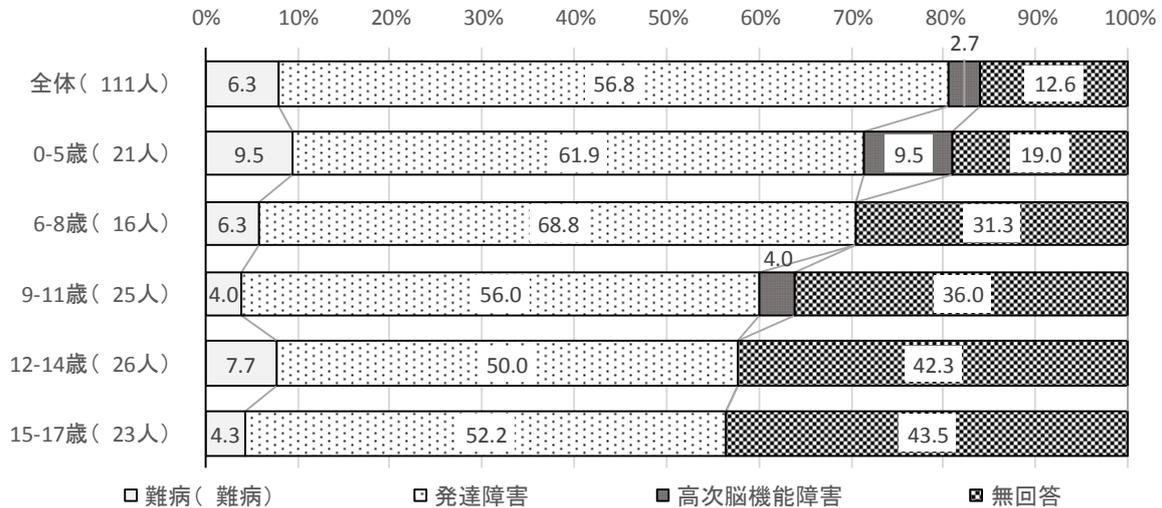
障害手帳別と障害程度



(4) 指定難病と発達障害等

全体で、「発達障害」が56.8%と半数を超えています。特に0～5歳と6～8歳については「発達障害」が6割以上となっています。

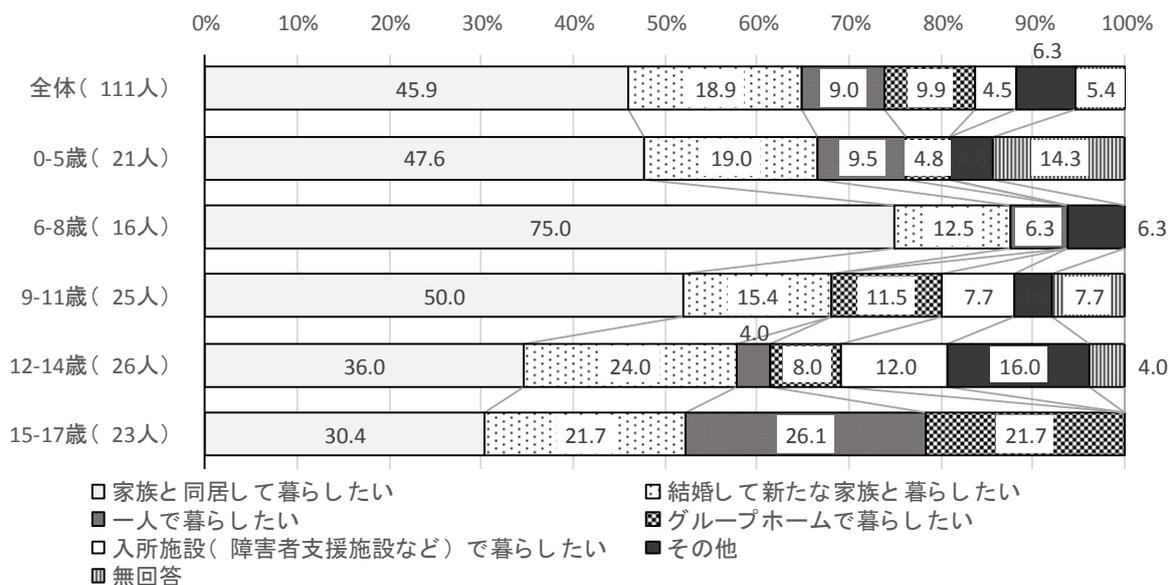
指定難病や発達障害等



(5) 今後の暮らしの希望

今後の暮らしについて、全体では「家族と同居して暮らしたい」(45.9%)が最も多く、次いで「結婚して新たな家族と暮らしたい」(18.9%)となっています。6～8歳では「家族と同居して暮らしたい」が75%となっています。

今後の暮らしの希望

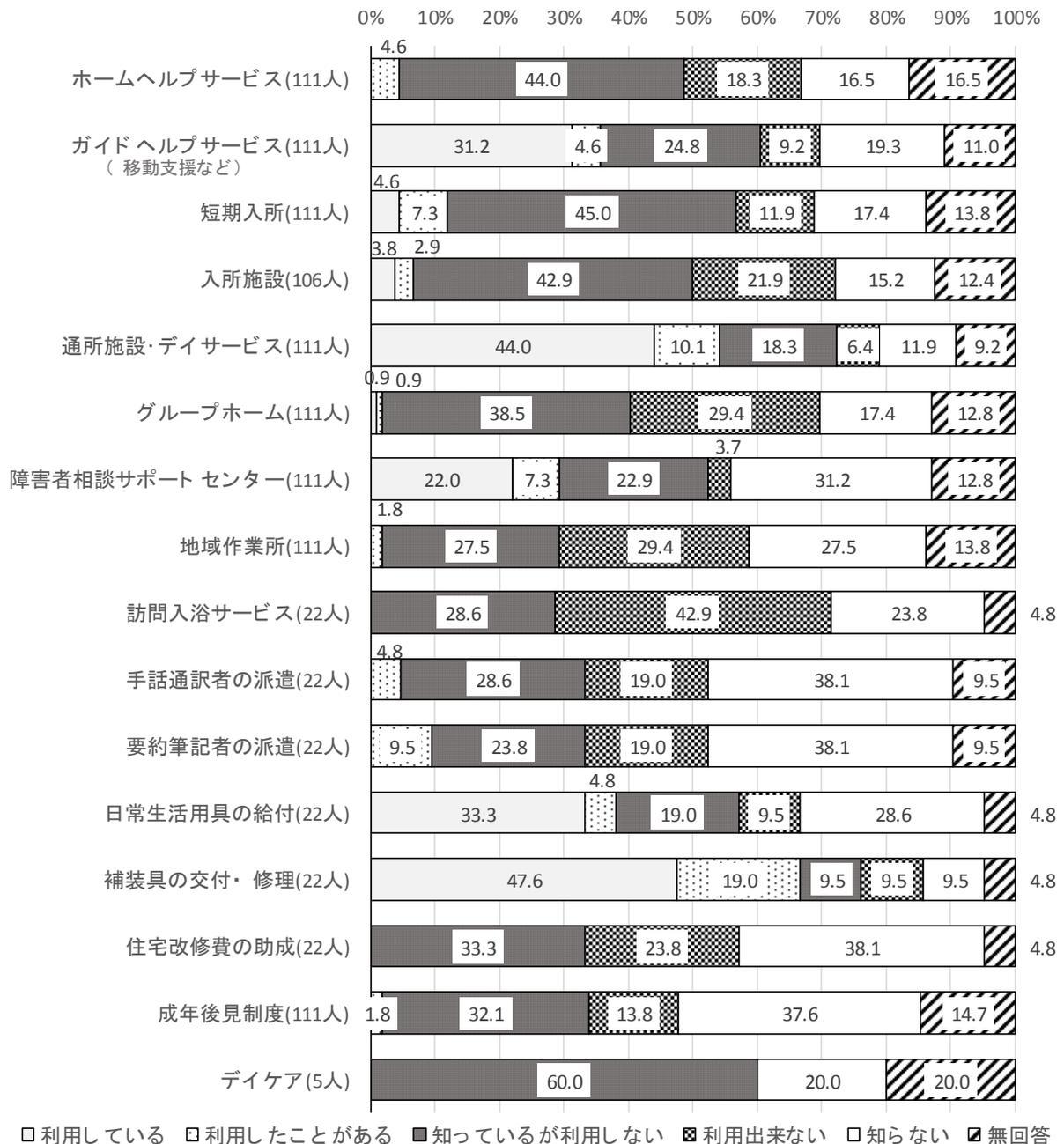


(6) 福祉サービスの利用状況

福祉サービスの利用状況は下図の通りです。

「利用している」の割合が高い福祉サービスは、通所施設・デイサービス(44.1%)、ガイドヘルプサービス(31.2%)、障害相談サポートセンター(22.0%)となっています。

福祉サービスの利用状況



(7) 福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

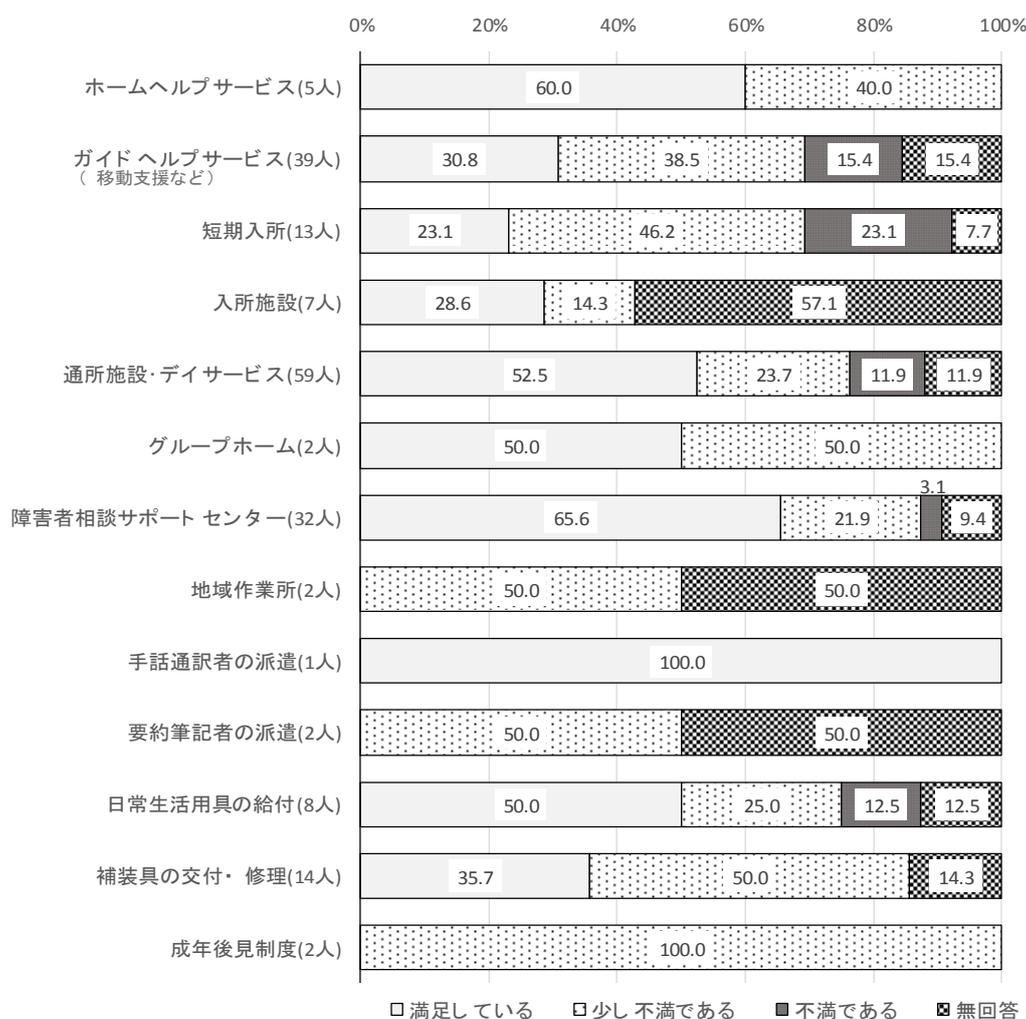
福祉サービスの満足度は下図の通りです。

13のサービスのうち、6のサービスにおいて「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より高くなっています。

「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合が「満足している」よりも高い福祉サービスは、短期入所（69.3%）、ガイドヘルプサービス（53.9%）となっています。

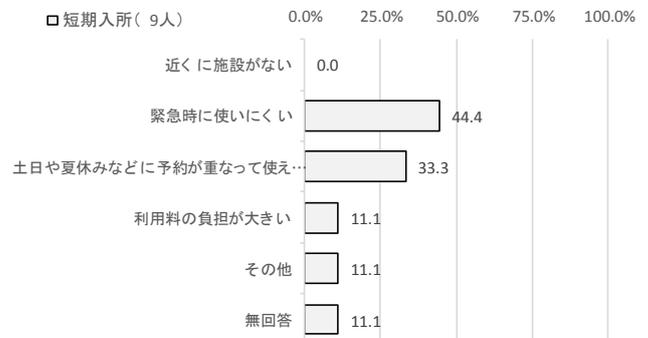
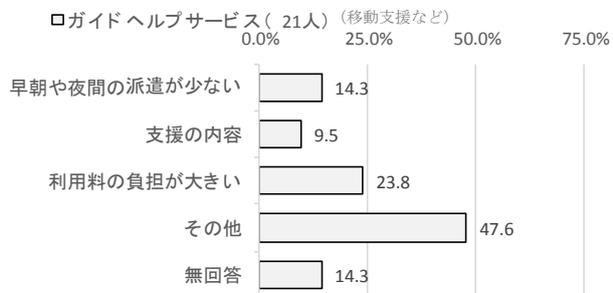
なお、全ての年齢を合計した全体結果では、ホームヘルプサービス、入所施設、通所施設・デイサービス、グループホーム、障害者相談サポートセンター、地域作業所が「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より20ポイント以上高くなっています。

福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

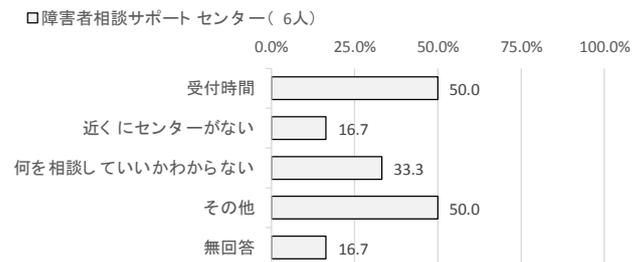
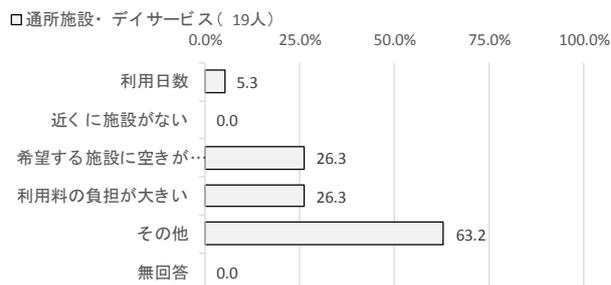


(8) 不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)

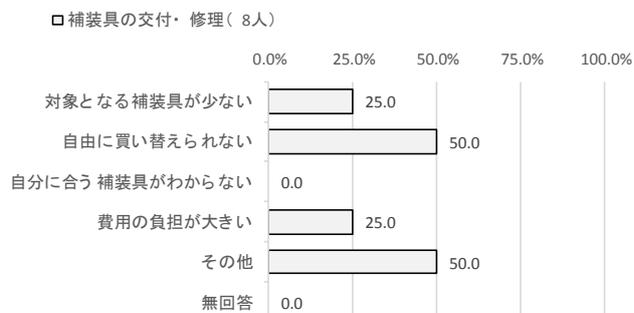
福祉サービスの利用における不満の内容は下図の通りです。(5人以上の項目のみ)



| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------|----|
| サービス時間が不十分 | 1 |
| 予約ができない | 2 |
| 利用できない時間帯 | 1 |
| ヘルパー不足 | 2 |

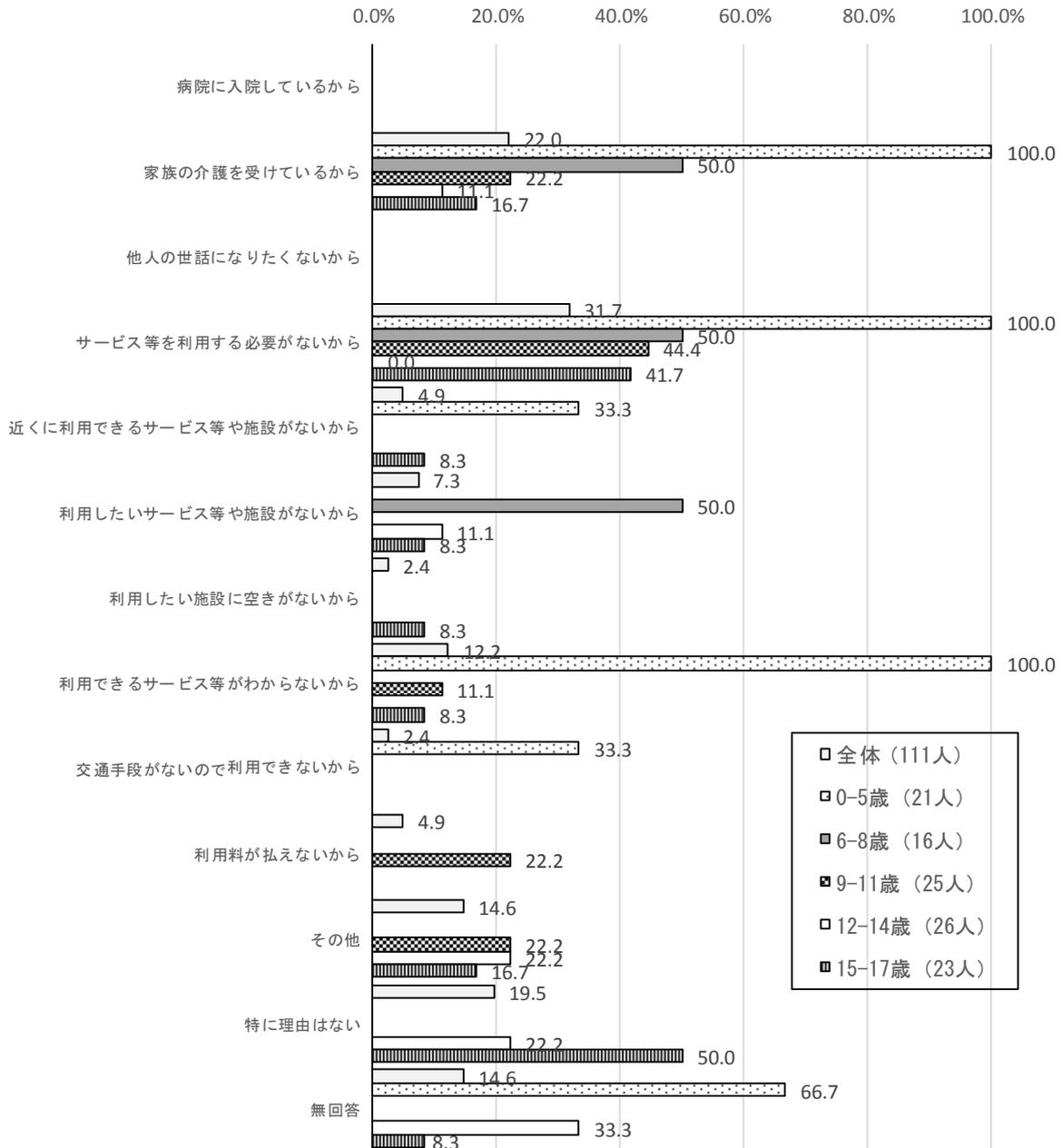


| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 4 |
| 予約ができない | 2 |
| サービス時間が不十分 | 1 |
| 手続きの負担 | 1 |



(9) 福祉サービスを利用していない理由

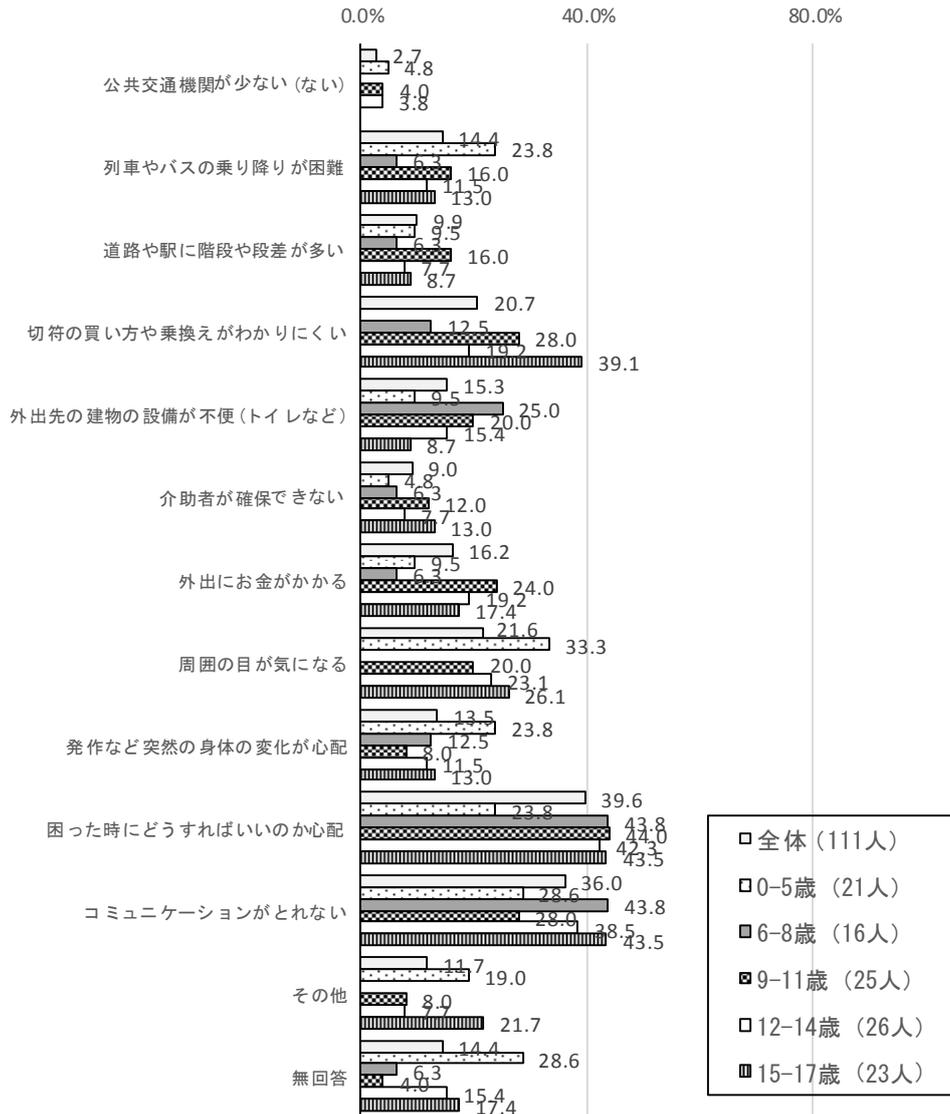
福祉サービスを利用していない理由で最も多いのは、「サービス等を利用する必要がないから」(31.7%)となっています。



(10) 外出時に困ること

外出時の困りごとは、「困った時にどうすればいいのか心配」(39.6%)、「コミュニケーションがとれない」(36.0%)、「周囲の目が気になる」(21.6%)、「切符の買い方や乗換えがわかりにくい」(20.7%)の順に多くなっています。

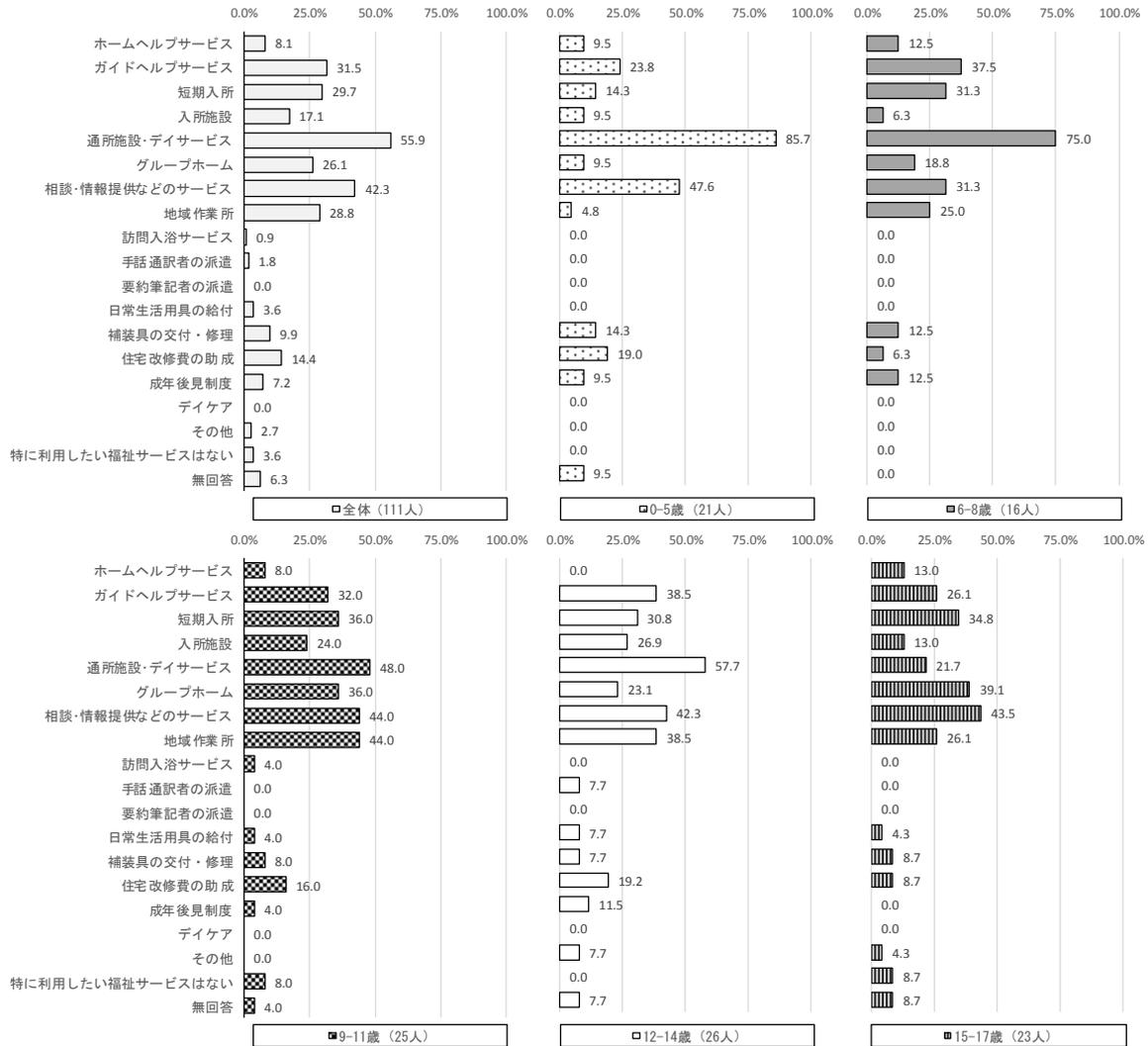
外出時の困りごと、障害別(複数回答)



(11) 今後の福祉サービスの利用希望

今後利用したい福祉サービス等は、全体では「通所施設・デイサービス」(55.9%)の割合が最も多くなっています。特に0~5歳については「通所施設・デイサービス」の利用希望が85.7%、6~8歳でも75.0%と多くなっています。

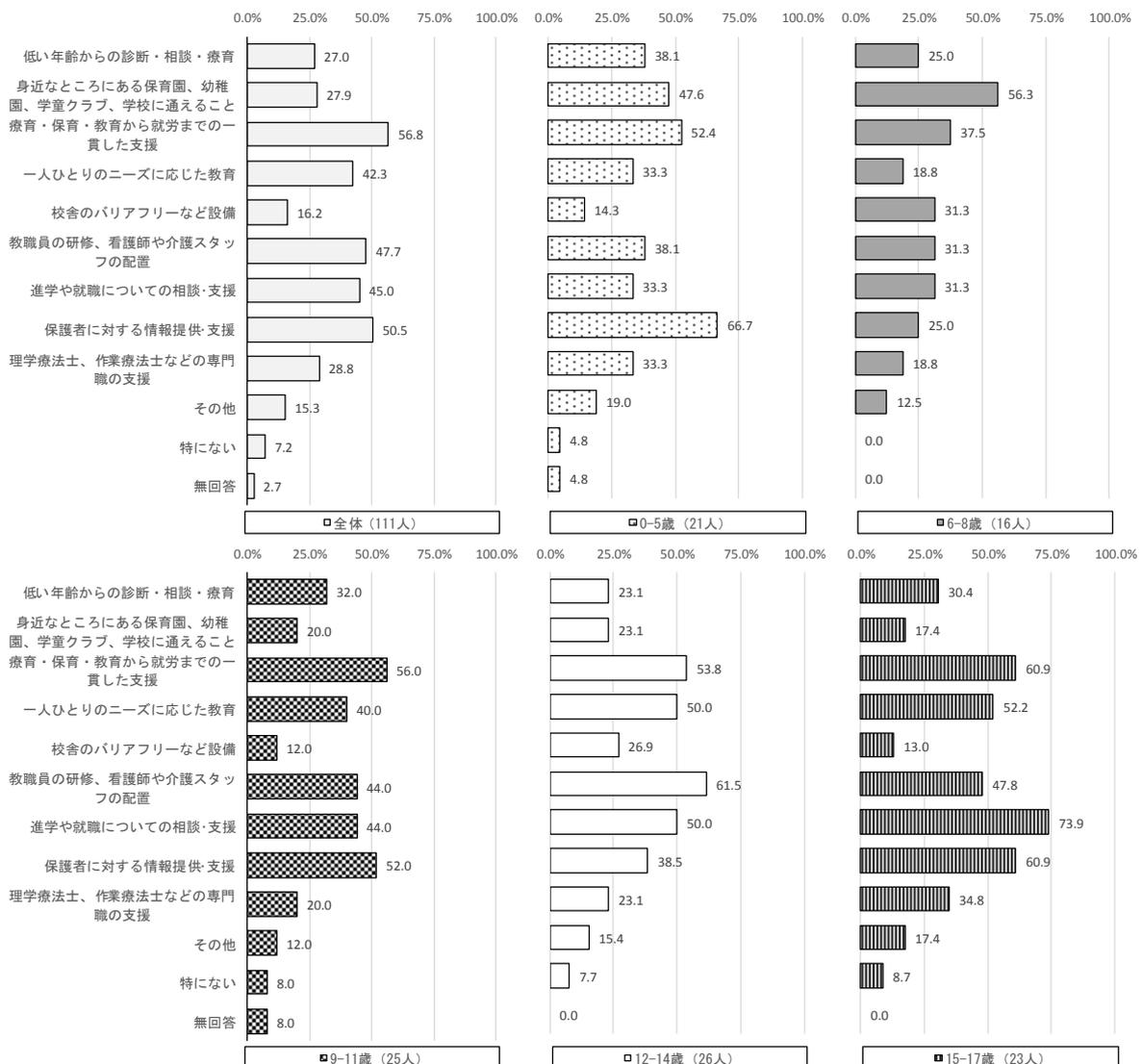
今後利用したいサービス、障害別(複数回答)



(12) 障害のある子どもの教育・療育で不足していること

全体では「療育・保育・教育から就労まで一貫した支援」(56.8%)の割合が多くなっています。0～5歳では「保護者に対する情報提供・支援」(66.7%)、6～8歳では「身近なところにある保育園、幼稚園、学童クラブ、学校に通えること」(56.3%)、12～14歳では「教職員の研修、看護師や介護スタッフの配置」(61.5%)、15～17歳では「進学や就職についての相談・支援」(73.9%)が多くなっており、年齢によって不足と感じている内容の変化がうかがえます。

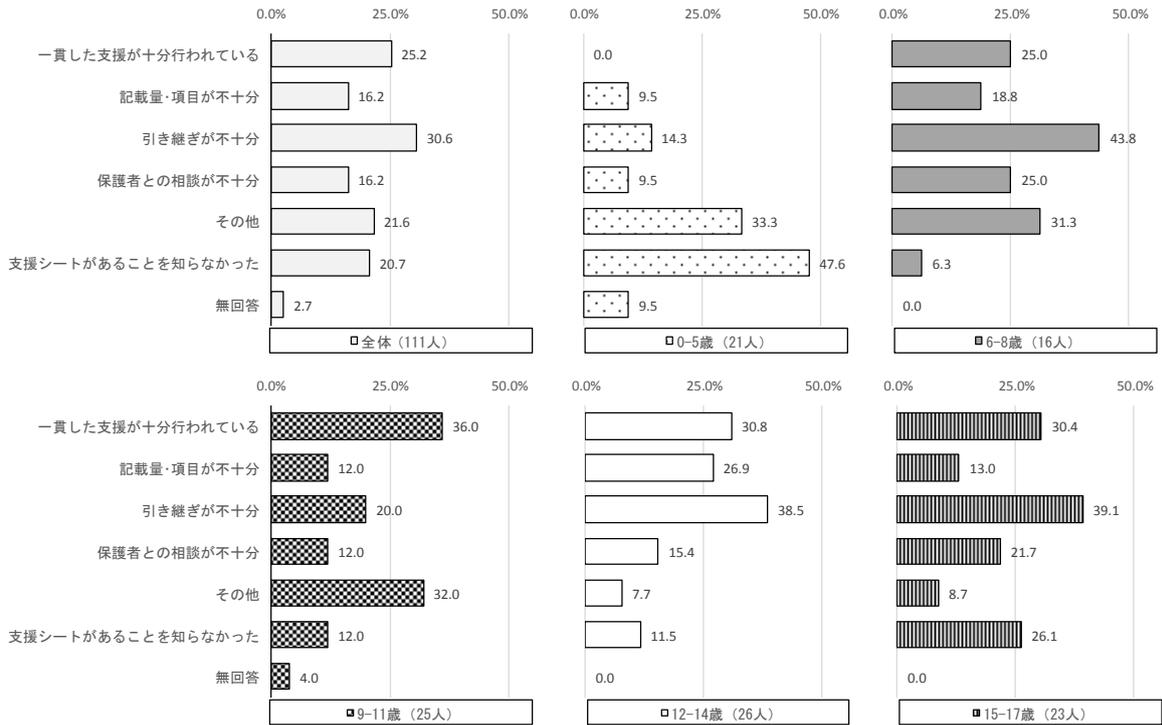
障害のある子どもの教育・療育で不足していること



(13) 「本人・保護者と共につくる支援シート」について

全体では「引継ぎが不十分」が 30.6%となっていますが、一方で「一貫した支援が十分行われている」も 25.2%となっています。0～5歳は「支援シートがある事を知らなかった」が 47.6%で最も多くなっています。

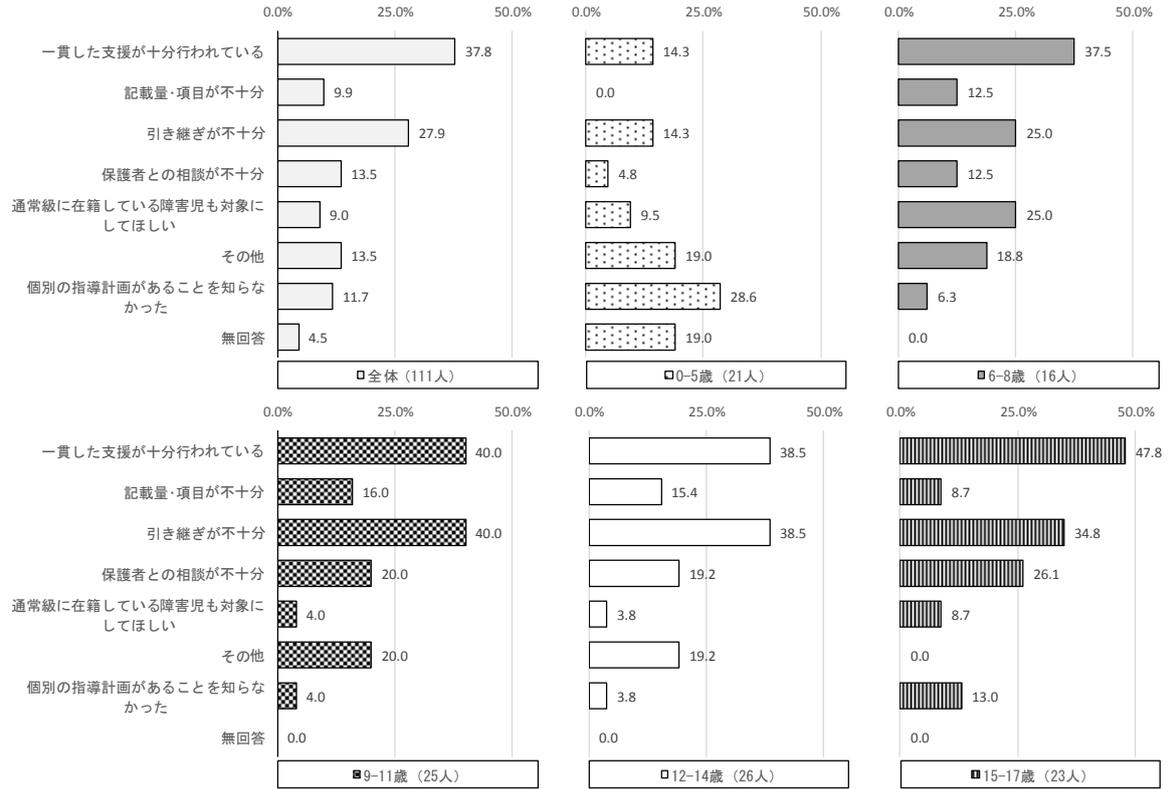
本人・保護者と共につくる支援シート



(14) 「個別の指導計画」について

全体では「一貫した支援が十分行われている」(37.8%)の割合が多くなっています。一方で「引き継ぎが不十分」(27.9%)も多くなっており、年齢が上がるにつれ割合が大きくなっている傾向があります。

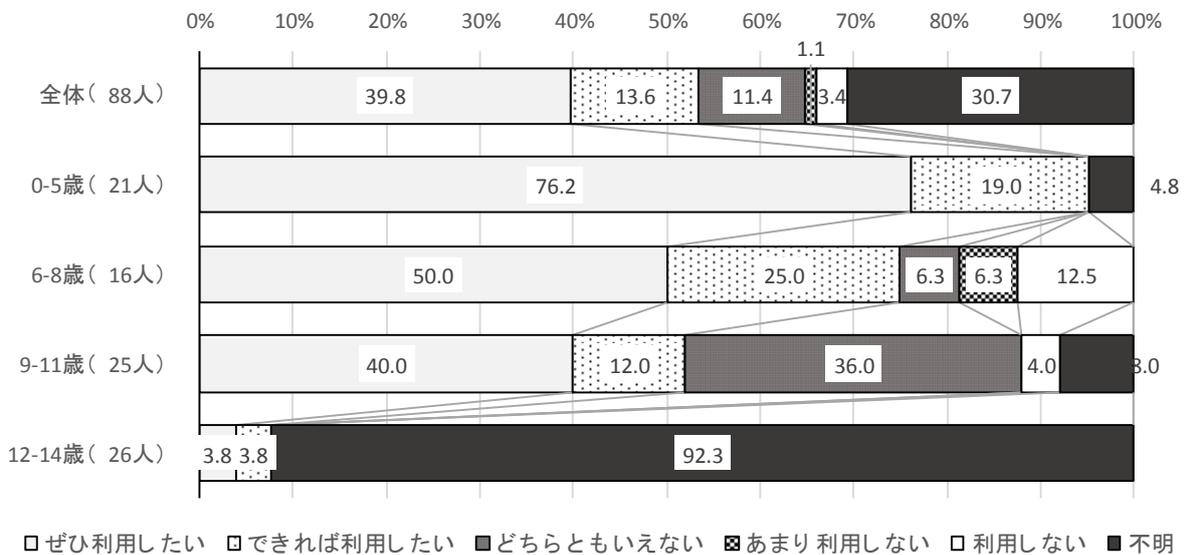
「個別の指導計画」について



(15) 保育所等訪問支援を利用するか（小学生・就学前）

個別的な支援を行うサービスがあった時それを利用したいかどうかについて、全体では「ぜひ利用したい」が39.8%となっています。0～5歳では「ぜひ利用したい」と「できれば利用したい」を合わせると95.2%となり、ほとんどの人が利用希望をしています。一方、9～11歳については、「ぜひ利用したい」と「できれば利用したい」を合わせて52.0%となっていますが、「どちらともいえない」（36.0%）が多くなっています。

個別的な支援を行うサービスの利用希望



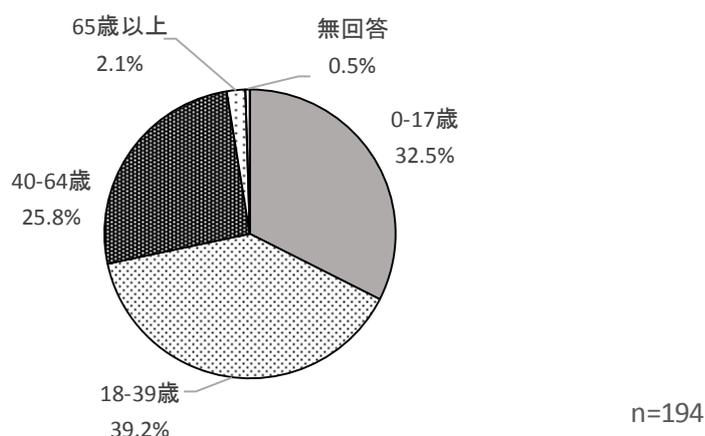
13. 発達障害の方について

(1) 年齢別・性別

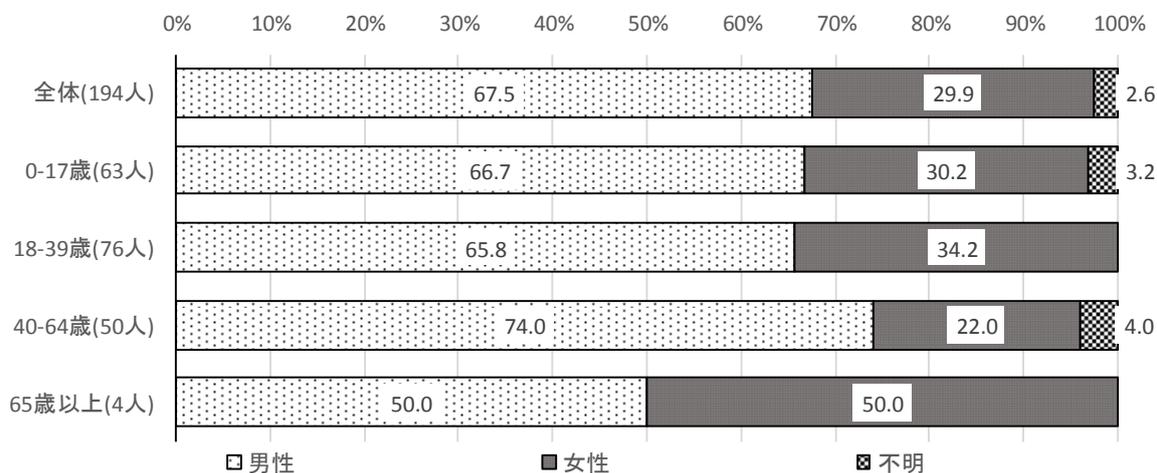
回答者の年齢は、0～17歳が32.5%、18～39歳が39.2%、40～64歳が25.8%となっています。

性別では、全体としては「男性」が67.5%となっています。

年齢別



性別

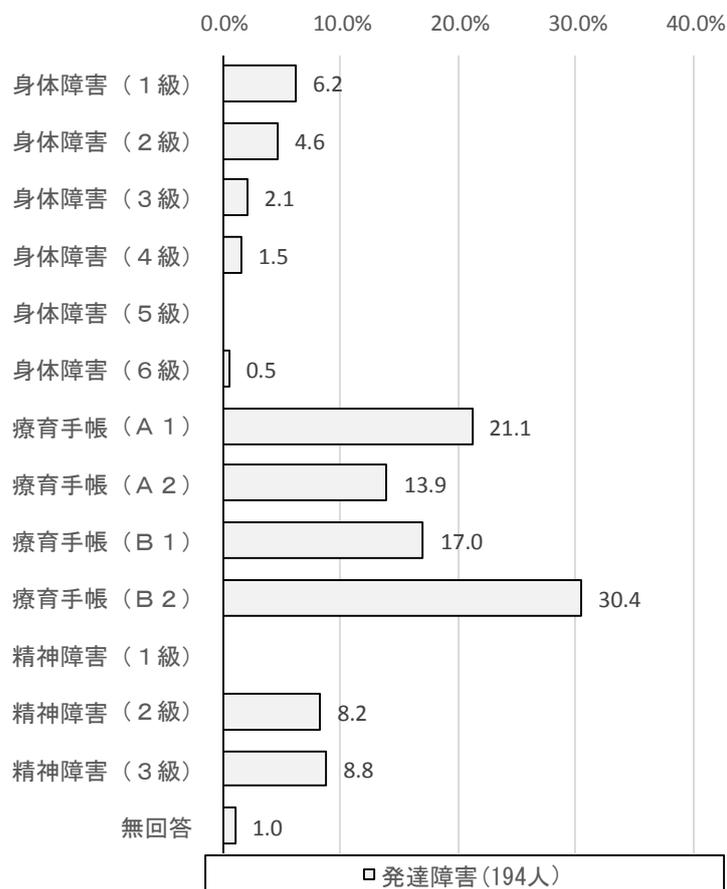


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(2) 障害手帳の手帳種別

療育手帳（B2）が30.4%と最も多く、次に療育手帳（A1）が21.1%、療育手帳（B1）が17.0%、療育手帳（A2）が13.9%の順となっています。

障害者手帳の種類と等級

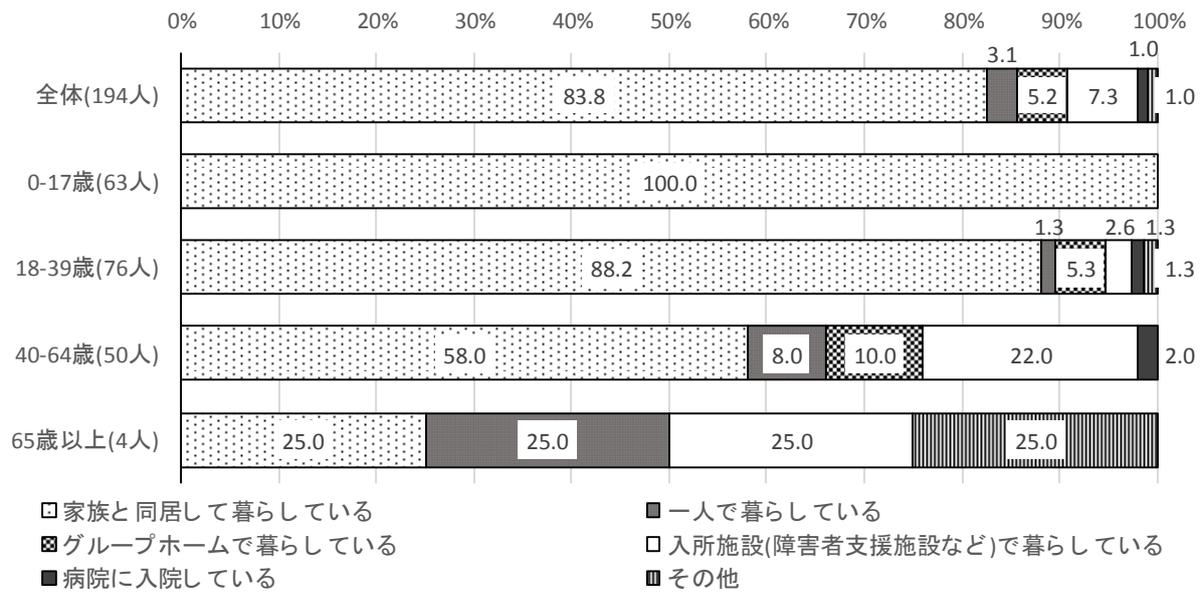


(3) 現在の暮らしの状況

現在、どのように暮らしているかについて、全体の 83.8%は「家族と同居して暮らしている」となっています。

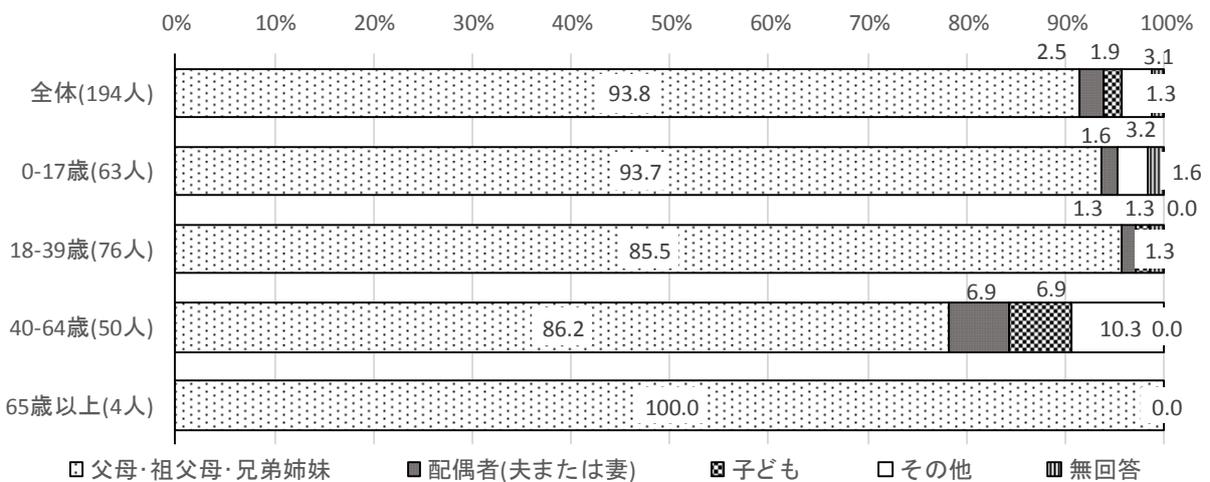
「一緒に暮らしている人」は、全体の 93.8%が「父母・祖父母・兄弟姉妹」となっています。

現在の暮らし、年齢別



※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

一緒に暮らしている人、年齢別



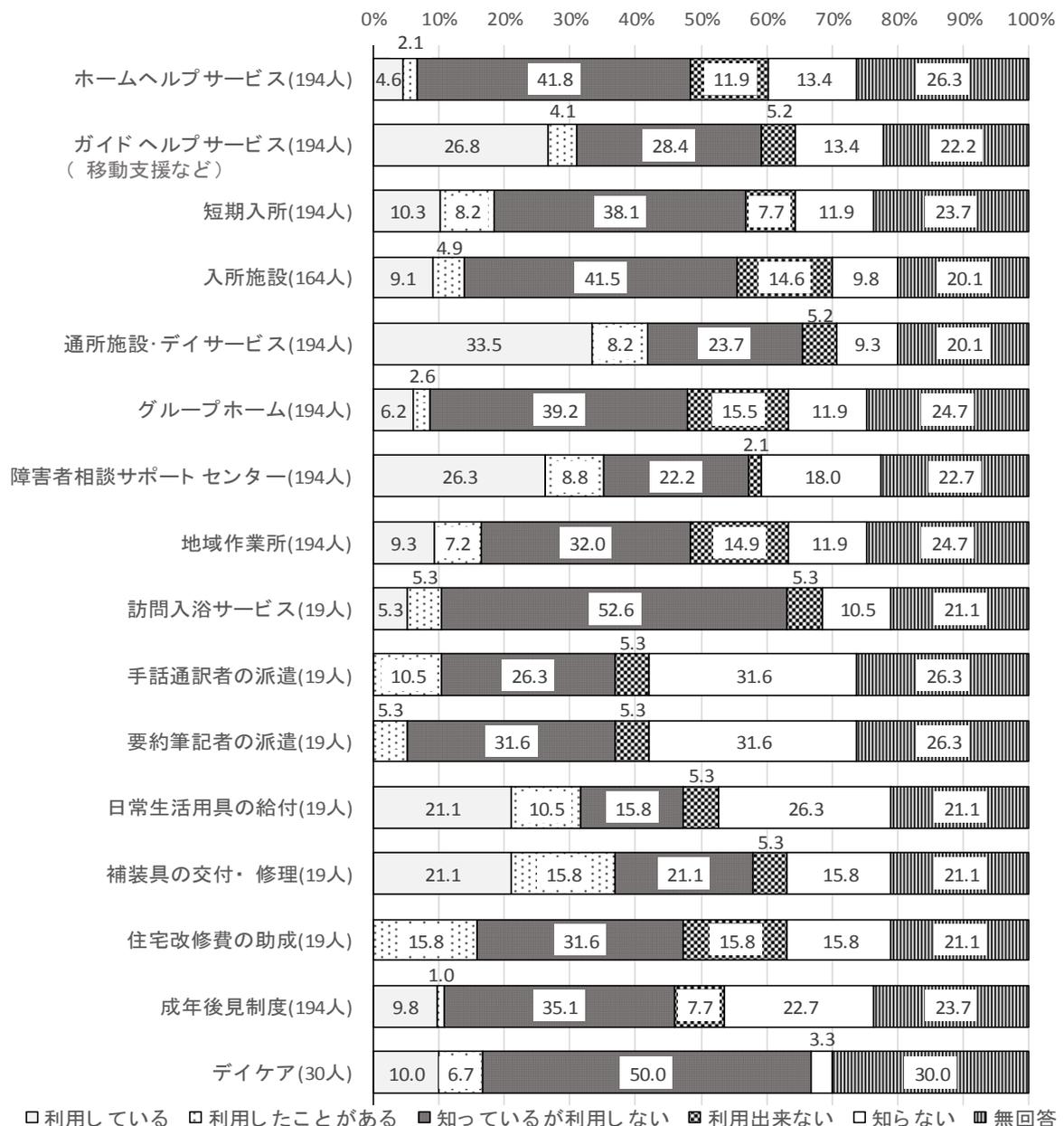
※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(4) 福祉サービスの利用状況

福祉サービスの利用状況は下図の通りです。

対象者の10%以上の人を利用している福祉サービスは、通所施設・デイサービス(33.5%)、ガイドヘルプサービス(26.8%)、障害者相談サポートセンター(26.3%)、日常生活用品の給付(21.1%)、補装具の交付・修理(21.1%)、手話通訳者の派遣(10.5%)、短期入所(10.3%)、デイケア(10.0%)となっています。

福祉サービスの利用状況



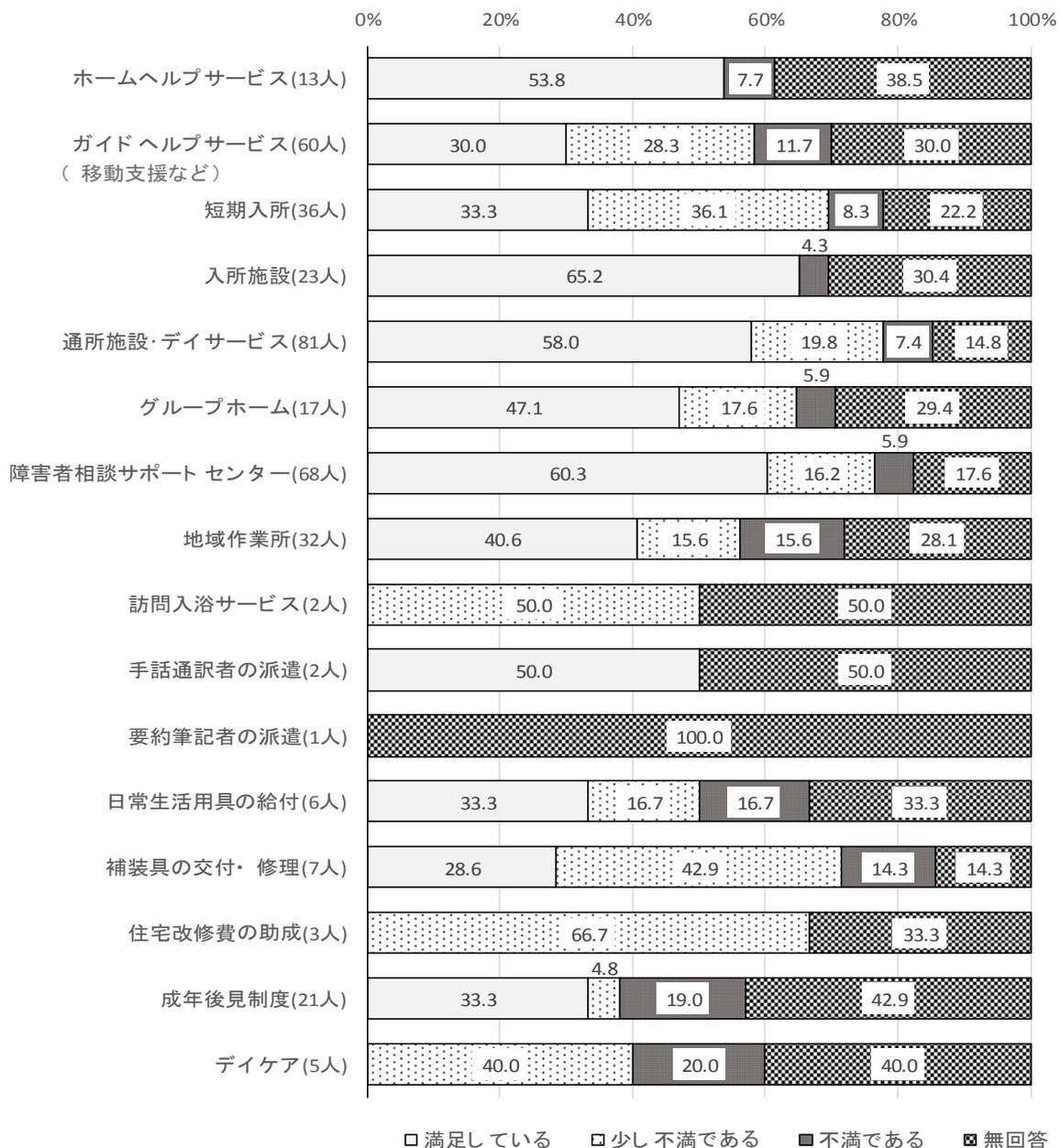
(5) 福祉サービスの満足度（利用経験のある方）

福祉サービスの満足度は下図の通りです。

16のサービスのうち6のサービスにおいて、「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より高くなっています。

中でも、ホームヘルプサービス、入所施設、通所施設・デイサービス、障害者相談サポートセンターは、全体でのアンケート結果と同様に、「満足している」の割合が高い割合になっています。

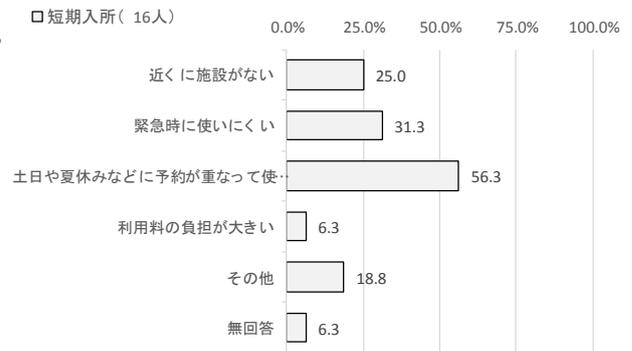
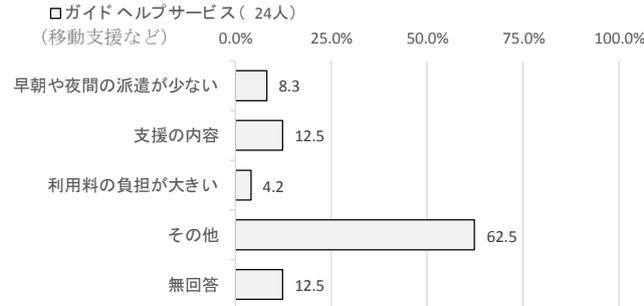
福祉サービスの満足度（利用経験のある方）



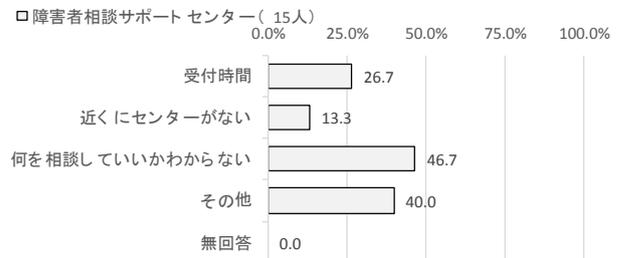
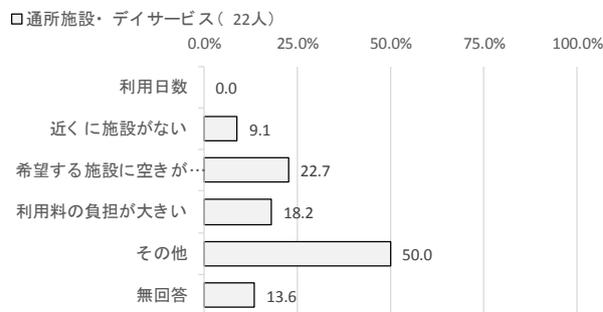
(6) 不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)

福祉サービスの利用における不満の内容は下図の通りです。(5人以上の項目のみ)

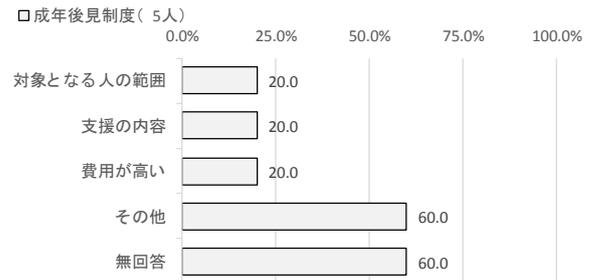
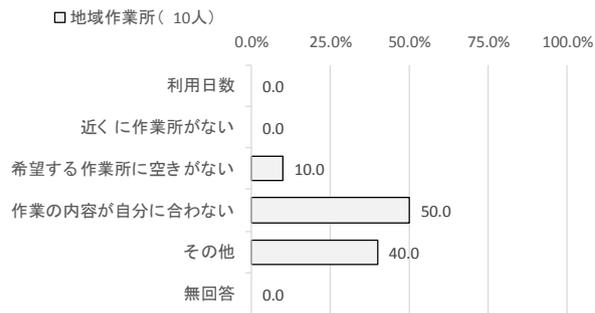
不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)



| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|------------------|----|
| 人手不足 | 4 |
| ヘルパーの質 | 3 |
| 予約ができない | 3 |
| 急に必要になった時に利用できない | 2 |
| ヘルパー不足 | 2 |
| サービス時間が不十分 | 1 |
| 利用できる事務所が少ない | 1 |
| サービス提供不足 | 1 |



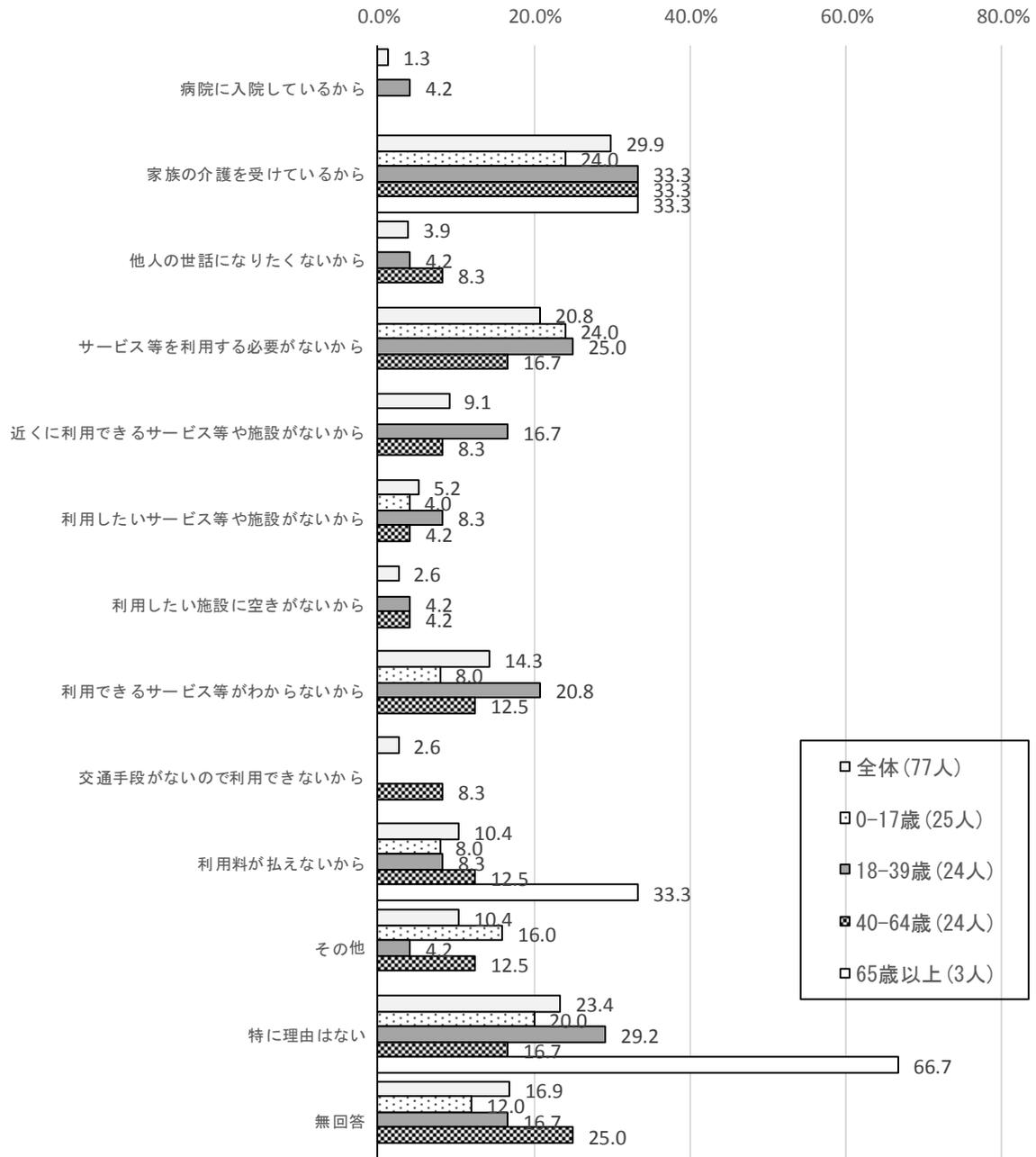
| 「その他」不満の理由 | 件数 |
|--------------|----|
| サービス提供内容が不十分 | 6 |
| サービス時間が不十分 | 3 |
| 人間関係による | 1 |
| 予約ができない | 1 |
| 楽しくない | 1 |
| 手続きの負担 | 1 |
| 人手不足 | 1 |



(7) 福祉サービスを利用していない理由

福祉サービスを利用していない理由は、「家族の介護を受けているから」(29.9%)が最も多く、次いで「特に理由はない」(23.4%)、「サービス等を利用する必要がないから」(20.8%)の順となっています。

サービスを利用していない理由（複数回答）



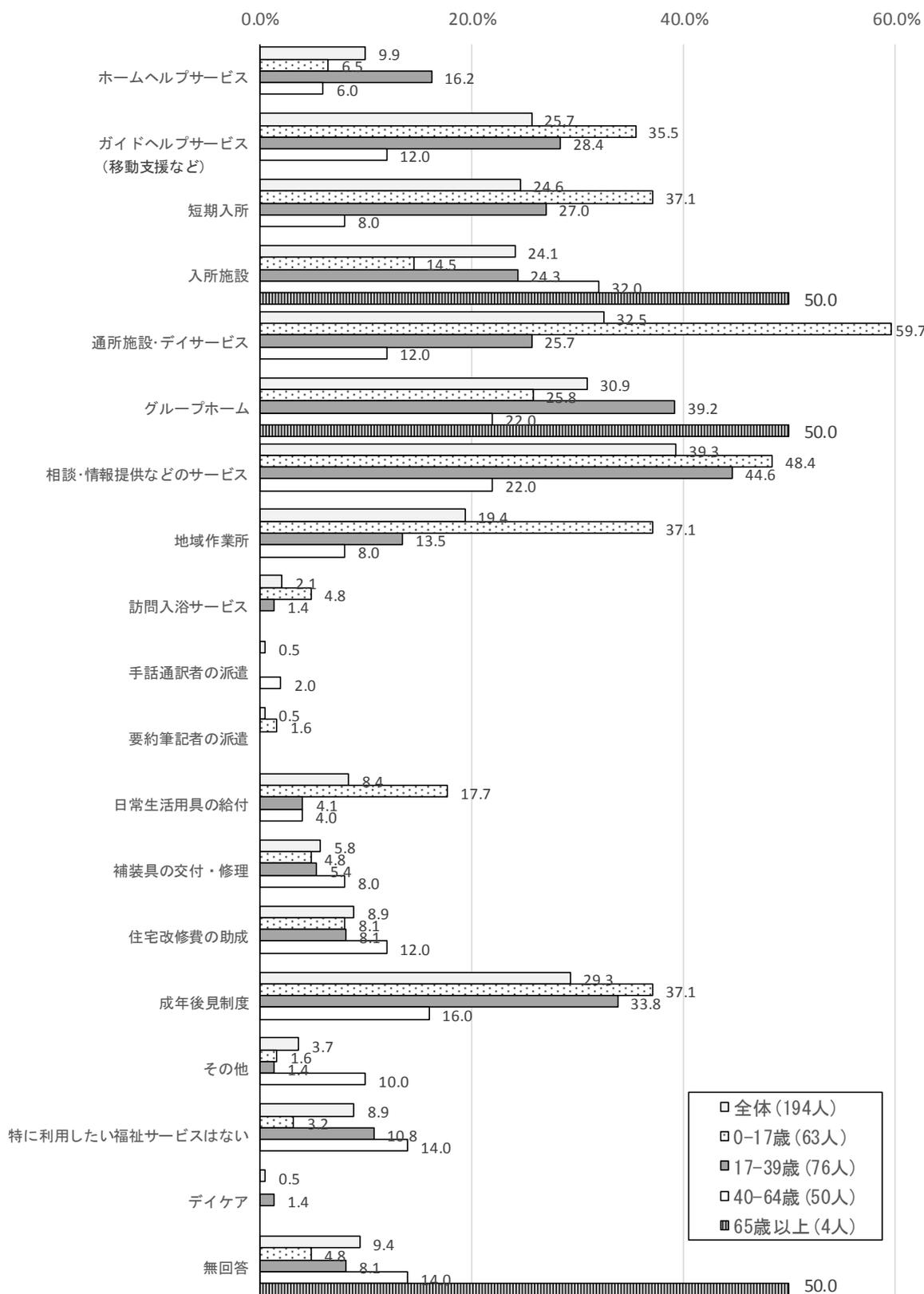
※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(8) 今後の福祉サービスの利用希望

今後利用したい福祉サービス等は、「相談・情報提供などのサービス」(39.3%)が最も多く、次いで「通所施設・デイサービス」(32.5%)、「グループホーム」(30.9%)、「成年後見制度」(29.3%)、「ガイドヘルプサービス」(25.7%)、「短期入所」(24.6%)、「入所施設」(24.1%)の順となっています。

年齢別に最も多いのが、0～17歳は「通所施設・デイサービス」(59.7%)、18～39歳では「相談・情報提供などのサービス」(44.6%)、40～64歳では「入所施設」(32.0%)、65歳以上では「入所施設」(50.0%)と「グループホーム」(50.0%)となっています。

今後利用したいサービス、年齢別(複数回答)

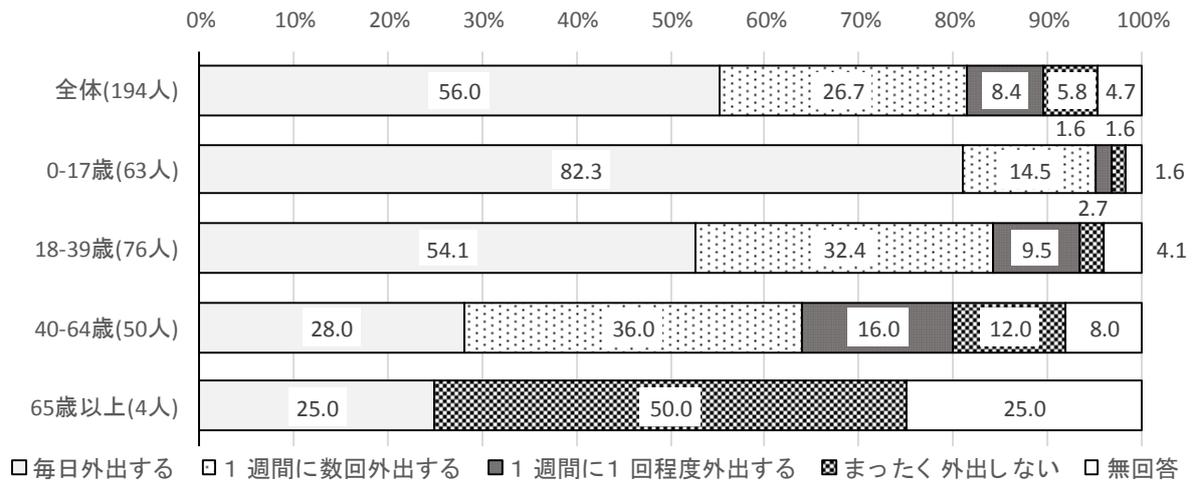


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(9) 1週間の外出頻度

「毎日外出する」が 56.0%、「1週間に数回外出する」が 26.7%となっています。年齢別にみると。0～17歳では「毎日外出する」が 82.3%と多くなっていますが、年齢が進むにつれ減少し、18～39歳では 54.1%、40～64歳では 28.0%、65歳以上では 25.0%となっています。

外出の頻度

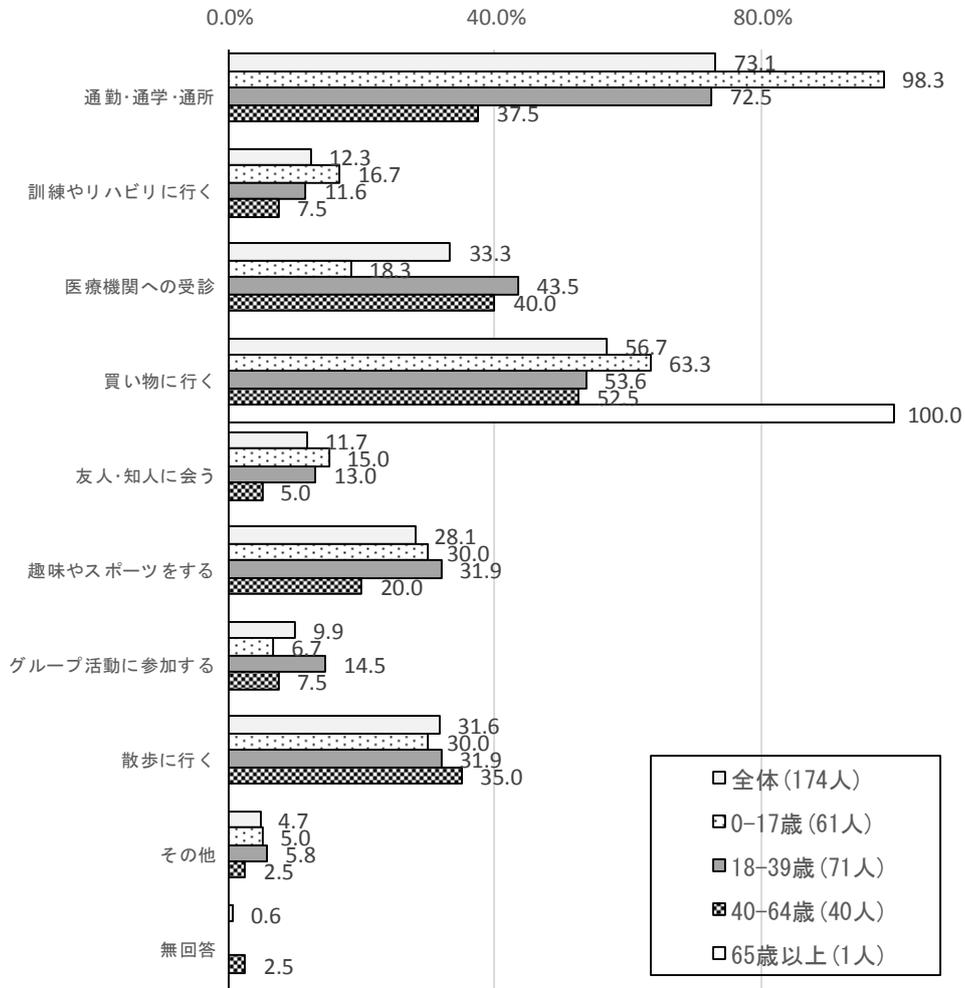


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(10) 外出の目的

「通勤・通学・通所」が73.1%と最も多く、次に「買い物に行く」が56.7%となっています。

外出の目的

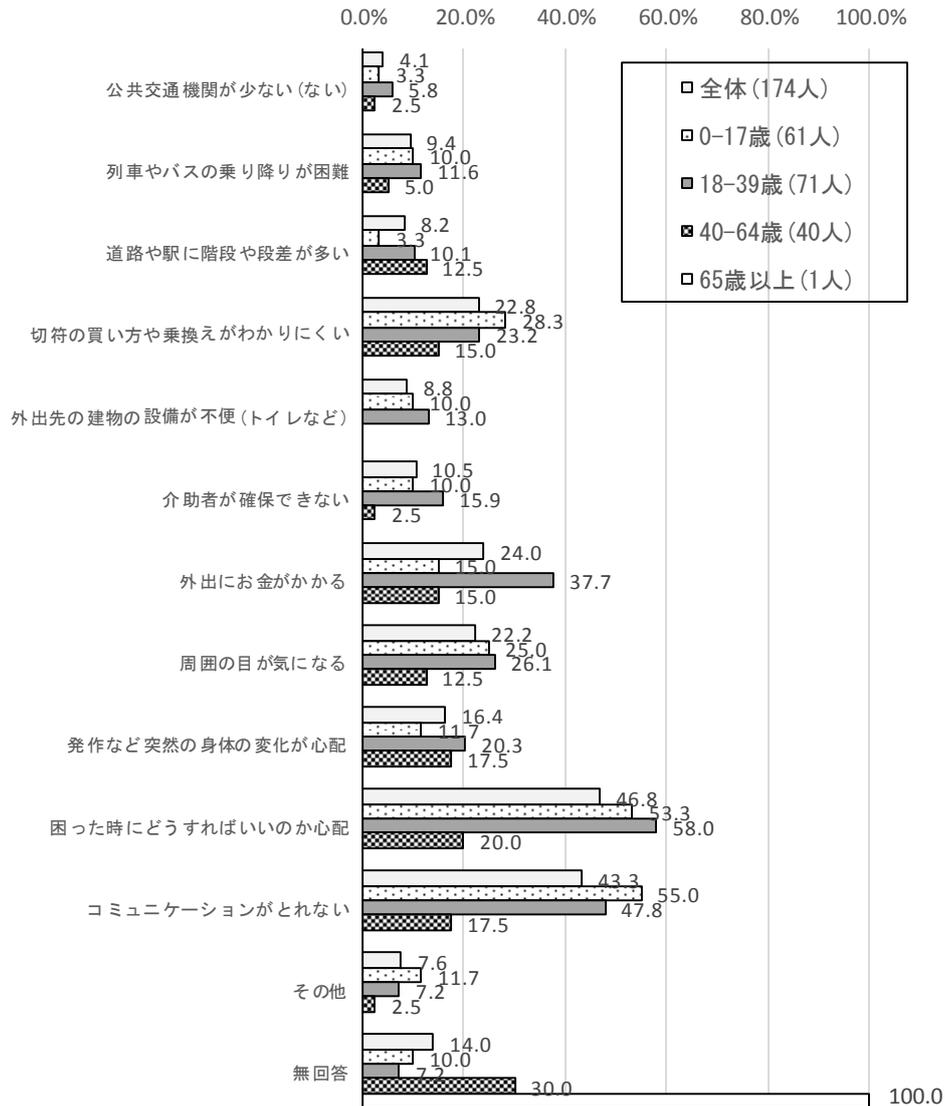


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(11) 外出時に困ること

「困った時にどうすればいいのか心配」が46.8%と最も多く、次に「コミュニケーションがとれない」が43.3%となっています。年齢別にみると、18～39歳では、「外出にお金がかかる」が37.7%とやや多くなっています。

外出時の困りごと

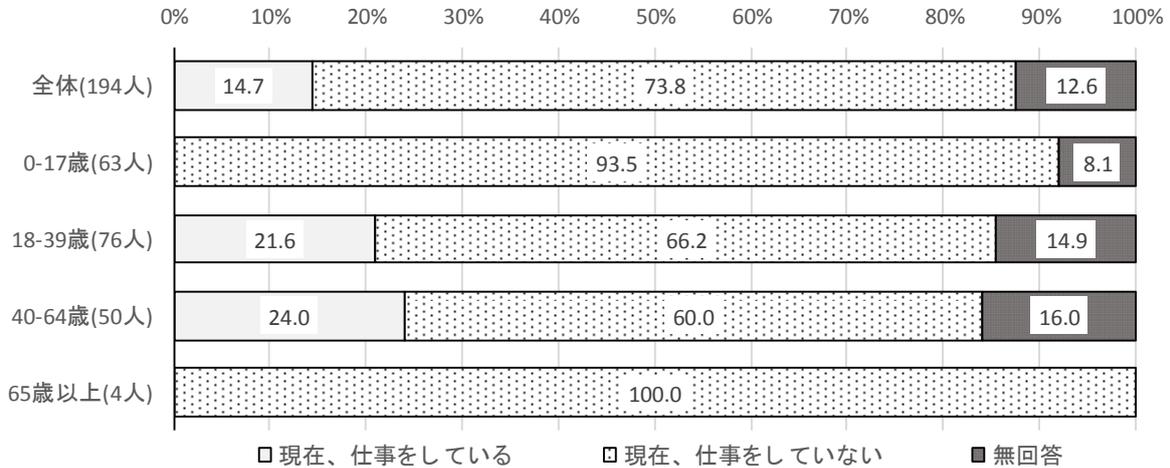


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(12) 仕事の有無

18～39 歳では 21.6%、40～64 歳では 24.0%の人が現在仕事をしています。

現在仕事をしているか

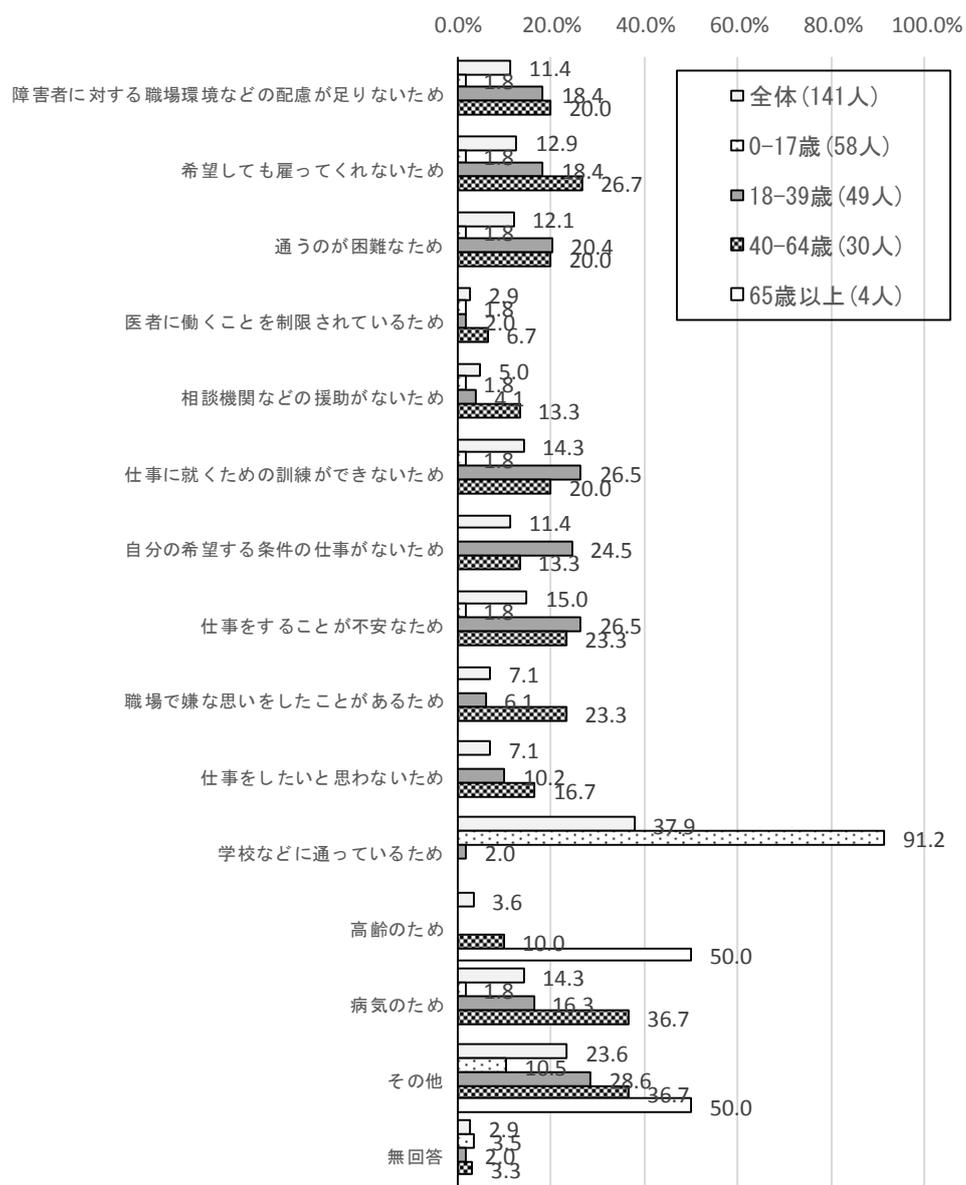


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(13) 現在仕事をしていない事情

仕事をしていない事情は、「学校などに通っているため」が 37.9%と最も多くなっています。年齢別にみると最も多いのが、0～17 歳では「学校などに通っているため」が 91.2%、18～39 歳では「仕事に就くための訓練ができないため」と「仕事をすることが不安なため」が 26.5%、40～64 歳では「病気のため」が 36.7%、65 歳以上では「高齢のため」が 50.0%となっています。

仕事をしていない事情、年齢別(仕事をしていない人) (複数回答)

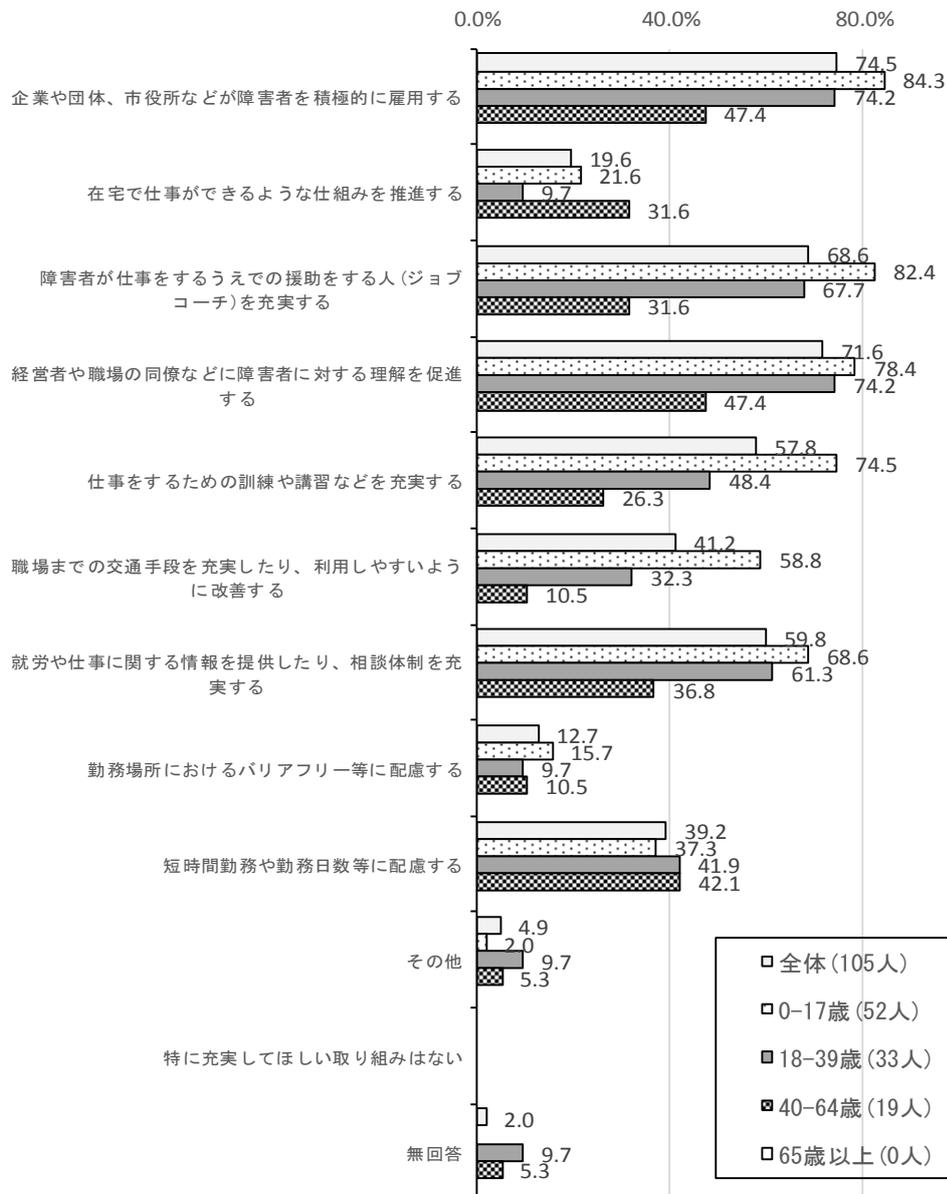


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(14) 働くにあたって充実して欲しい取組

仕事をしている人や今後仕事をしたい人が仕事を選ぶ条件となるのは、多い順に「企業や団体、市役所などが障害者を積極的に雇用する」(74.5%)、「経営者や職場の同僚などに障害者に対する理解を促進する」(71.6%)、「障害者が仕事をするうえでの援助をする人(ジョブコーチ)を充実する」(68.6%)、「就労や仕事に関する情報を提供したり、相談体制を充実する」(59.8%)、「仕事をするための訓練や講習などを充実する」(57.8%)となっています。

働く上で充実してほしいこと(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)(複数回答)

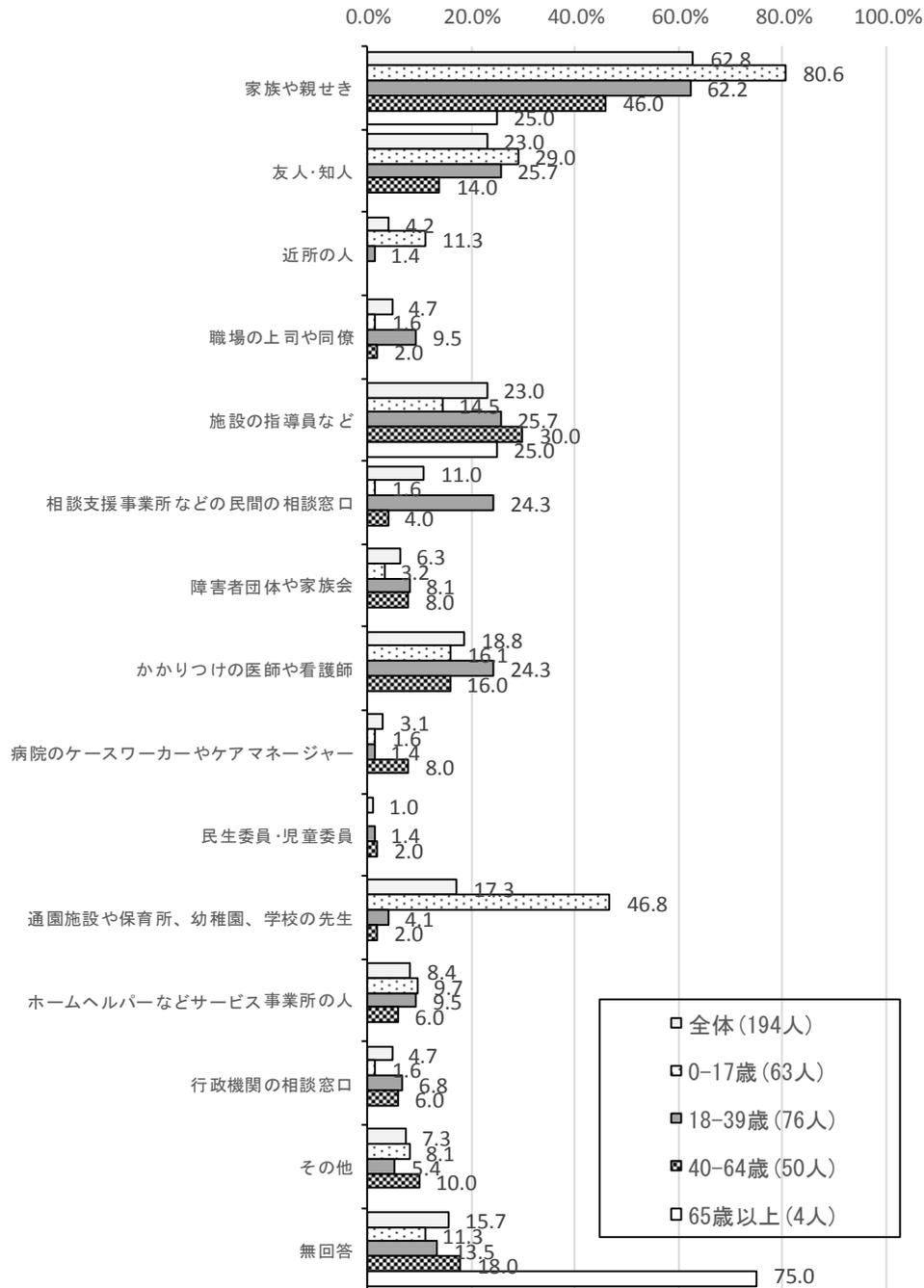


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(15) 悩みや困った時の相談先

全体の62.8%が「家族や親せき」としています。0～17歳では「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」が46.8%と、「家族や親せき」の80.6%に次いで多くなっています。

困ったときの相談先（複数回答）

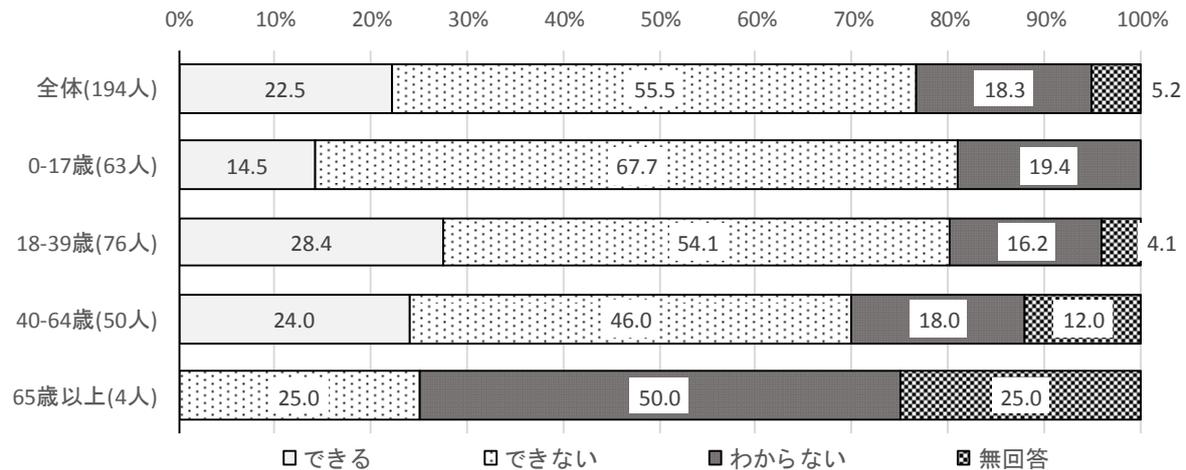


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(16) 火事や地震などの災害時の自力での避難

「できない」が55.5%と半数を超えて最も多くなっています。年齢別でも、0～17歳では67.7%、18～39歳では54.1%、40～64歳では46.0%となっています。

火事や地震等の災害時に一人で避難できるか

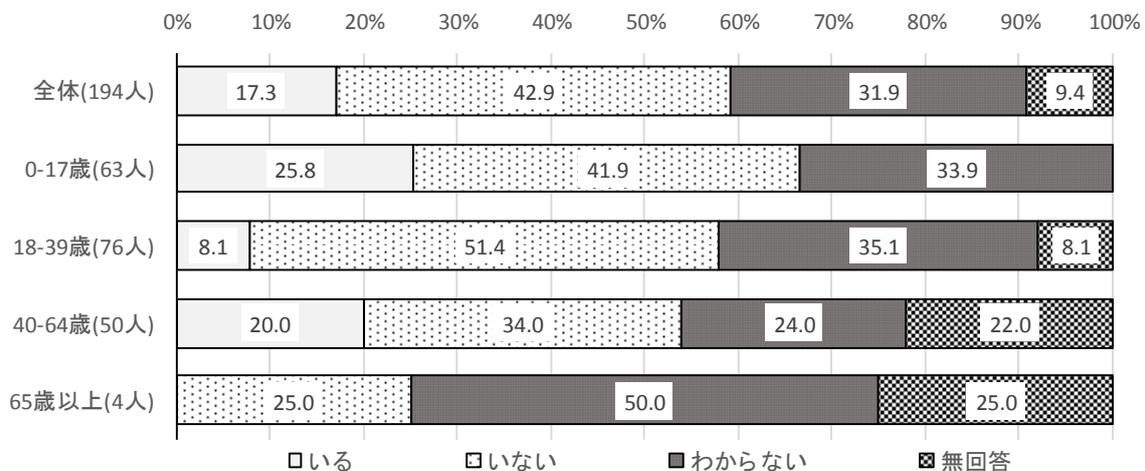


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(17) 近所に助けてくれる人

「いない」が42.9%と最も多くなっています。年齢別でも、0～17歳では41.9%、18～39歳では51.4%、40～64歳では34.0%となっています。

近所にあなただを助けてくれる人はいますか

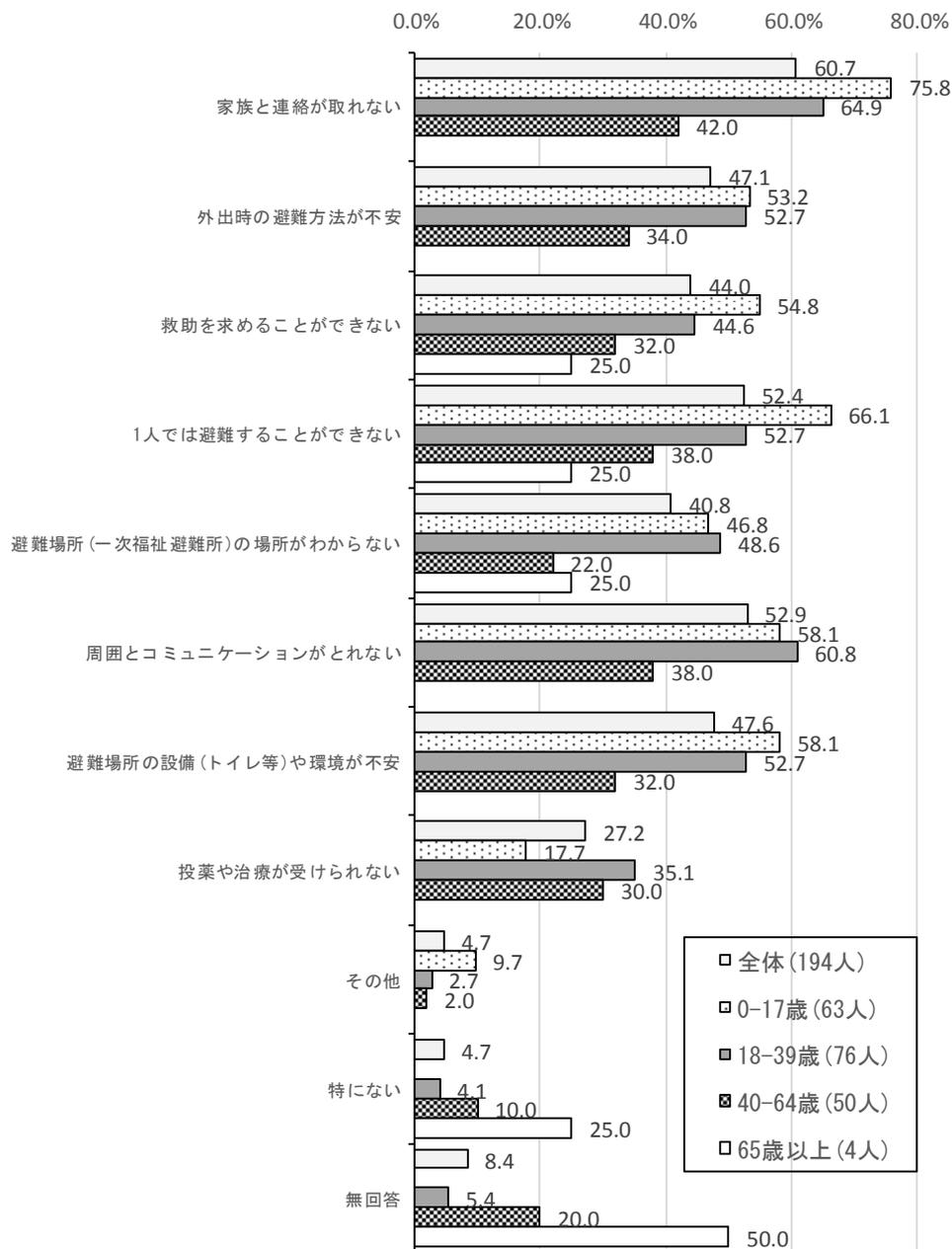


※年齢の間に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(18) 火事や地震等の災害時に不安に思うこと

全体では「家族と連絡が取れない」(60.7%)が最も多くなっています。

火事や地震等の災害時に不安に思うこと(複数回答)

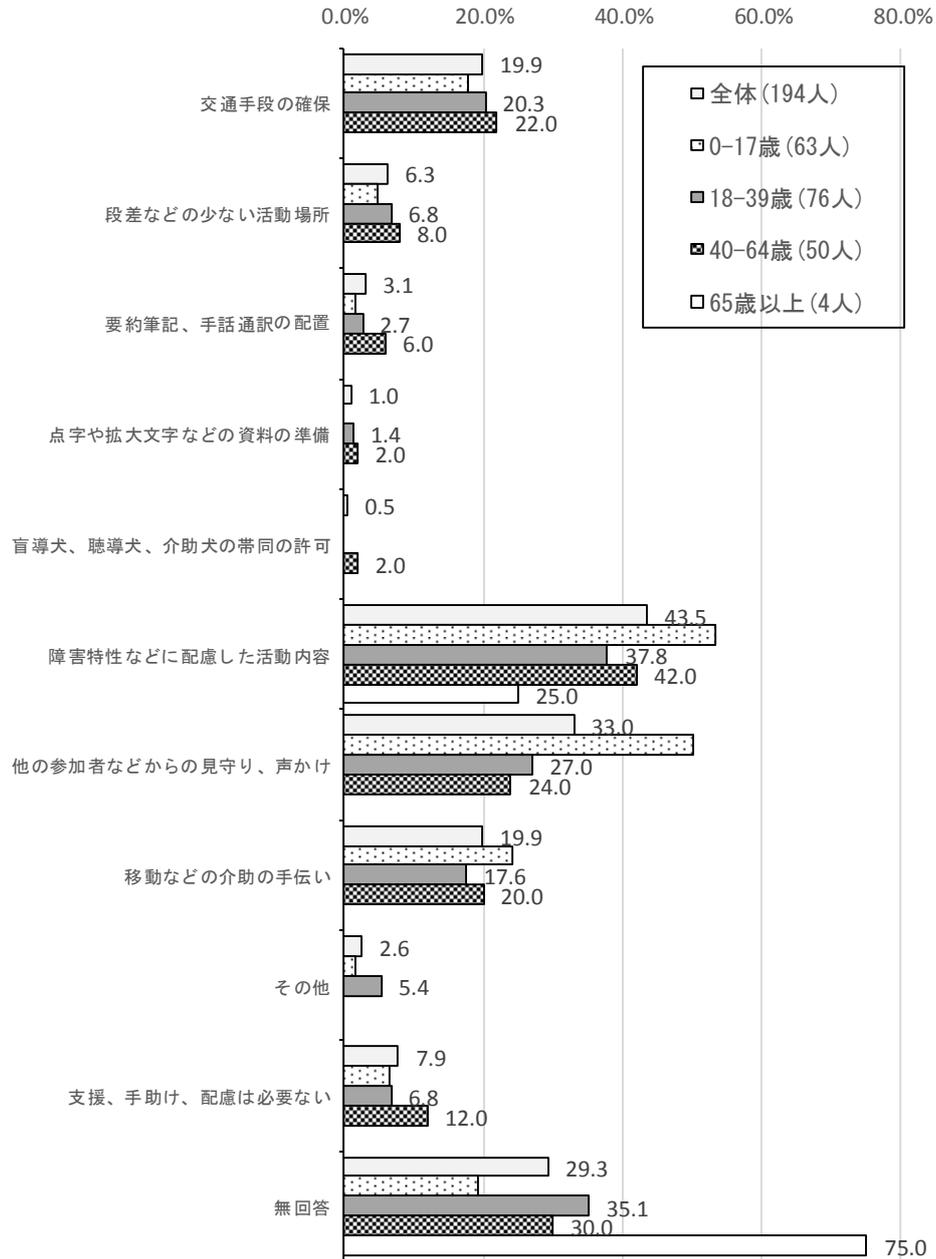


※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

(19) 社会参加をするために必要な支援や手助け、配慮

全体では「障害特性などに配慮した活動内容」(43.5%)が最も多く、次に「他の参加者などからの見守り、声かけ」(33.0%)となっています。

社会参加をするために必要な支援や手助け配慮の内容(複数回答)



※年齢の問に対して無回答があるため、各年齢の合計と全体の人数は一致しない。

資料編

- 身体障害者（65歳未満の身体障害者手帳所持者）
- 知的障害児者（療育手帳所持者）
- 精神障害者（65歳未満の精神障害者保健福祉手帳所持者）
- 特定医療費（指定難病）受給者証所持者

横須賀市障害福祉アンケート調査調査結果報告書

平成29（2017）年12月

横須賀市福祉部障害福祉課

〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町11番地

TEL：046-822-9398 FAX：046-825-6040

E-mail：hp-hw@city.yokosuka.kanagawa.jp